



INKJET PRINTER

DiPO Partner 取扱説明書
(各機種に対応)



株式会社
新盛インダストリーズ

目 次

はじめに.....	- 6 -
第 1 章 インストール方法	- 7 -
1 インストールの前に	- 7 -
2 DiPO Partner のインストール	- 7 -
第 2 章 DiPO Partner の起動	- 10 -
第 3 章 DiPO Partner のホーム画面	- 11 -
第 4 章 ツールボックス	- 12 -
1 日付項目	- 12 -
(1) 一年補正日付	- 13 -
(2) 半年補正日付	- 13 -
(3) 日付+時刻	- 13 -
2 文字項目	- 14 -
(1) 文字項目	- 15 -
(2) 数字項目	- 15 -
(3) 英数字項目	- 16 -
(4) 単位項目	- 16 -
(5) 産地項目	- 17 -
(6) 日付付帯文字	- 18 -
(7) レイアウト名項目	- 18 -
(8) ナンバーリング項目	- 19 -
3 バーコード項目	- 20 -
(1) JAN13	- 21 -
(2) JAN8	- 21 -
(3) QR	- 21 -
(4) EAN128	- 21 -
(5) CODE39	- 22 -
(6) NW7	- 22 -
(7) CODE128	- 22 -
(8) ITF	- 22 -
4 直線項目	- 23 -
(1) 直線項目	- 24 -
(2) 斜線項目	- 24 -
(3) 四角形項目	- 24 -
5 イメージ項目	- 25 -
(1) ファイルからイメージを取り込む	- 26 -
(2) サンプルからイメージを取り込む	- 26 -
6 価格項目	- 27 -
第 5 章 プロパティ	- 28 -
1 共通項目プロパティ	- 28 -
(1) データ元 (データ・ソース) / データタブ	- 28 -
A 固定データ	- 28 -
B 可変データ	- 29 -
C テーブルから取得	- 29 -
D 合成	- 30 -
E リンク	- 32 -
F 演算	- 33 -

(2) 入力方式／データタブ	- 35 -
(3) 一時変更設定／データタブ	- 35 -
(4) 印刷設定／詳細タブ	- 36 -
(5) フォント設定／詳細タブ	- 37 -
2 各項目プロパティ	- 38 -
(1) 日付項目のプロパティ	- 38 -
A データタブ	- 38 -
【一時変更設定の補足説明】	- 39 -
B 詳細タブ	- 54 -
(2) 時刻項目プロパティ	- 57 -
A データタブ	- 57 -
B 詳細タブ	- 58 -
(3) 文字項目のプロパティ	- 60 -
A データタブ	- 60 -
B 詳細タブ	- 61 -
C ナンバーリングタブ	- 63 -
(4) バーコード項目のプロパティ	- 65 -
A データタブ	- 65 -
B 詳細タブ	- 66 -
(i) バーコード（一次元コード）を設定する	- 67 -
(ii) 詳細設定（NW7）	- 68 -
(iii) 付帯文字フォント	- 69 -
(iv) QR を設定する	- 70 -
(v) PDF417 を設定する	- 71 -
(vi) GS1 DataBar を設定する	- 72 -
C ナンバーリングタブ	- 73 -
(5) 線項目のプロパティ	- 74 -
(6) 四角形項目のプロパティ	- 75 -
(7) イメージ項目のプロパティ	- 76 -
(8) 価格項目のプロパティ	- 77 -
A データタブ	- 77 -
B 詳細タブ	- 78 -
3 レイアウトプロパティ	- 79 -
第6章 ショートカットメニュー	- 80 -
1 レイアウトタブのショートカットメニュー	- 80 -
2 レイアウトエリアのショートカットメニュー	- 82 -
3 項目一覧エリアのショートカットメニュー	- 85 -
第7章 メインツールバー	- 86 -
1 ファイル	- 86 -
(1) 新規	- 87 -
A ファイル	- 87 -
B レイアウト	- 88 -
(2) 開く	- 89 -
(3) 別ウィンドウでファイルを開く	- 90 -
(4) 上書き保存	- 91 -
(5) 名前を付けて保存	- 91 -
(6) インポート	- 92 -
A テーブル	- 92 -
B レイアウト	- 93 -

(7) エクスポート	- 95 -
(8) パスワードでデータ保護	- 97 -
(9) データファイル情報設定	- 100 -
(10) 情報	- 101 -
(11) データ互換性情報確認	- 102 -
(12) 終了	- 103 -
2 ホーム	- 104 -
(1) クリップボード	- 104 -
A コピー&貼り付け	- 104 -
B コピー	- 104 -
C 切り取り	- 105 -
D 貼り付け	- 105 -
(2) フォント	- 106 -
A フォント種類	- 106 -
B フォント名	- 106 -
C 太字/ 斜体/ 下線	- 107 -
D フォントサイズ	- 107 -
E 横倍率 / 縦倍率	- 107 -
F フォント幅 / フォント長	- 108 -
G 文字間隔	- 108 -
(3) 項目配置	- 109 -
A 揃え	- 109 -
B 順序	- 110 -
C 文字揃え	- 110 -
D ショートカットアイコン	- 111 -
E グループ / グループを解除	- 112 -
F 項目幅を最大幅に揃える / 項目幅を最小幅に揃える	- 112 -
(4) 座標	- 113 -
(5) 線	- 113 -
(6) 通信	- 114 -
A 送信	- 114 -
B 画面印刷	- 114 -
C DiPO情報	- 115 -
D DiPO接続	- 116 -
【ペアリング方法】	- 118 -
3 表示	- 123 -
(1) 画面表示	- 123 -
A 画面拡大率設定	- 123 -
B 背景グリッド	- 123 -
C グリッド設定	- 124 -
D その他	- 125 -
(2) レイアウト	- 126 -
A 項目プロパティ設定画面をリアルタイム更新	- 126 -
B 線項目同士を移動時に自動結合	- 126 -
C 一時変更有効項目の背景色	- 126 -
(3) クイックアクセスツールバーの位置	- 127 -

4	レイアウト	- 128 -
(1)	全項目	- 128 -
A	全項目を選択	- 128 -
B	全項目を削除	- 128 -
C	全項目をロック	- 128 -
(2)	データ	- 129 -
A	画像を元サイズに戻す	- 129 -
B	プロパティ	- 130 -
5	テーブル編集	- 131 -
(1)	テーブル新規作成	- 131 -
A	マルチテーブル作成	- 132 -
(i)	プロパティ	- 135 -
(ii)	CSVデータを読み込	- 136 -
(iii)	CSV形式で保存	- 137 -
B	コードテーブル作成	- 138 -
(i)	プロパティ	- 141 -
(ii)	CSVデータを読み込	- 142 -
(iii)	CSV形式で保存	- 143 -
(2)	テーブル編集	- 144 -
A	ショートカットメニューを使う	- 145 -
(i)	フィールドのプロパティ	- 147 -
(ii)	テーブルキー項目の番号自動作成	- 148 -
(3)	テーブル削除	- 149 -
(4)	履歴	- 150 -
6	ツール	- 153 -
(1)	印刷範囲	- 153 -
A	全項目の印刷領域を確認	- 153 -
(i)	チェックが正常に終了しなかった場合	- 154 -
B	テーブル関連項目の印刷領域を確認	- 155 -
(i)	チェックが正常に終了しなかった場合	- 156 -
(2)	オプション	- 157 -
(3)	サンプル取得	- 159 -
A	新盛のサンプルデータ	- 159 -
B	ユーザ定義サンプルデータ	- 161 -
第8章 クイックアクセスツールバー		- 162 -
1	DiPO アイコン	- 162 -
2	新規作成	- 163 -
(1)	ファイル	- 163 -
(2)	レイアウト	- 163 -
3	開く	- 164 -
4	上書き保存	- 165 -
5	元に戻す	- 165 -
6	やりなおす	- 165 -
7	拡大	- 166 -
8	縮小	- 166 -
9	送信	- 166 -

はじめに

DiP0 Partner の概要

DiP0 Partner は、インクジェットプリンターDiP0（以下、DiP0 と言います。）の印刷データの作成・編集ソフトです。

パソコン上で DiP0 の印刷データを容易に作成・編集することができます。

※なお、DiP0 の操作方法につきましては、付属の操作編 取扱説明書をお読みください。

DiP0 Partner の動作環境

DiP0 Partner の動作環境は、次のとおりです。
ご使用になる前にパソコンの仕様をご確認ください。

- ・ OS : Windows7/8/8.1/10
- ・ CPU : 32 ビット版、64 ビット版
- ・ メモリ : 1 GB 以上 (Windows7/8/8.1/10)
- ・ ハードディスク : 200MB 以上
- ・ 解像度 : 1024 X 768 以上 (画面の色は 16 ビット以上)

第1章 インストール方法

1 インストールの前に

DiPO Partner をインストールするために同梱されている次のものをご準備ください。

- ・ DiPO Partner 取扱説明書（本書）
- ・ DiPO 本体
- ・ 付属 USB メモリ

2 DiPO Partner のインストール

Windows の各バージョンのインストール画面は、ほぼ同じになりますので、Windows7 に基づいて説明します。

- ①起動中のアプリケーションをすべて終了します。
- ②付属の USB メモリをパソコンの USB ドライブに挿入します。



- ③次のような画面が表示されますので、[DiPO Partner] をクリックしてください。

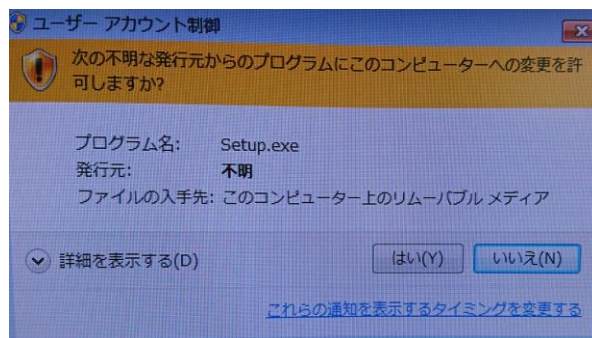
名前	更新日時	種類
bmp	2018/04/10 13:37	ファイル フォルダー
DiPO Partner	2018/04/10 13:37	ファイル フォルダー
DOC	2018/04/10 13:37	ファイル フォルダー
icon	2018/04/10 13:37	ファイル フォルダー
other	2018/04/10 13:37	ファイル フォルダー
autorun	2017/03/31 14:22	セットアップ情報
guide	2008/07/24 9:24	アプリケーション
guide	2018/04/09 15:13	構成設定
readme	2017/03/30 15:06	テキスト文書

※フォルダ「DOC」には、取扱説明書（操作編/DiPO Partner）が保存されています。

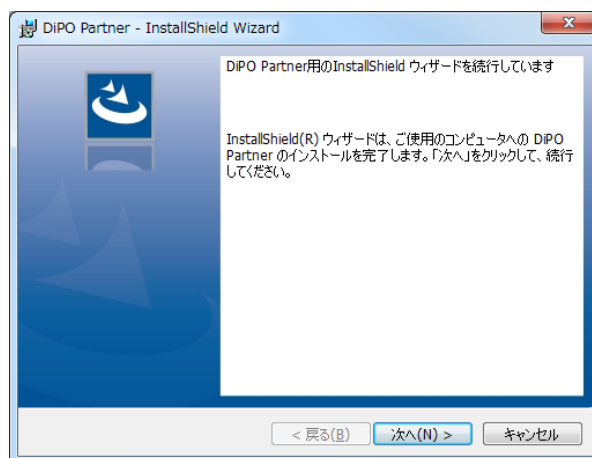
④次のような画面が表示されますので、[Setup] をクリックしてください。

名前	更新日時	種類
 Setup	2018/01/31 12:42	アプリケーション

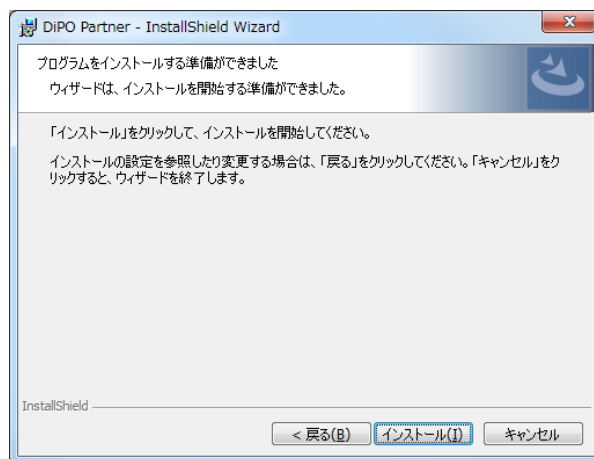
⑤次のような画面が表示されますので、[はい] をクリックしてください。



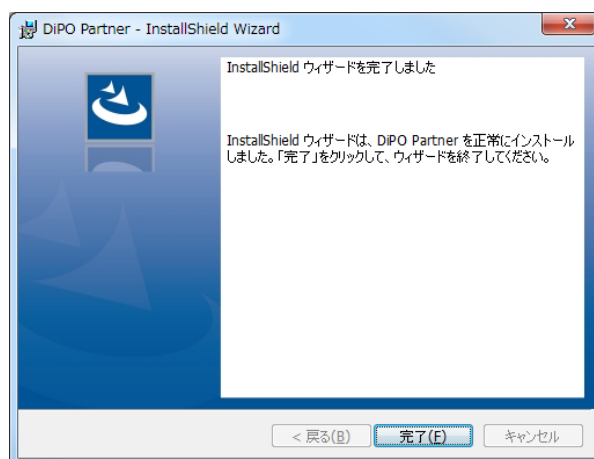
⑥次のような画面が表示されますので、[次へ] をクリックしてください。



⑦次のような画面が表示されますので、インストールをクリックしてください。

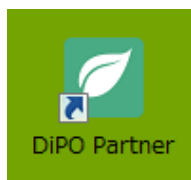


⑧次のような画面が表示されたら DiPO Partner がインストール完了となります。



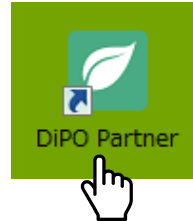
※完了画面が表示されない場合は、弊社までお問い合わせください。

⑨自動的にデスクトップ上に DiPO Partner のアイコンが作成されます。



第2章 DiPO Partner の起動

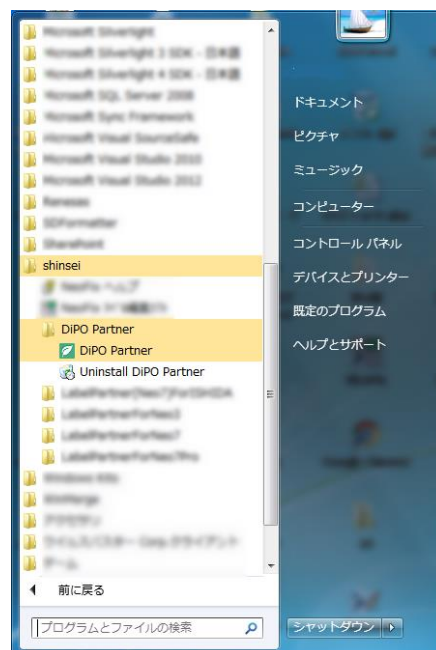
■デスクトップ上に作成された DiPO Partner アイコンから起動します。



※すでに DiPO ファイルが作成されている場合は、DiPO ファイルアイコンからでも起動することができます。



※スタート⇒全てのプログラム⇒shinsei⇒DiPO Partner からでも起動することができます。

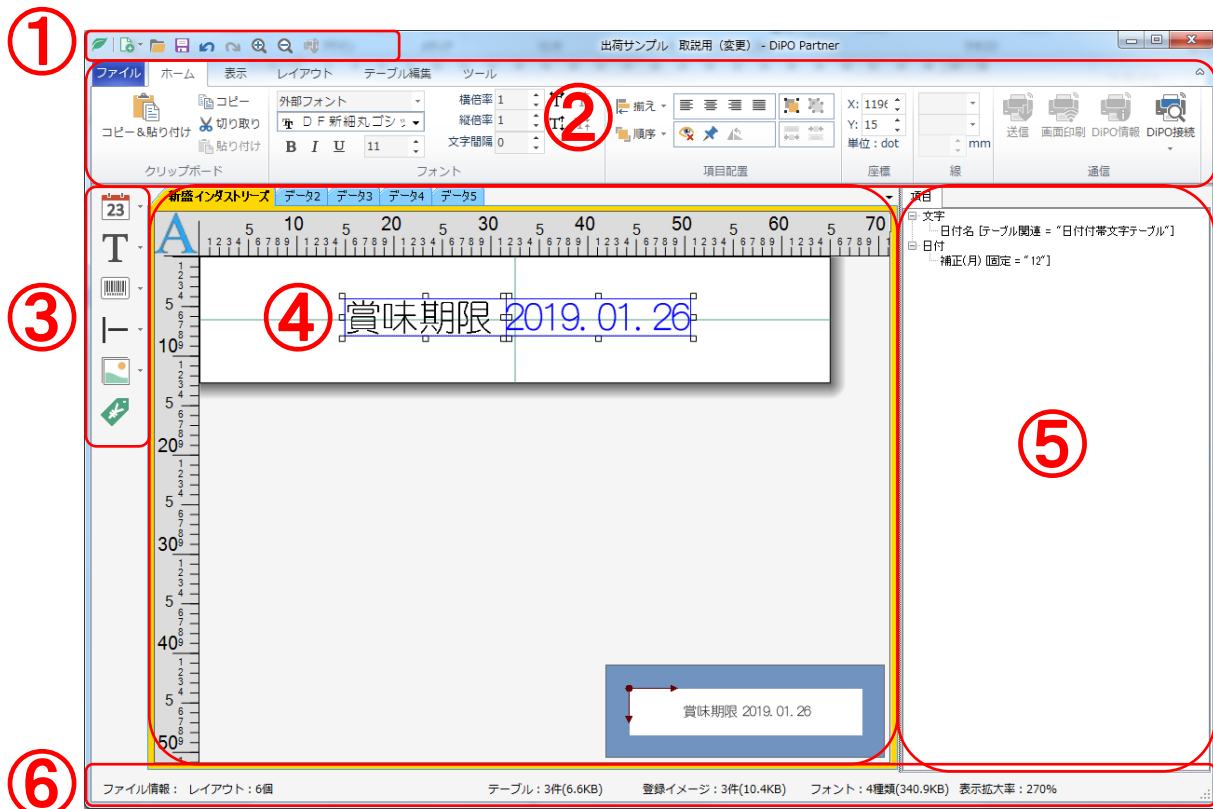


第3章 DiPO Partner のホーム画面

1. デスクトップ上に作成された DiPO ファイルアイコンをクリックします。



2. DiPO Partner のホーム画面

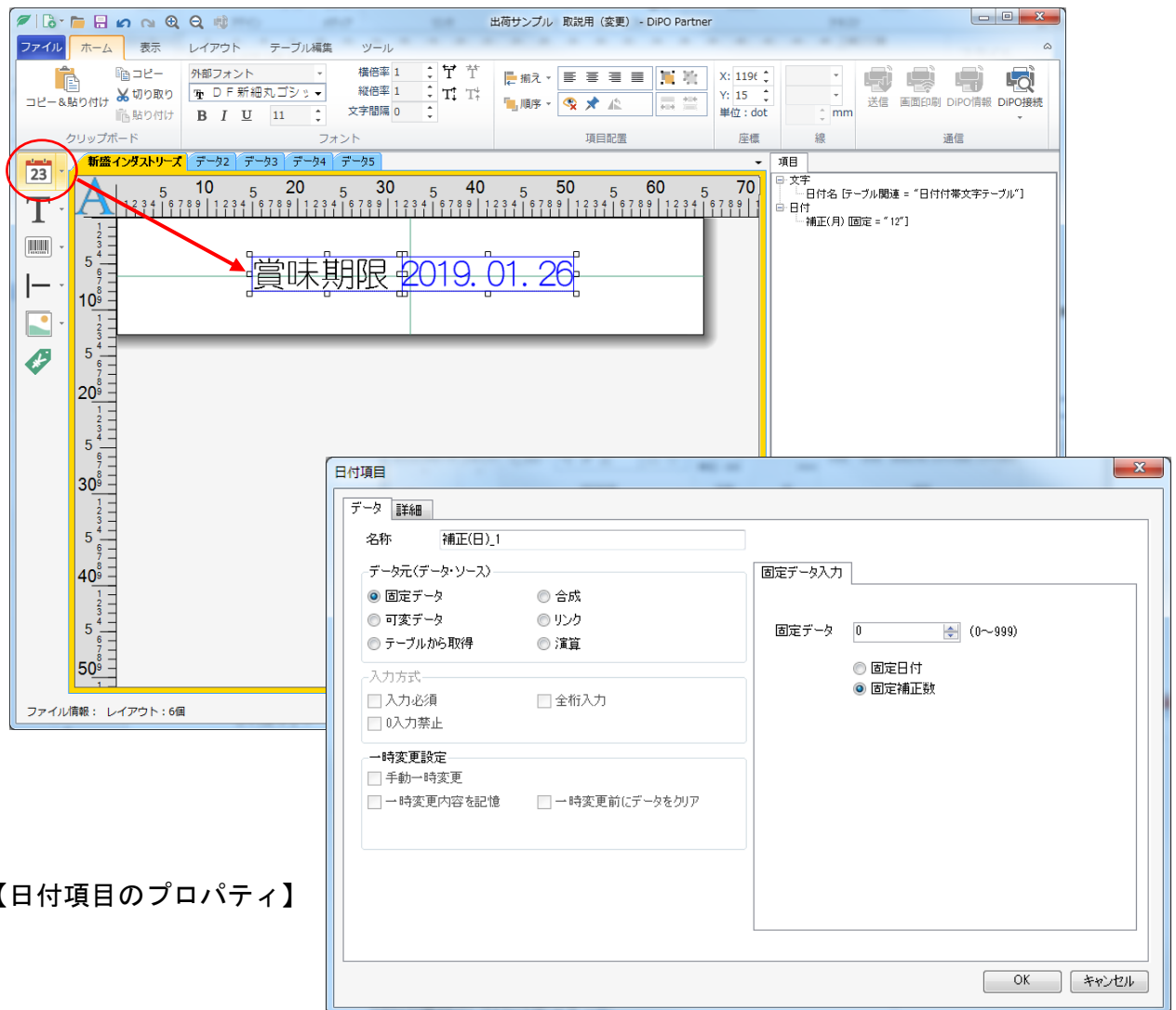


- ①クイックアクセスツールバー --- よく使うコマンドが表示されます。
- ②メインツールバー ----- グループ化された各種コマンドが表示されます。
- ③ツールボックス ----- 各項目をレイアウトします。
- ④レイアウトエリア ----- 各項目をレイアウトするエリアです。
また、タブを追加することによりレイアウトを追加することができます。
(最大 100 レイアウトまで作成できます。)
- ⑤項目一覧エリア ----- レイアウトした項目が一覧表示されます。
- ⑥ステータスバー ----- 現在編集しているファイルや表示中のレイアウトに関する情報が表示されます。

第4章 ツールボックス

1 日付項目

■レイアウトエリアに日付項目をレイアウトします。



【日付項目のプロパティ】

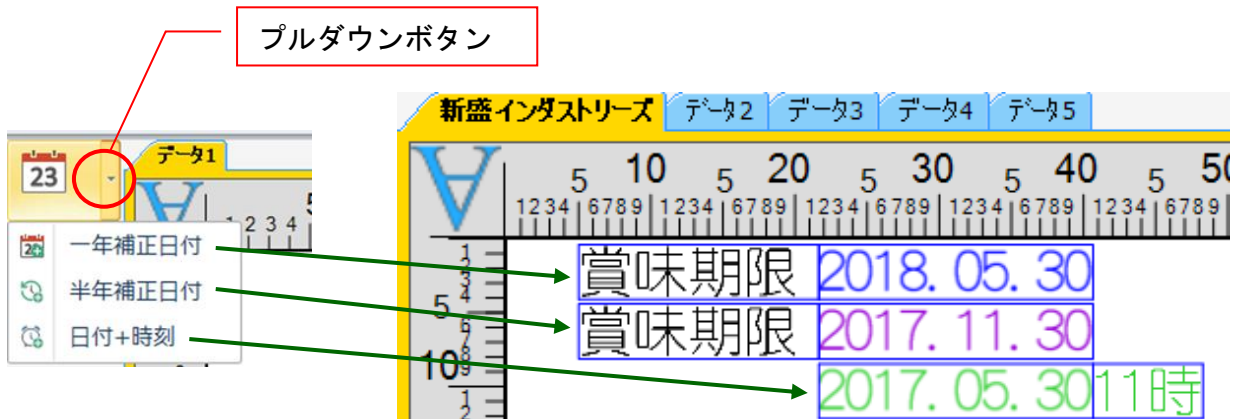
日付項目アイコンをクリック後、レイアウトエリア内でクリックすると日付項目がレイアウトされます。

また、レイアウトされた日付項目をダブルクリックすると、日付項目のプロパティが開き設定を変更する事ができます。

※日付項目のプロパティについては、[第5章2-(1) 日付項目のプロパティ]をご参照ください。

【日付項目のプルダウンメニュー】

- プルダウンボタンをクリックするとプルダウンメニューが表示され各日付項目をレイアウトします。



(1) 一年補正日付

あらかじめ一年（12ヶ月）の補正を行うように設定された日付項目をレイアウトします。
 プルダウンボタンをクリックするとプルダウンメニューが表示され「一年補正日付」をクリックし、レイアウトエリア内でクリックするとレイアウトすることができます。（上図参照）
 文字項目及び日付項目の設定は、プロパティで変更することができます。
 ※文字項目の設定変更については、[第5章2－(3) 文字項目のプロパティ]をご参照ください。
 ※日付項目の設定変更については、[第5章2－(1) 日付項目のプロパティ]をご参照ください。

(2) 半年補正日付

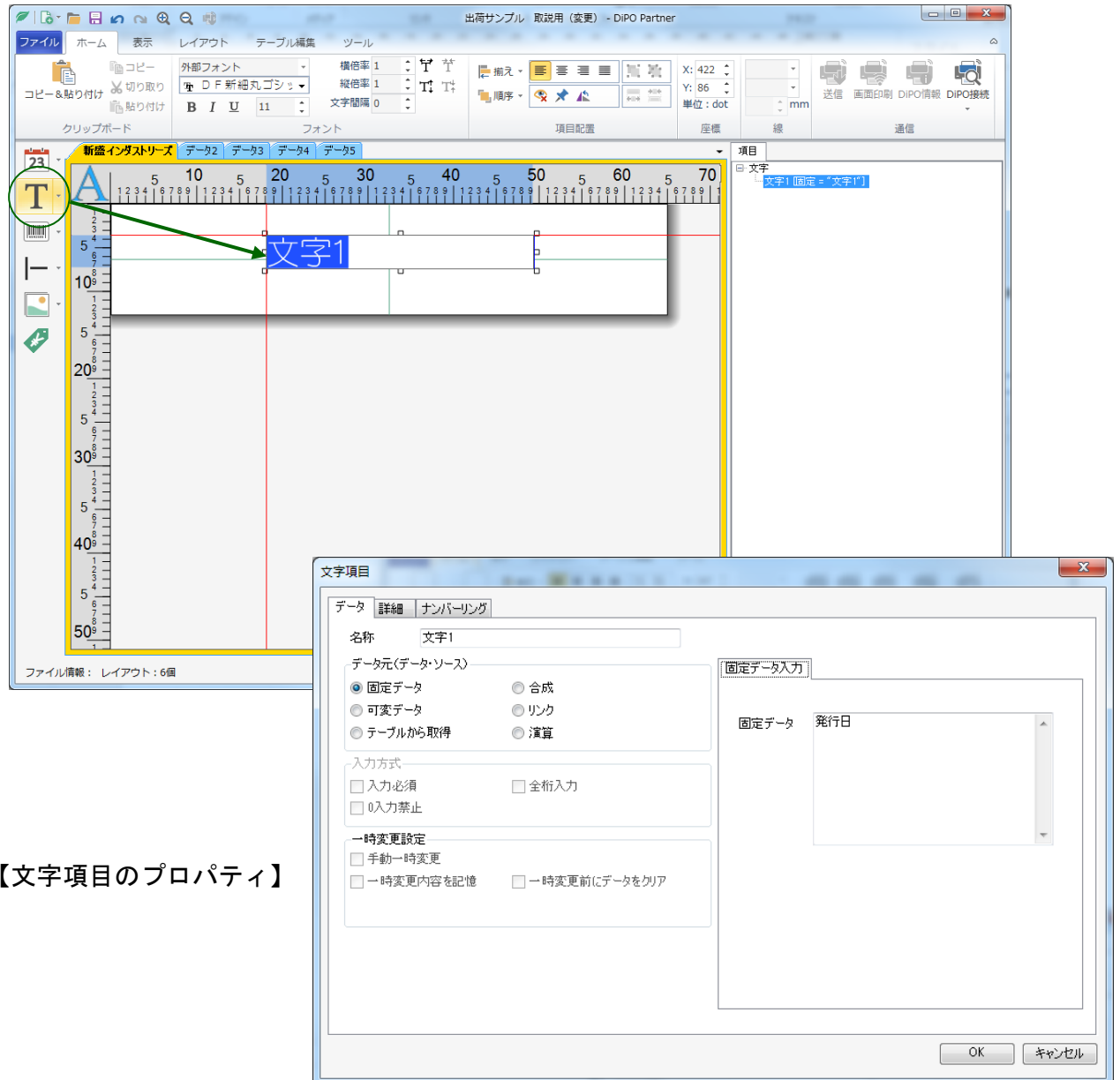
あらかじめ半年（6ヶ月）の補正を行うように設定された日付項目をレイアウトします。
 プルダウンボタンをクリックするとプルダウンメニューが表示され「半年補正日付」をクリックし、レイアウトエリア内でクリックするとレイアウトすることができます。（上図参照）
 文字項目及び日付項目の設定は、プロパティで変更することができます。
 ※文字項目の設定変更については、[第5章2－(3) 文字項目のプロパティ]をご参照ください。
 ※日付項目の設定変更については、[第5章2－(1) 日付項目のプロパティ]をご参照ください。

(3) 日付+時刻

通常の日付項目に加えて時刻の項目をレイアウトします。
 プルダウンボタンをクリックするとプルダウンメニューが表示され「日付+時刻」をクリックし、レイアウトエリア内でクリックするとレイアウトすることができます。（上図参照）
 文字項目及び日付項目、時刻項目の設定は、プロパティで変更することができます。
 ※文字項目の設定変更については、[第5章2－(3) 文字項目のプロパティ]をご参照ください。
 ※日付項目の設定変更については、[第5章2－(1) 日付項目のプロパティ]をご参照ください。
 ※時刻項目の設定変更については、[第5章2－(2) 時刻項目のプロパティ]をご参照ください。

2 文字項目

■レイアウトエリアに文字項目をレイアウトします。



【文字項目のプロパティ】

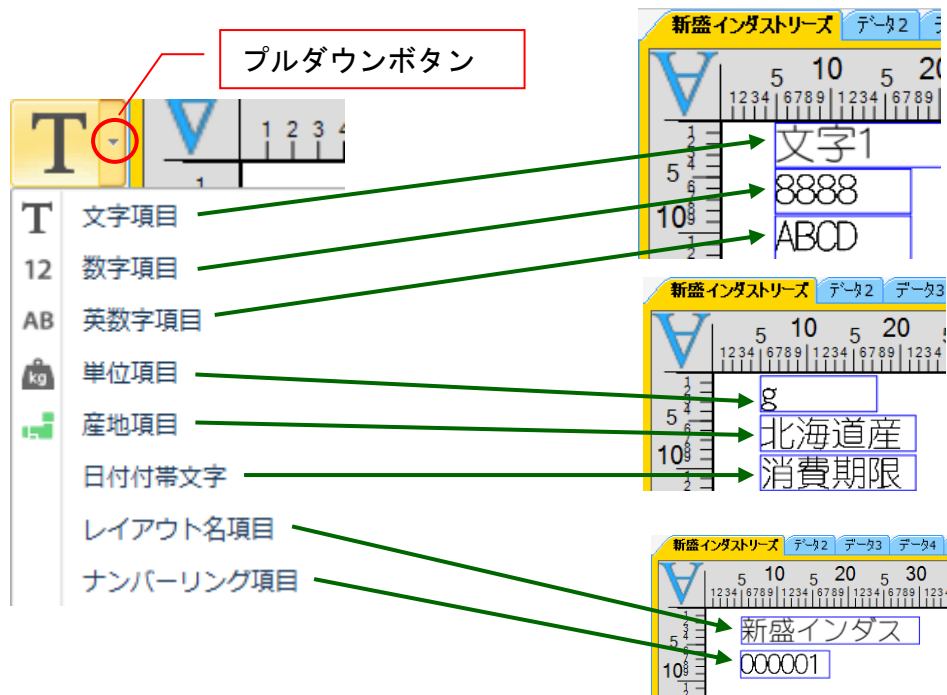
T の文字項目アイコンをクリック後、レイアウトエリアでクリックすると文字項目をレイアウトします。

また、アイコン横のプルダウンボタンをクリックするとプルダウンメニューが表示され文字項目を選択してレイアウトすることができます。

レイアウトされた文字項目をダブルクリックすると、文字項目のプロパティが開き設定を変更する事ができます。

※設定の変更については、[第5章2－(3)文字項目のプロパティ]をご参照ください。

- プルダウンボタンをクリックするとプルダウンメニューが表示され各文字項目をレイアウトします。



(1) 文字項目

漢字、数字、アルファベット、記号など自由に文字を入力できる文字項目をレイアウトします。

文字項目アイコン横のプルダウンボタンをクリックするとプルダウンメニューが表示され「文字項目」をクリックし、レイアウトエリア内で再度クリックするとレイアウトすることができます。

レイアウトされた項目をダブルクリックするとプロパティが表示され設定を変更することができます。

※設定の変更については、[第5章2－(3) 文字項目のプロパティ] をご参照ください。

(2) 数字項目

数字のみ入力できる様に制限をかけた文字項目をレイアウトします。

文字項目アイコン横のプルダウンボタンをクリックするとプルダウンメニューが表示され「数字項目」をクリックし、レイアウトエリア内で再度クリックするとレイアウトすることができます。

レイアウトされた項目をダブルクリックするとプロパティが表示され設定や数字を変更することができます。

※設定や数字の変更については、[第5章2－(3) 文字項目のプロパティ] をご参照ください。

(3) 英数字項目

英数字が入力できる文字項目をレイアウトします。

文字項目アイコン横のプルダウンボタンをクリックするとプルダウンメニューが表示され「英数字項目」をクリックし、レイアウトエリア内で再度クリックするとレイアウトすることができます。

レイアウトされた項目をダブルクリックするとプロパティが表示され設定を変更することができます。

※設定の変更については、[第5章2－(3) 文字項目のプロパティ] をご参照ください。

(4) 単位項目

プリセットされている単位をリストから選択するだけで設定できる項目をレイアウトします。

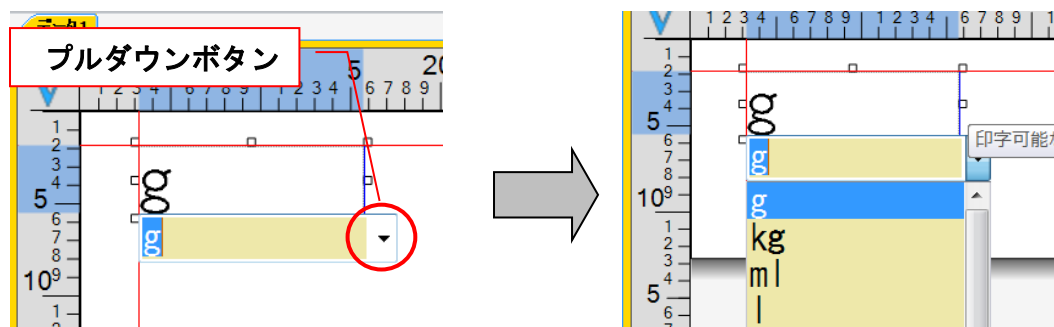
文字項目アイコン横のプルダウンボタンをクリックするとプルダウンメニューが表示され「単位項目」をクリックし、レイアウトエリア内で再度クリックするとレイアウトすることができます。

レイアウトされた項目を2回クリック（ダブルクリックではなくゆっくりと2回クリック）し、プルダウンボタンをクリックするとプルダウンメニュー（下図右）が表示されますので選択してください。

レイアウトされた項目をダブルクリックするとプロパティが表示され設定を変更することができます。

※単位の追加・編集については、[第7章5－(2) テーブル編集] の項目をご参照ください。

※設定の変更については、[第5章2－(3) 文字項目のプロパティ] をご参照ください。



(5) 産地項目

プリセットされている産地をリストから選択するだけで設定できる項目をレイアウトします。

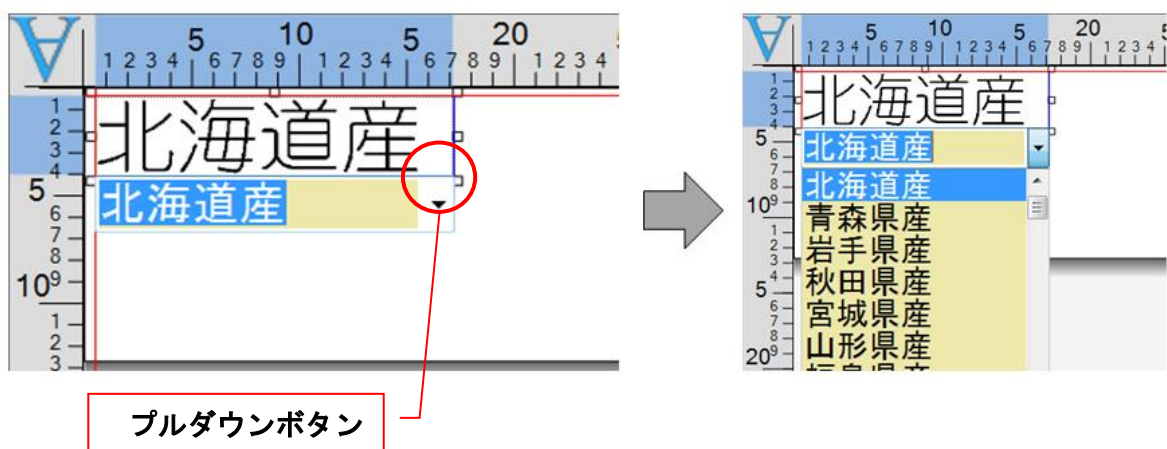
文字項目アイコン横のプルダウンボタンをクリックするとプルダウンメニューが表示され「産地項目」をクリックし、レイアウトエリア内で再度クリックするとレイアウトすることができます。

レイアウトされた項目を2回クリック（ダブルクリックではなくゆっくりと2回クリック）し、プルダウンボタンをクリックするとプルダウンメニュー（下図右）が表示されますので選択してください。

レイアウトされた項目をダブルクリックするとプロパティが表示され設定を変更することができます。

※産地の追加・編集については、[第7章5－（2）テーブル編集]の項目をご参照ください。

※設定の変更については、[第5章2－（3）文字項目のプロパティ]をご参照ください。



(6) 日付付帯文字

プリセットされている日付付帯文字をリストから選択するだけで設定できる項目をレイアウトします。

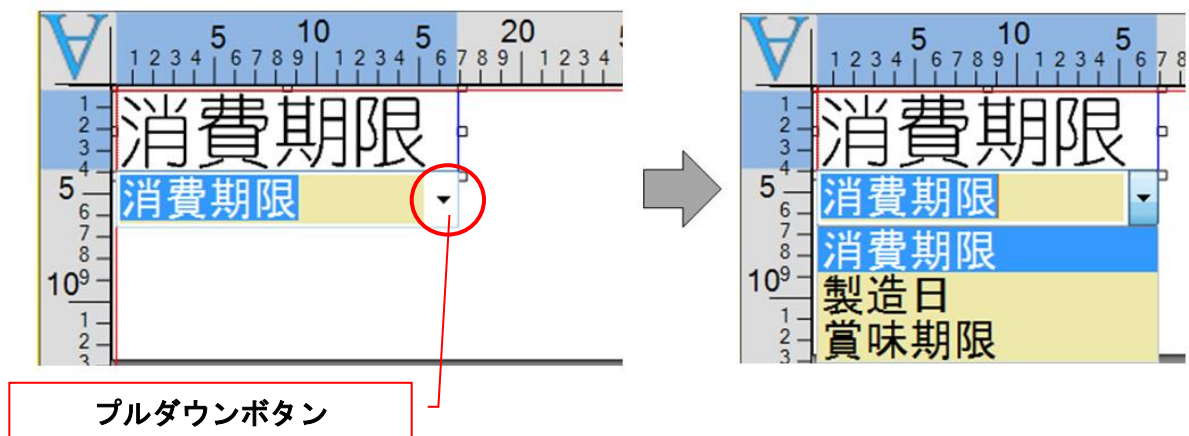
文字項目アイコン横のプルダウンボタンをクリックするとプルダウンメニューが表示され「産地項目」をクリックし、レイアウトエリア内で再度クリックするとレイアウトすることができます。

レイアウトされた項目を2回クリック（ダブルクリックではなくゆっくりと2回クリック）し、プルダウンボタンをクリックするとプルダウンメニュー（下図右）が表示されますので選択してください。

レイアウトされた項目をダブルクリックするとプロパティが表示され設定を変更することができます。

※付帯文字の追加・編集については、[第7章5－（2）テーブル編集]の項目をご参照ください。

※設定の変更については、[第5章2－（3）文字項目のプロパティ]をご参照ください。



(7) レイアウト名項目

レイアウト名が自動で入力される文字項目をレイアウトします。

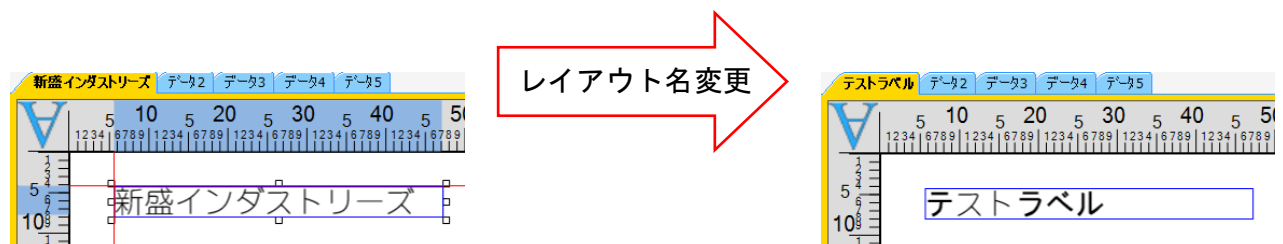
文字項目アイコン横のプルダウンボタンをクリックするとプルダウンメニューが表示され「レイアウト名項目」をクリックし、レイアウトエリア内で再度クリックするとレイアウトすることができます。

レイアウトされた項目をダブルクリックするとプロパティが表示され文字設定を変更することができます。

通常の文章入力に変更することはできませんのでご注意ください。

※設定の変更については、[第5章2－（3）文字項目のプロパティ]をご参照ください。

※レイアウト名の変更については、[第5章2－（3）文字項目のプロパティ]をご参照ください。



(8) ナンバーリング項目

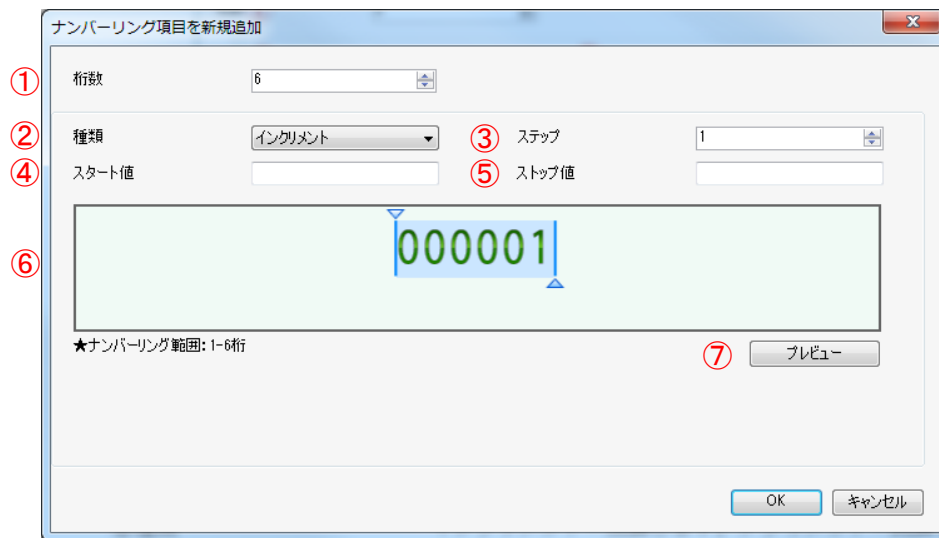
ナンバーリング機能を有効にした数字項目をレイアウトします。

文字項目アイコン横のプルダウンボタンをクリックするとプルダウンメニューが表示され「ナンバーリング項目」をクリックしてください。設定ウィンドウが開きますので設定を行い、「OK」ボタンをクリックしてください。

画面が戻りますのでレイアウトエリア内で再度クリックするとレイアウトすることができます。

レイアウトされた項目をダブルクリックするとプロパティが表示され設定を変更することができます。

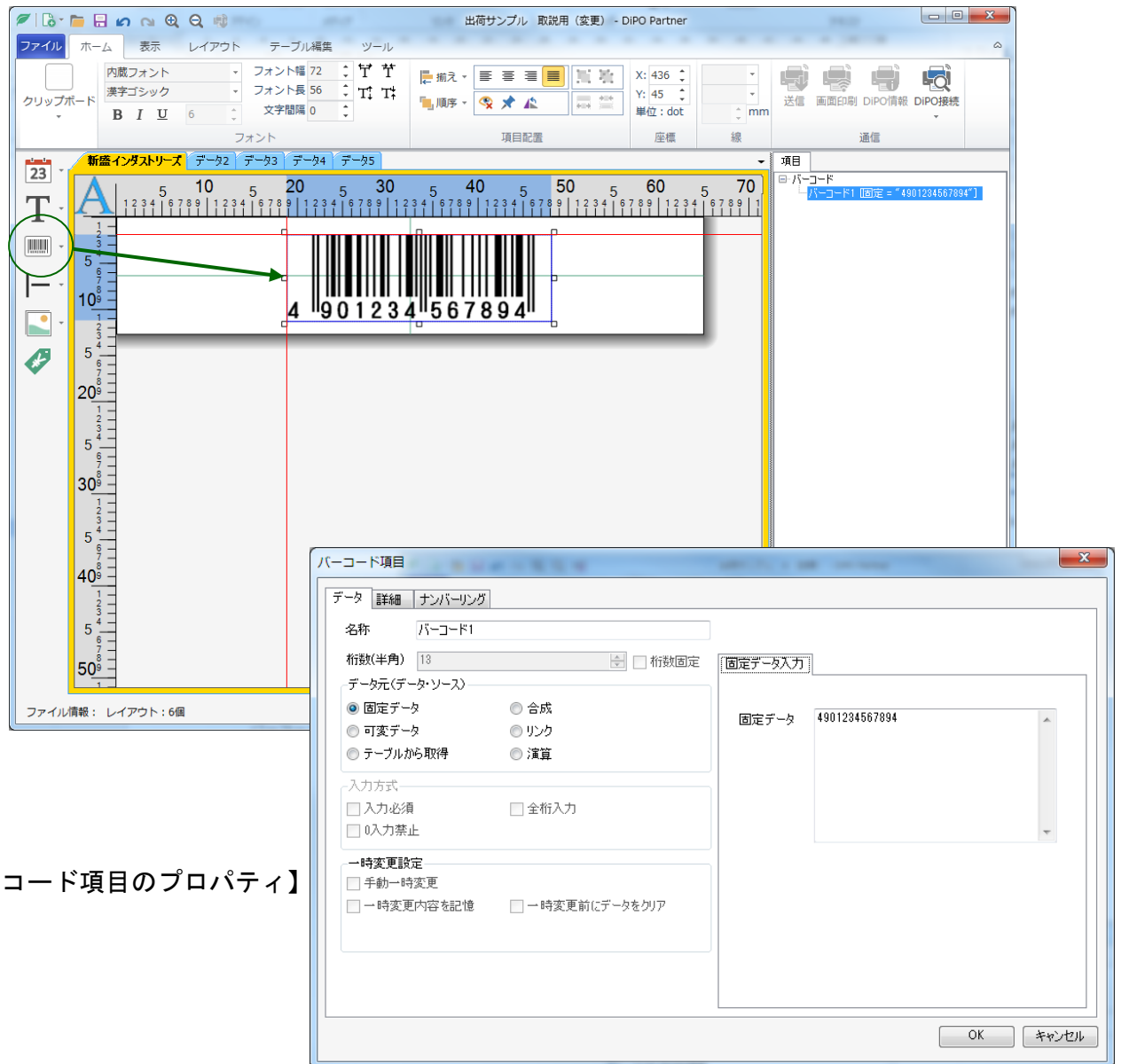
※設定の変更については、「第5章2－(3) 文字項目のプロパティ」をご参照ください。



- ①桁数 ----- 印刷する桁数を設定します。
- ②種類 ----- インクリメント＝加算します。デクリメント＝減算します。
- ③ステップ ----- 加減算の幅を設定することができます。
- ④スタート値 ----- ナンバーリング範囲内でスタート値を設定することができます。
- ⑤ストップ値 ----- ナンバーリング範囲内でストップ値を設定することができます。
- ⑥ナンバーリング範囲 ----- スライダーを使用してナンバーリング範囲を設定します。
- ⑦プレビュー ----- 設定内容をプレビュー表示します。

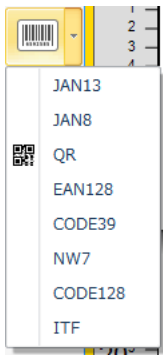
3 バーコード項目

■レイアウトエリアにバーコード項目をレイアウトします。



【バーコード項目のプロパティ】

バーコードアイコンをクリック後、レイアウトエリアでクリックするとレイアウトします。バーコードをダブルクリックしてプロパティを開くと、名称やバーコードタイプ、印刷設定、データ、バーコード設定を変更することができます。設定後、[OK] ボタンで設定画面を閉じます。



プルダウンボタンをクリックするとプルダウンメニューが表示されバーコードの種類を選択することができます。

(1) JAN13

JAN13 桁のバーコード項目をレイアウトします。

プルダウンメニューから [JAN13] をクリックします。レイアウトエリア内で再度クリックするとレイアウトすることができます。

レイアウトされた項目をダブルクリックするとプロパティが表示され設定やコードを変更することができます。

※設定やコード変更は、[第5章2-(4) バーコード項目のプロパティ] をご参照ください。

(2) JAN8

JAN8 桁のバーコード項目をレイアウトします。

プルダウンメニューから [JAN8] をクリックします。レイアウトエリア内で再度クリックするとレイアウトすることができます。

レイアウトされた項目をダブルクリックするとプロパティが表示され設定やコードを変更することができます。

※設定やコード変更は、[第5章2-(4) バーコード項目のプロパティ] をご参照ください。

(3) QR

QR コードをレイアウトします。

プルダウンメニューから [QR] をクリックします。レイアウトエリア内で再度クリックするとレイアウトすることができます。

レイアウトされた項目をダブルクリックするとプロパティが表示され設定やコードを変更することができます。

※設定やコード変更は、[第5章2-(4) バーコード項目のプロパティ] をご参照ください。

(4) EAN128

EAN128 のバーコード項目をレイアウトします。

プルダウンメニューから [EAN128] をクリックします。レイアウトエリア内で再度クリックするとレイアウトすることができます。

レイアウトされた項目をダブルクリックするとプロパティが表示され設定やコードを変更することができます。

※設定やコード変更は、[第5章2-(4) バーコード項目のプロパティ] をご参照ください。

(5) CODE39

CODE39 のバーコード項目をレイアウトします。

プルダウンメニューから [CODE39] をクリックします。レイアウトエリア内で再度クリックするとレイアウトすることができます。

レイアウトされた項目をダブルクリックするとプロパティが表示され設定やコードを変更することができます。

※設定やコード変更は、[第5章2-(4) バーコード項目のプロパティ] をご参照ください。

(6) NW7

NW7 のバーコード項目をレイアウトします。

プルダウンメニューから [NW7] をクリックします。レイアウトエリア内で再度クリックするとレイアウトすることができます。

レイアウトされた項目をダブルクリックするとプロパティが表示され設定やコードを変更することができます。

※設定やコード変更は、[第5章2-(4) バーコード項目のプロパティ] をご参照ください。

(7) CODE128

CODE128 のバーコード項目をレイアウトします。

プルダウンメニューから [CODE128] をクリックします。レイアウトエリア内で再度クリックするとレイアウトすることができます。

レイアウトされた項目をダブルクリックするとプロパティが表示され設定やコードを変更することができます。

※設定やコード変更は、[第5章2-(4) バーコード項目のプロパティ] をご参照ください。

(8) ITF

ITF のバーコード項目をレイアウトします。

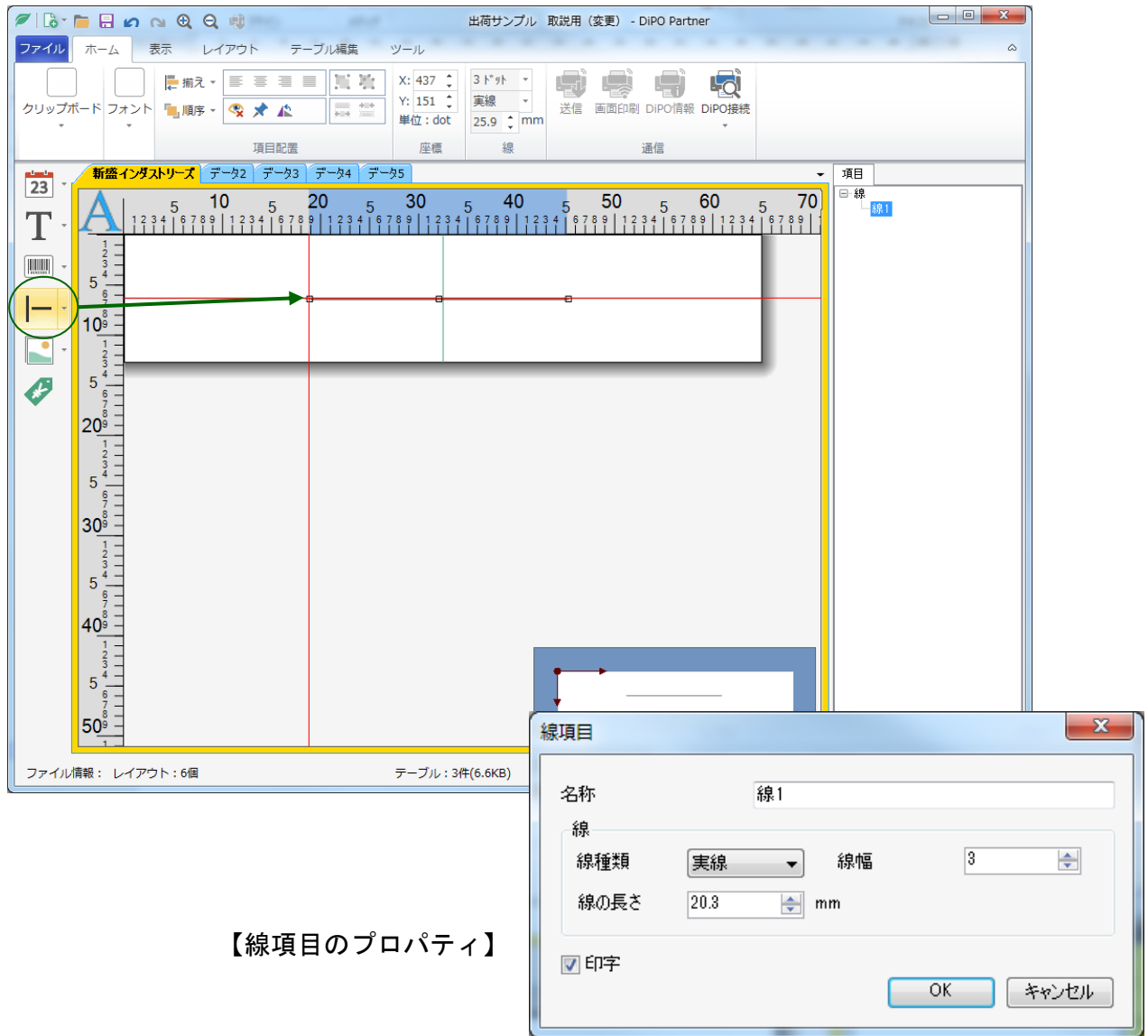
プルダウンメニューから [ITF] をクリックします。レイアウトエリア内で再度クリックするとレイアウトすることができます。

レイアウトされた項目をダブルクリックするとプロパティが表示され設定やコードを変更することができます。

※設定やコード変更は、[第5章2-(4) バーコード項目のプロパティ] をご参照ください。

4 直線項目

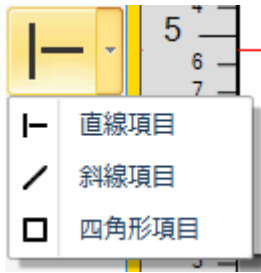
■レイアウトエリアに直線項目をレイアウトします。



【線項目のプロパティ】

直線項目アイコンをクリック後、クリックした状態で左右方向などにドラッグすると線を引くことができます。直線項目をダブルクリックするとプロパティが表示され線種等の設定を行うことができます。

※線種などの設定については、[第5章2－(5) 線項目のプロパティ] をご参照ください。



プルダウンボタンをクリックするとプルダウンメニューが表示され項目の種類を選択することができます。

(1) 直線項目

直線をレイアウトします。

レイアウトエリア内で最初のクリック位置を始点、次のクリック位置を終点とする直線になります。直線は0度、90度、180度、270度の4方向になります。

レイアウトされた項目をダブルクリックするとプロパティが表示され線種などを変更することができます。

※線種などの設定については、[第5章2-(5) 線項目のプロパティ] をご参照ください。

(2) 斜線項目

斜線をレイアウトします。

レイアウトエリア内で最初のクリック位置を始点、次のクリック位置を終点とする直線になります。角度は自由に調整することができます。

レイアウトされた項目をダブルクリックするとプロパティが表示され線種などを変更することができます。

※線種などの設定については、[第5章2-(5) 線項目のプロパティ] をご参照ください。

(3) 四角形項目

四角形をレイアウトします。

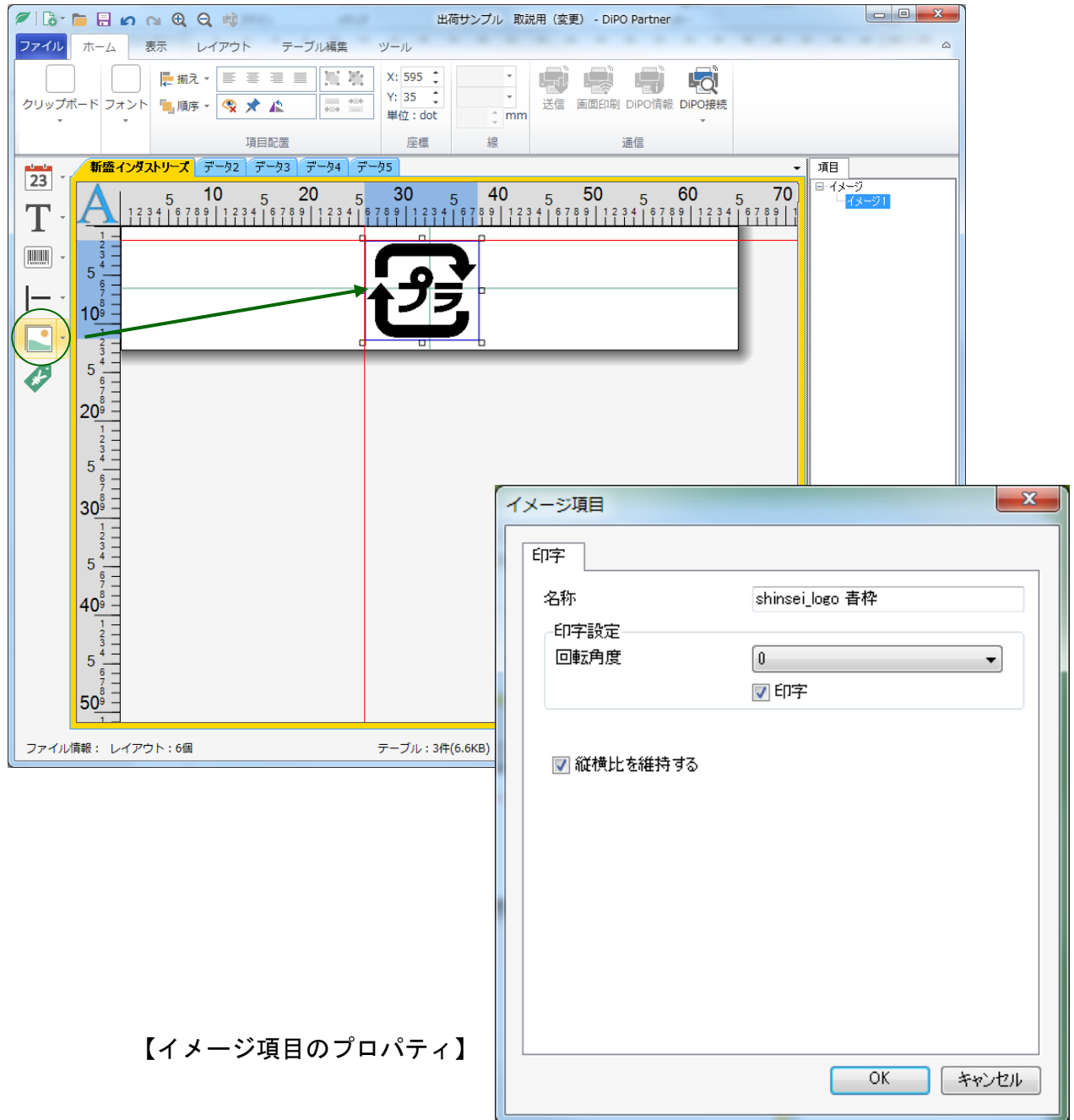
レイアウトエリア内で最初のクリック位置を始点、次のクリック位置を対角とする四角形になります。

レイアウトされた項目をダブルクリックするとプロパティが表示され線種などを変更することができます。

※線種などの設定については、[第5章2-(6) 四角形項目のプロパティ] をご参照ください。

5 イメージ項目

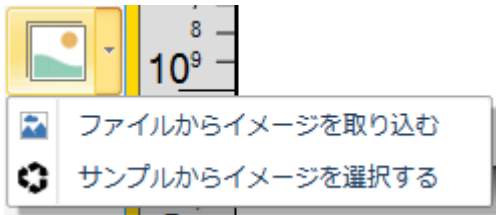
■レイアウトエリアにイメージ項目をレイアウトします。



【イメージ項目のプロパティ】

イメージ項目アイコンをクリックすると画像を開くためのダイアログが開きます。任意の画像ファイルを選択後、白黒変換のダイアログが開きますので境界のしきい値を設定後、[OK] ボタンをクリックして終了します。レイアウトエリアの任意の場所をクリックすると画像をレイアウトします。

※イメージ項目については、[第5章2-(7) イメージ項目のプロパティ]をご参照ください。



プルダウンボタンをクリックするとプルダウンメニューが表示されファイルからイメージを取り込むかサンプルからイメージを選択するかができます。

(1) ファイルからイメージを取り込む

パソコンからファイルを取り込んでイメージ項目をレイアウトします。

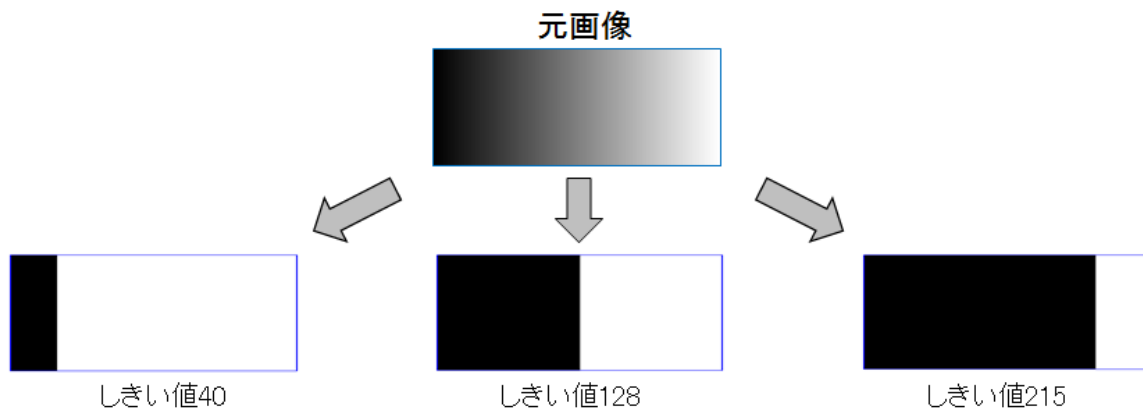
プルダウンメニューからクリック後に、ファイル選択ウィンドウが開きますので取り込む画像を選択して「開く」のボタンをクリックしてください。

続いて、画像の白黒変換画面が表示されますので変換後の画像を確認してください。

白黒の境界のしきい値は、ウィンドウ下部のスライダーで調整してください（下図参照）。画像変換後にレイアウトエリア内のレイアウトしたい場所をクリックするとレイアウトします。

レイアウトされた項目をダブルクリックするとプロパティが表示され設定を変更することができます。

※イメージの設定については、[第5章2-(7) イメージ項目のプロパティ]をご参照ください。



(2) サンプルからイメージを取り込む

あらかじめ DiPO Partner に登録されているイメージをレイアウトします。

プルダウンメニューからクリック後に、マーク項目を新規追加ウィンドウが開きますので取り込む画像を選択して「OK」ボタンをクリックしてください。

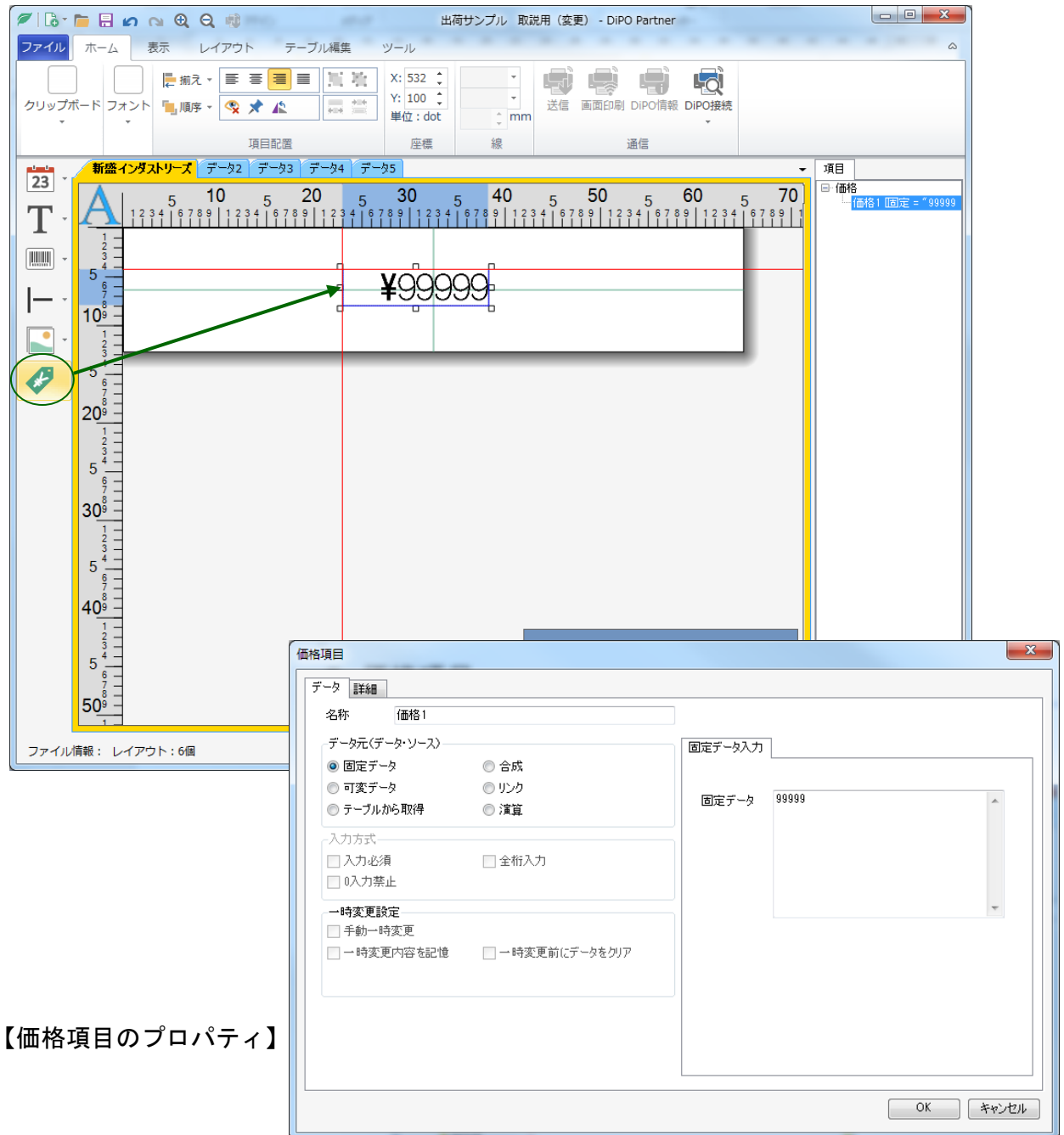
続いてレイアウトエリア内のレイアウトしたい場所をクリックするとレイアウトします。

レイアウトされた項目をダブルクリックするとプロパティが表示され印刷設定などを変更することができます。

※イメージの設定については、[第5章2-(7) イメージ項目のプロパティ]をご参照ください。

6 価格項目

■レイアウトエリアに価格項目をレイアウトします。



【価格項目のプロパティ】

価格項目アイコンをクリック後、レイアウトエリア内の任意の場所でクリックすると価格項目がレイアウトされます。

価格項目をダブルクリックするとプロパティが表示され名称、通過記号、フォント設定、データを変更することができます。

第5章 プロパティ

- レイアウト上の項目の各種設定を各項目プロパティで行います。
最初に、各項目プロパティの共通部分を共通項目プロパティとして説明します。
その他の部分は、各項目プロパティを参照してください。

各項目プロパティは、以下の方法で表示させることができます。

- ・ レイアウト上の項目をダブルクリック
 - ・ レイアウトエリア内の項目を右クリックするとショートカットメニューが表示され「項目プロパティ」を選択
 - ・ 項目一覧エリアの各項目をダブルクリック
- 設定は、各項目で共通な部分と項目毎に異なる部分があります。

- レイアウトの設定は、レイアウト毎にレイアウトプロパティで行います。

1 共通項目プロパティ

各プロパティで使用されている主な共通項目について説明します。

(1) データ元（データ・ソース）／データタブ

印刷に使用する文章や値をどの様に入力するかを設定します。

A 固定データ

データの入力内容を固定したい場合に選択します。

固定データ ----- 固定データエリアに入力された値をデータとして使用します。

B 可変データ

- ①値を入力する場合に選択し、項目毎に入力を行います。
- ②文字項目の場合は、外部フォントの可変データの使用はできませんので、可変データを使用する時は、内部フォントに変更してから使用してください。
- ③バーコード項目の場合は、基本的に固定データ項目を使用します。
- ④ナンバーリング項目を選択する場合のみ可変データを使用します。

※可変データに✓を入れると、項目一覧エリアに[可変]と表示されます。

C テーブルから取得

テーブルからデータを取得する場合に選択します。

テーブル関連付け

テーブル名 ----- プルダウンメニューから使用するテーブル名を選択します。

フィールド ----- プルダウンメニューから使用するフィールドを選択します。

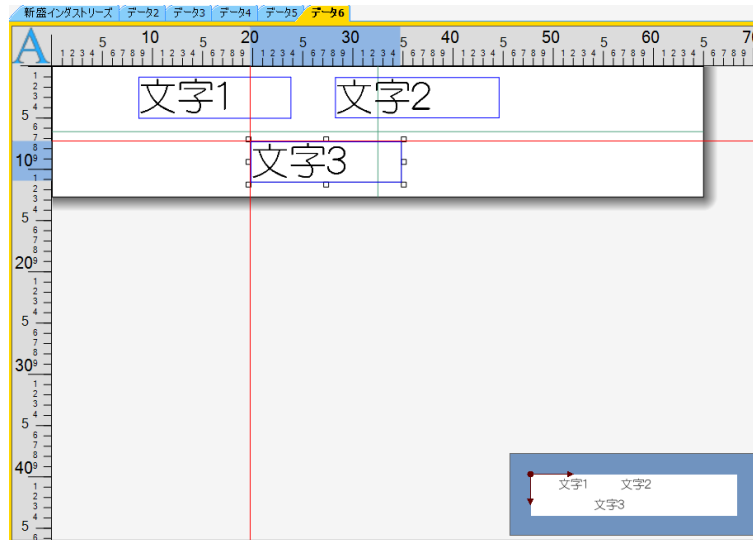
キーフィールドに関連付項目 -- テーブル内の KEY（呼出番号）が入力される項目を指定します。
 テーブルのフィールドが2つの場合は、自動で指定されます。
 テーブルのフィールドが3つ以上の場合は、指定する必要があります。

データ選択 ----- プルダウンメニューから使用するデータを選択します。

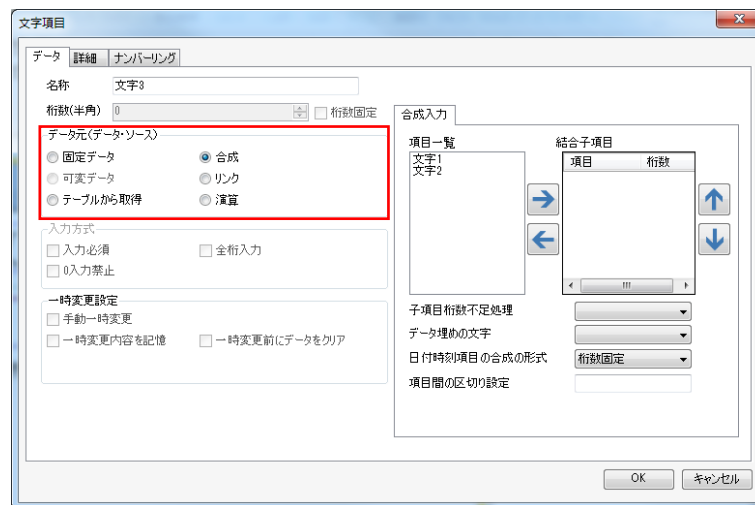
D 合成

複数の項目データを1つの項目データに合成することができます。

たとえば、文字1項目と文字2項目を文字3項目に合成した場合について説明します。



文字3のプロパティを開き、合成に✓を入れます。



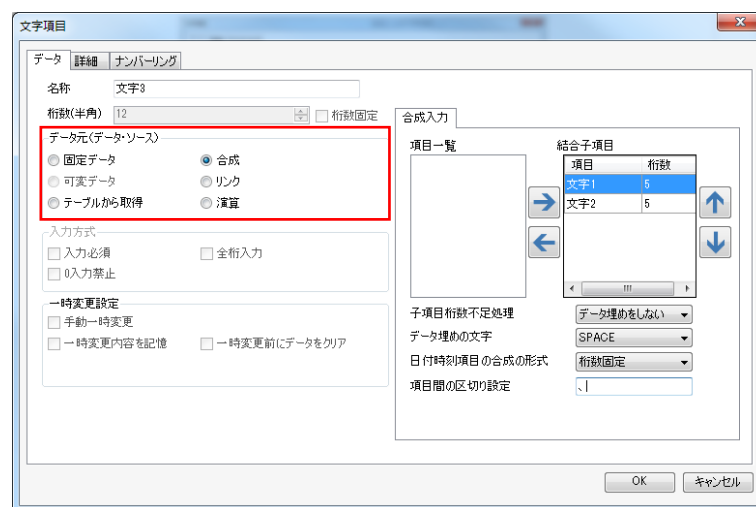
子項目桁数不足処理 ----- 各項目の桁数よりデータが少ない場合に、不足桁数をデータ埋めする方法を選択します。

データ埋めの文字 ----- プルダウンメニューから選択することができます。

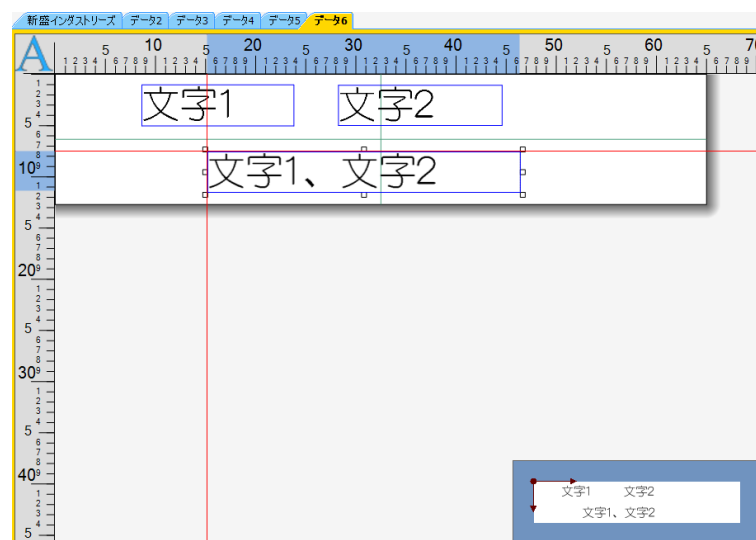
日付時刻項目の合成の形式 ----- 日付・時刻項目を合成する時に選択します。

項目間の区切り設定 ----- 項目間に全角または半角文字を1文字挿入して区切ることができます。

項目一覧枠の「文字1」と「文字2」を「><」キーで結合子項目に移動させOKボタンをクリックします。



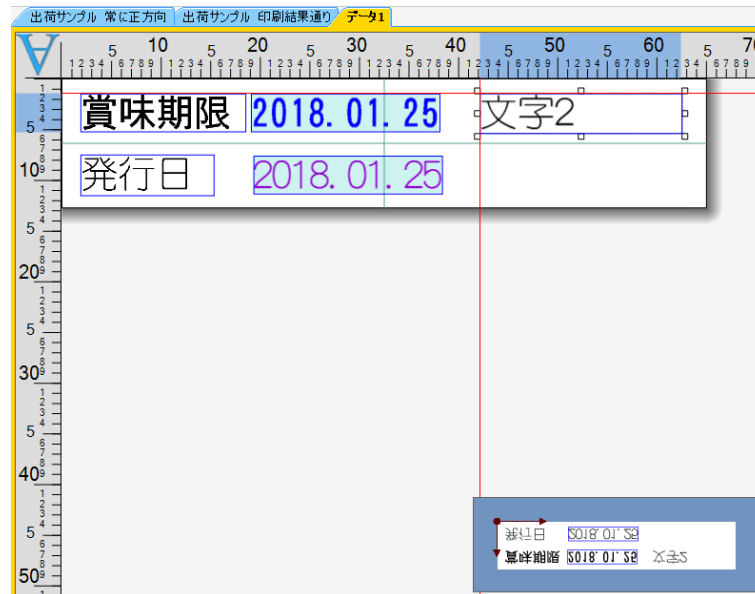
すると、文字3項目に文字1項目と文字2項目が合成されました。



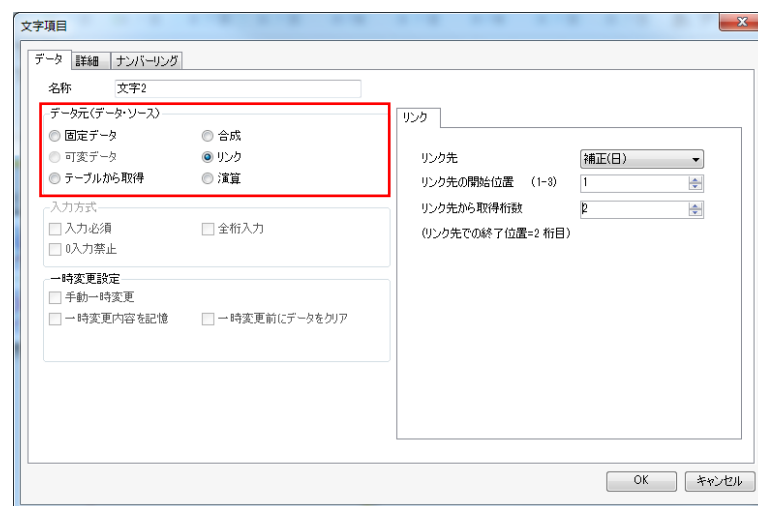
E リンク

他の項目とリンク（関連付け）を設定すると、リンクされたデータの一部を表示させることができます。

たとえば、文字2項目に賞味期限の補正日 [10] をリンクさせた場合について説明します。



文字2項目のプロパティを開き、リンクに✓を入れます。



リンク先 ----- プルダウンメニューから選択することができます。

リンク先の開始位置 ----- リンク先の開始位置を選択します。

リンク先から取得桁数 ----- リンク先からの取得桁数を選択します。

文字 2 項目に賞味期限の補正日 [10] がリンクされました。

出荷サンプル 常に正方向 出荷サンプル 印刷結果通り データ1

5	10	5	20	5	30	5	40	5	50	5	60	5	70
賞味期限	2018. 01. 15	10											
発行日	2018. 01. 25												

賞味期限 2018. 01. 15 10

F 演算

項目の数値と他の項目の数値を演算して、演算結果を表示します。

※演算するには、数値項目が数値（半角）に設定されている必要があります。

（項目プロパティ→詳細タブ→漢字の✓を外し、数字のみに✓を入れます。）

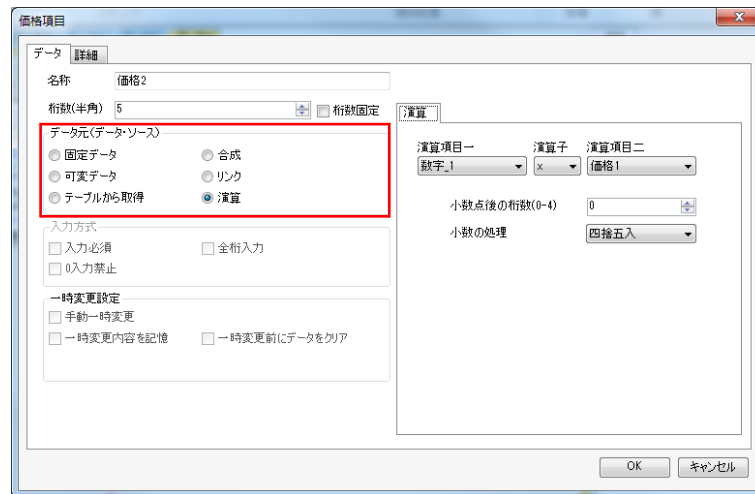
たとえば、計り売り商品の場合について説明します。

新盛インダストリーズ データ2 データ3 データ4 データ5 データ6

5	10	5	20	5	30	5	40	5	50	5	60	5	70
1cm当たり	¥50												
100 cmで	99999												

100 cmで 99999

演算結果を表示させる価格2項目のプロパティを開き、演算に✓を入れます。



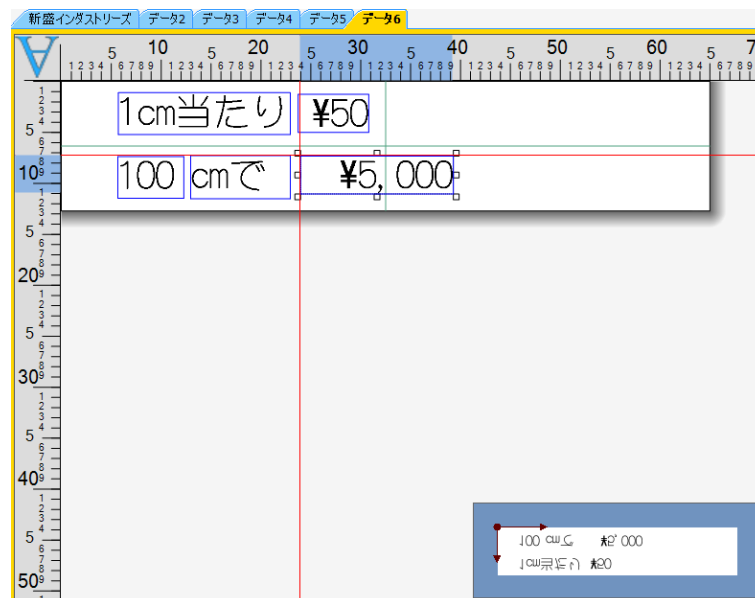
演算

演算項目一 ----- 第1の演算項目をプルダウンメニューから選択することができます。

演算子 ----- 演算子をプルダウンメニューから選択することができます。

演算項目二 ----- 第1の演算項目をプルダウンメニューから選択することができます。

文字2項目に演算結果 [¥5,000] が表示されました。



(2) 入力方式／データタブ

データの入力条件に関する設定を行います。

データ元を「固定データ」に設定した場合は、この項目は設定できません。

データ元を「テーブルから取得」に設定し、キーフィールドに関連付けられた項目以外は、設定できません。

入力必須 ----- 必ず入力が必要な場合に選択します。

0入力禁止 ----- 値として0（ゼロ）の入力を禁止します。

全桁入力 ----- 設定された桁数に対して全桁入力が必要な場合に選択します。

(3) 一時変更設定／データタブ

項目プロパティのデータタブのデータ元（データソース）で可変データまたはテーブルから取得に✓が入っていると有効になります。

一時変更設定

手動一時変更 ----- ✓を入れると、この項目が印刷される前にD i P Oのタッチパネル上でデータを変更することができます。

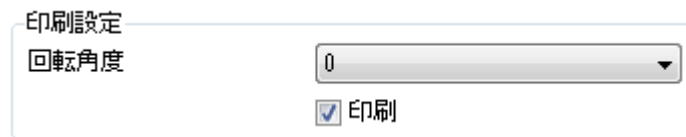
※レイアウトエリアで設定された項目の背景色が水色（デフォルト）に表示されます。また、プレビュー画面で設定された項目の枠線が水色（デフォルト）に表示されます。

一時変更内容を記憶 ----- 手動一時変更に✓を入れると有効になり、一時変更内容を記憶します。

一時変更前にデータをクリア ----- 手動一時変更に✓を入れると有効になり、一時変更前のデータをクリアします。

(4) 印刷設定／詳細タブ

印刷される文字やイメージの角度や印刷有無の設定を行います。



The image shows a software interface for print settings. It has a title bar '印刷設定' (Print Settings). Below it, there is a label '回転角度' (Rotation Angle) next to a dropdown menu currently showing '0'. Below the dropdown is a checkbox labeled '印刷' (Print), which is checked.

回転角度 ----- 印刷項目の角度を設定します。
レイアウト項目の始点を軸に反時計周りの方向に項目が回転します。

印刷 ----- 印刷の有無を設定します。
✓を外すとレイアウトエリアでも表示されなくなり、印刷もされません。項目一覧エリアの該当項目には、[印刷しない] と表示されます。

(5) フォント設定／詳細タブ

印刷される文字のフォントやサイズなどの設定を行います。

Font Settings dialog box showing various options for font type, name, size, and style.

フォント種類 ----- 使用するフォントを設定します。
 外部フォント：Windows に登録されているフォントを使用します。
 内蔵フォント：DiPO Partner に登録されているフォントを使用します。
 ※内蔵フォントを選択すると、文字項目プロパティのデータタブで可変データが有効になります。

フォント名 ----- 外部または内蔵フォントの使用するフォントを選択します。

サイズ ----- 文字のサイズになります。(単位：ポイント)

横倍率 ----- 文字の横サイズの倍率を設定します。

縦倍率 ----- 文字の縦サイズの倍率を設定します。

文字間隔 ----- 文字と文字の間隔を調整します。

太字 ----- 文字が太字になります。

白抜き ----- 文字のアウトラインが白抜きになります。
 フォントによっては使用できない場合があります。

下線 ----- 文字に下線を付与します。

縦書き ----- 縦書きにすることができます。

斜体 ----- 文字が斜体になります。

反転 ----- 文字周囲が黒くなり、文字が白くなります。
 * 文字反転：文字の入力されている範囲だけ反転します。
 * 項目範囲：項目の範囲全体を反転します。

2 各項目プロパティ

(1) 日付項目のプロパティ

A データタブ

名称 ----- 項目の名称を設定することができます。名称は、項目一覧エリア等に反映されます。

データ元(データ・ソース) -- 印刷に使用する日付の値をどの様に入力するかを設定します。
※データ元項目の設定については、[第5章 1 - (1) データ元]の共通項目プロパティをご参照ください。

入力方式 ----- データの入力条件に関する設定を行います。
※入力方式項目の設定については、[第5章 1 - (2) 入力方式]の共通項目プロパティをご参照ください。

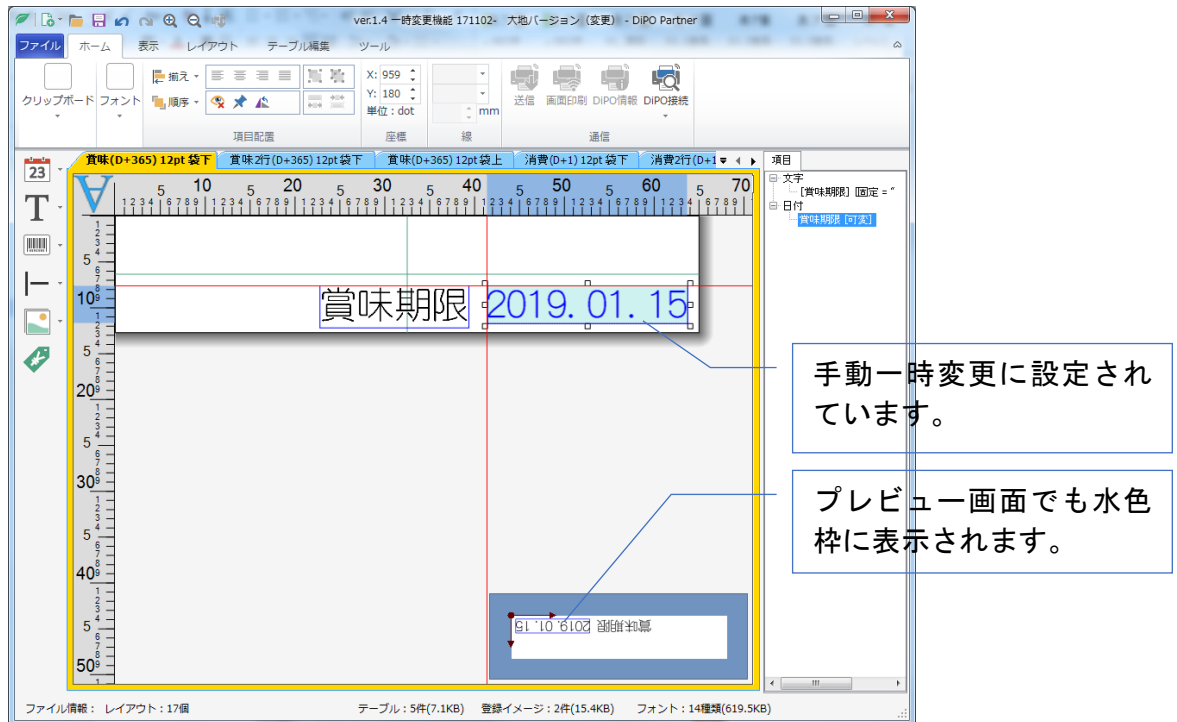
一時変更設定 ----- D i P Oのタッチパネル上で印刷前にデータの変更をすることができます。
※入力方式項目の設定については、[第5章 1 - (3) 一時変更設定]の共通項目プロパティをご参照ください。

【一時変更設定の補足説明】

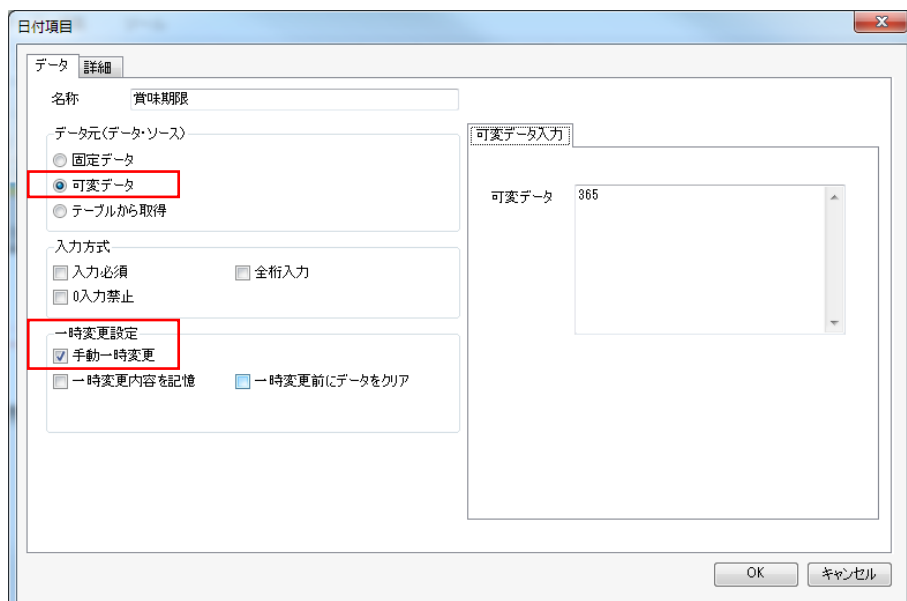
(i) 日付項目プロパティで手動一時変更に✓を入れると、D i P O側で日付の補正日を変更することができます。(日付項目に背景色が表示されます。)

※背景色は、メインツールバーの表示⇒一時変更有効項目の背景色で設定ができます。

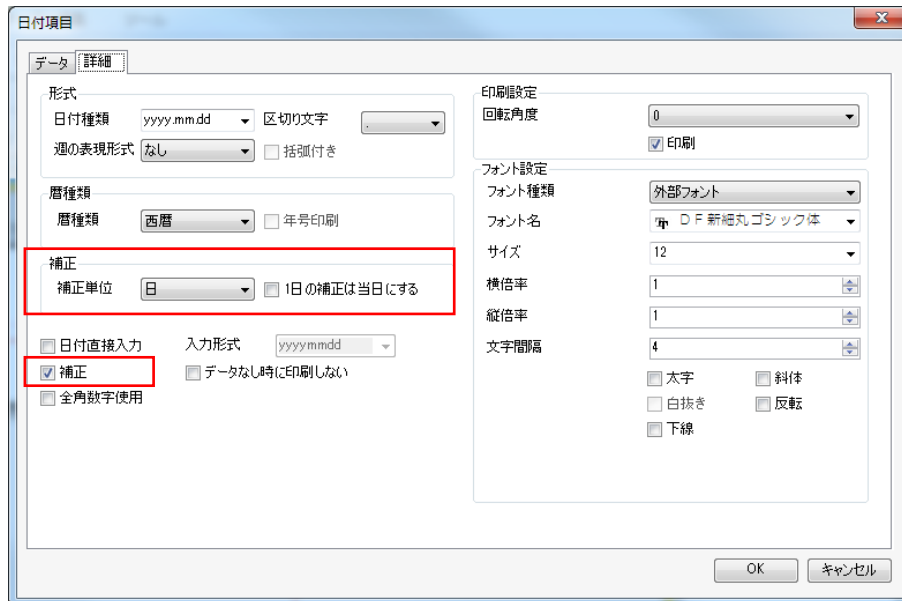
① 日付項目の一年補正日付をレイアウトします。



日付項目のプロパティを開き、データタブで可変データに✓を入れます。すると、一時変更設定が有効になりますので、手動一時変更に✓を入れます。たとえば、可変データ枠に[365]と入力します。



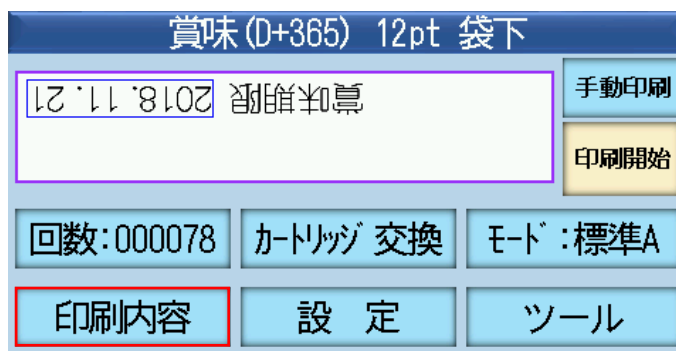
- ② 手動一時変更に✓を入れます。
補正単位を「日」に設定すると、項目①のデータタブの可変データ枠に入力された[365]が補正日となります。
[OK] ボタンをクリックします。



- ③ このファイルを DiPO Partner からDiPOに送信します。

以下、D i P O側のタッチパネルについて説明をします。

- ④ 「印字内容」にタッチして、上述の補正日を変更したいレイアウト名を選択します。
青枠で表示された項目がD i P Oで変更できます。
青枠にタッチします。



- ⑤ この補正（日）画面で補正日の変更ができます。
 DiPO Partner のデータタブの可変データ枠に入力された[365]が表示されています。
 数字にタッチして、変更したい補正日を入力します。

たとえば、変更したい補正日を[30]と入力して「決定」にタッチします。

- ⑥ 補正（日）が変更されました。

(ii) ナンバーリング項目プロパティで手動一時変更に✓を入れると、DiPO側でナンバーリングの開始番号を変更することができます。

- ① ナンバーリング項目を選択すると、ナンバーリング項目のプロパティが表示されます。

たとえば、ナンバーリングタブの種類を [インクリメント] に、ステップを [1] に、スタート値を [1] に、ストップ値を [10] に設定し[OK]をクリックします。

ナンバーリング項目を新規追加

桁数: 6

種類: インクリメント ステップ: 1

スタート値: 1 ストップ値: 10

000001

★ナンバーリング範囲: 1-6桁

プレビュー

OK キャンセル

- ② ナンバーリング項目をレイアウトします。
次に、ナンバーリング項目のプロパティを表示させます。

データタブの可変データに✓が入り、一時変更設定が有効になりますので、手動一時変更に✓を入れます。

可変データ枠には、スタート値[000001]が自動的に入力されます。

また、入力方式で [入力必須] と [全桁入力] に✓を入れます。

文字項目

データ 詳細 ナンバーリング

名称: ナンバーリング

桁数(半角): 6 桁数固定: ☒

データ元(データソース)

☐ 固定データ

☒ 可変データ

☐ テーブルから取得

入力方式

☒ 入力必須 ☒ 全桁入力

☐ 0入力禁止

一時変更設定

☒ 手動一時変更

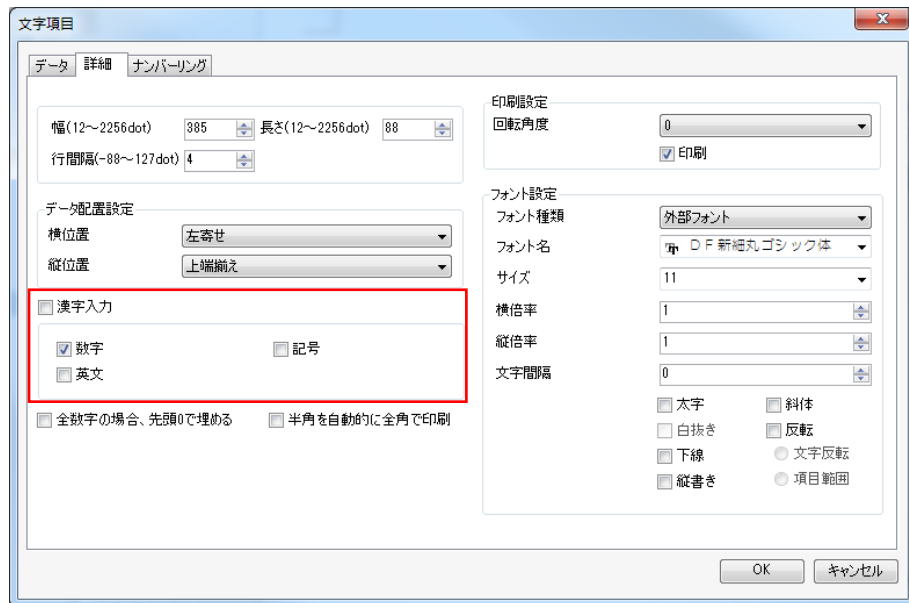
☒ 一時変更内容を記憶 ☐ 一時変更前にデータをクリア

可変データ入力

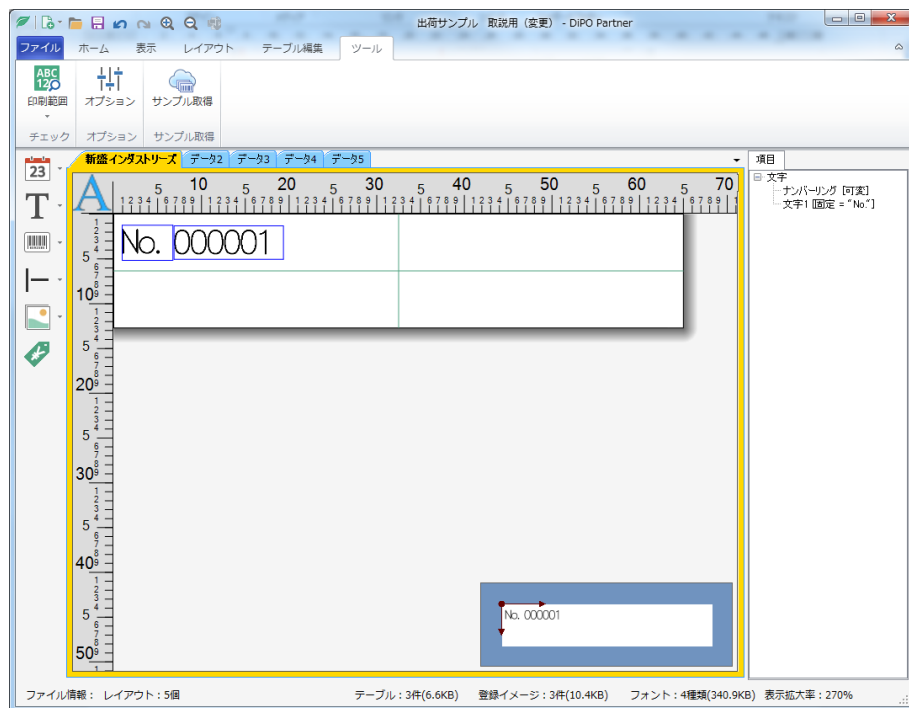
可変データ: 000001

OK キャンセル

次に、詳細タブを表示させると、漢字入力の✓が外れ、数字項目に自動的に✓が入っている事を確認して、[OK] ボタンをクリックします。



- ③ ナンバーリング項目の前に文字項目で [No.] をレイアウトします。



- ④ このファイルをDiPOに送信します。

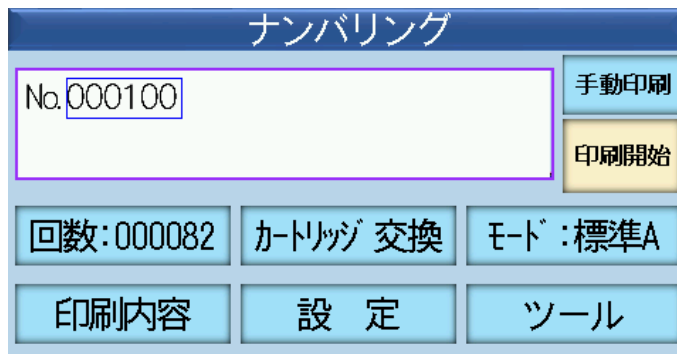
以下、D i P O側のタッチパネルについて説明をします。

- ⑤ 「印字内容」にタッチして、上述のナンバーリングの開始番号を変更したいレイアウト名を選択します。
 青枠で表示された項目がD i P Oで変更できます。
 青枠にタッチします。

- ⑥ この数字画面でナンバーリングの開始番号の変更ができます。
 DiPO Partner のデータタブの可変データ枠に入力された[000001]が表示されています。
 数字にタッチして、変更したいナンバーリングの開始番号を入力します。

たとえば、変更したいナンバーリングの開始番号を[000100]と入力して「決定」にタッチします。

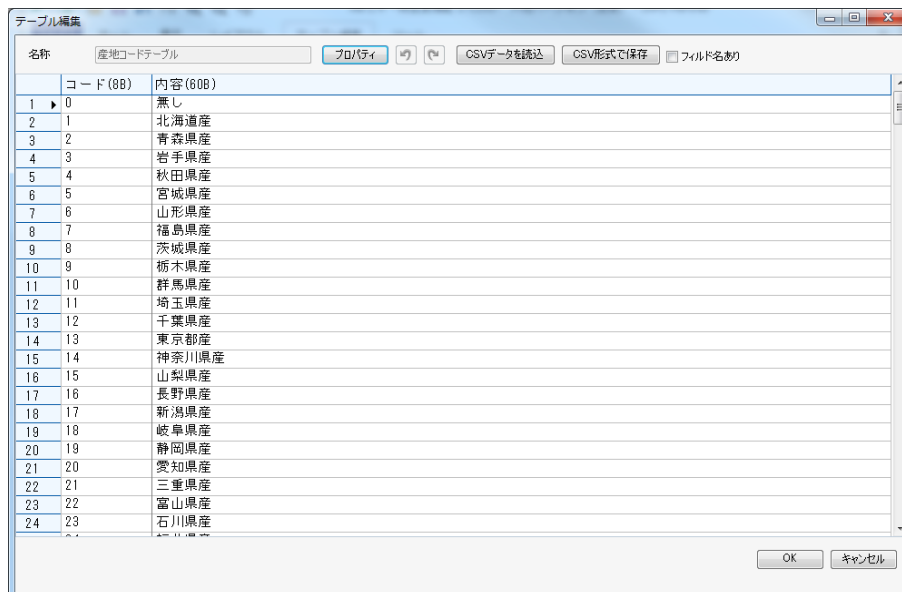
- ⑦ ナンバーリングの開始番号が変更されました。



- (iii) 産地と品名をレイアウトした文字項目プロパティでテーブルから取得に✓を入れると、DiP O側で産地と品名を変更することができます。

- ① デフォルトとして、すでに下図のような産地コードテーブルが作成されています。

[産地コードテーブル]



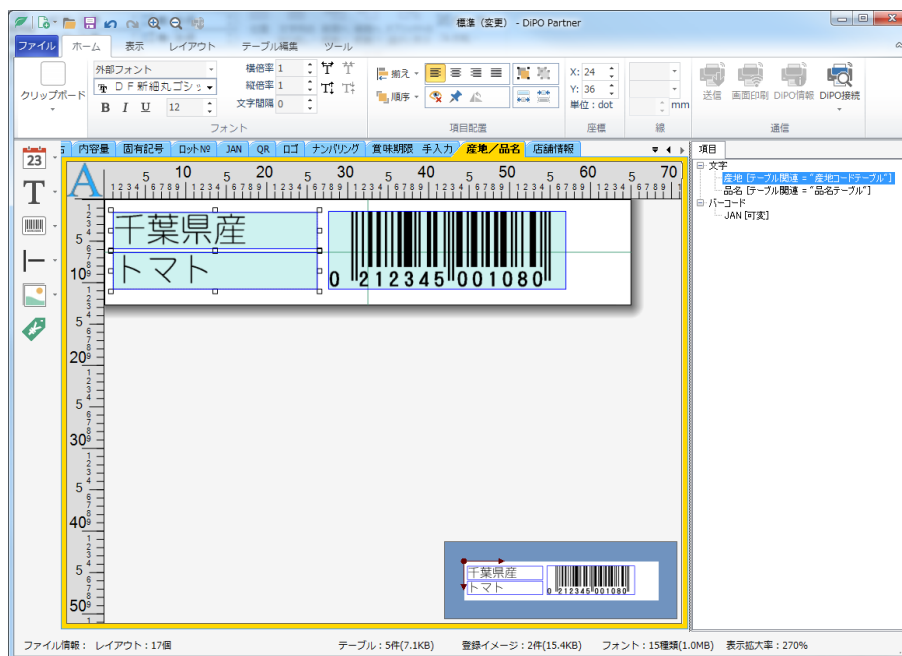
	コード (8B)	内容 (80B)
1	0	無し
2	1	北海道産
3	2	青森県産
4	3	岩手県産
5	4	秋田県産
6	5	宮城県産
7	6	山形県産
8	7	福島県産
9	8	茨城県産
10	9	栃木県産
11	10	群馬県産
12	11	埼玉県産
13	12	千葉県産
14	13	東京都産
15	14	神奈川県産
16	15	山梨県産
17	16	長野県産
18	17	新潟県産
19	18	岐阜県産
20	19	静岡県産
21	20	愛知県産
22	21	三重県産
23	22	富山県産
24	23	石川県産

メインツールバーのテーブル編集のテーブル新規作成機能を使って、コードテーブルから下図のような品名テーブルを作成します。

[品名テーブル]

商品コード(2B)	品名(20B)
0	
1	きゅうり
2	にんじん
3	だいこん
4	キャベツ
5	レタス
6	トマト
7	ねぎ
8	なす
9	じゃがいも
10	ブロッコリー

- ② 文字項目の中の産地項目から千葉県産を選択してレイアウトします。
また、品名を文字項目でレイアウトします。



産地のプロパティを開き、データタブでテーブルから取得に✓を入れます。
すると、一時変更設定が有効になりますので、手動一時変更に✓を入れます。
[OK] ボタンをクリックします。

同様に、品名のプロパティを開き、データタブでテーブルから取得に✓を入れます。
 データ関連付けで、テーブル名に品名テーブルを、データ選択にトマトを選択します。
 すると、一時変更設定で自動的に手動一時変更に✓が入ります。
 [OK] ボタンをクリックします。

- ③ このファイルをD i P Oに送信します。

以下、D i P O側のタッチパネルについて説明をします。

- ④ [印字内容] にタッチして、上述の産地／品名のレイアウト名を選択します。
 青枠で表示された項目がD i P Oで変更することができます。
 最初に、産地の青枠にタッチします。

- ⑤ この産地画面で産地コードを変更することによって、リンクされた産地を変更することができます。

DiPO Partner でレイアウトされた産地のプロパティのテーブルで関連付けられたデータ選択「千葉県産」が表示されています。

▲または▼にタッチして、産地コードを変更します。

たとえば、産地コード「10」を選択し、「決定」にタッチします。

- ⑥ 産地コードにリンクされた産地に変更することができました。次に、品名の青枠にタッチします。

- ⑦ この品名画面で品名コードを変更することによって、リンクされた品名を変更することができます。

DiPO Partner でレイアウトされた品名のプロパティのテーブルで関連付けられたデータ選択 [トマト] が表示されています。

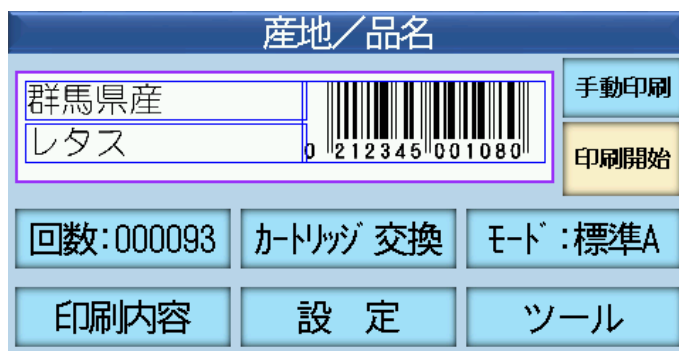
▲または▼にタッチして、品名コードを変更します。



たとえば、品名コード [5] を選択し、[決定] にタッチします。



- ⑧ 品名コード [5] にリンクされた品名に変更することができました。

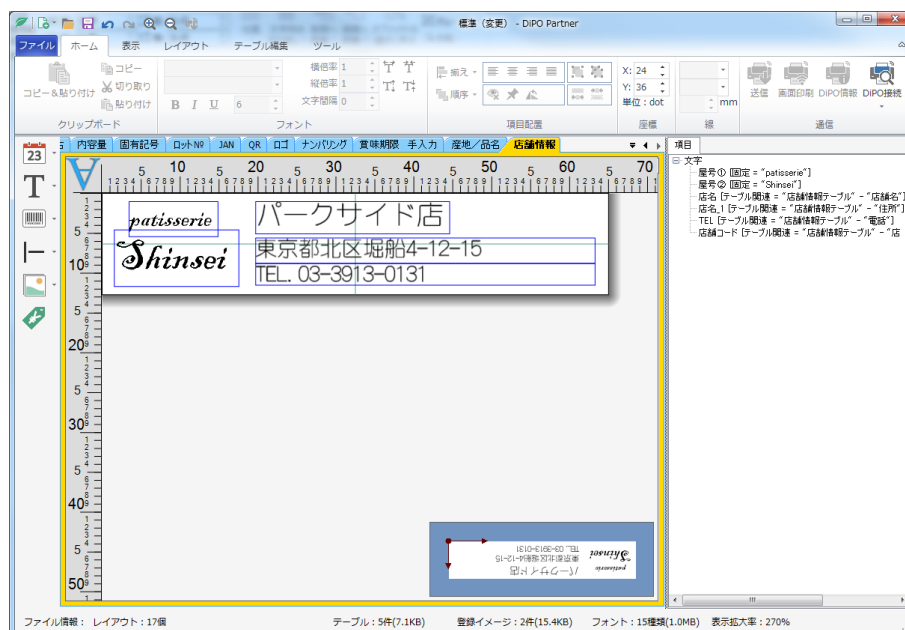


(iv) 店舗情報をレイアウトした文字項目プロパティでテーブルから取得に✓を入れると、DiPO側で店舗情報を変更することができます。

- ① たとえば、メインツールバーのテーブル編集のテーブル新規作成機能を使ってマルチテーブルから下図のような店舗情報テーブルを作成します。

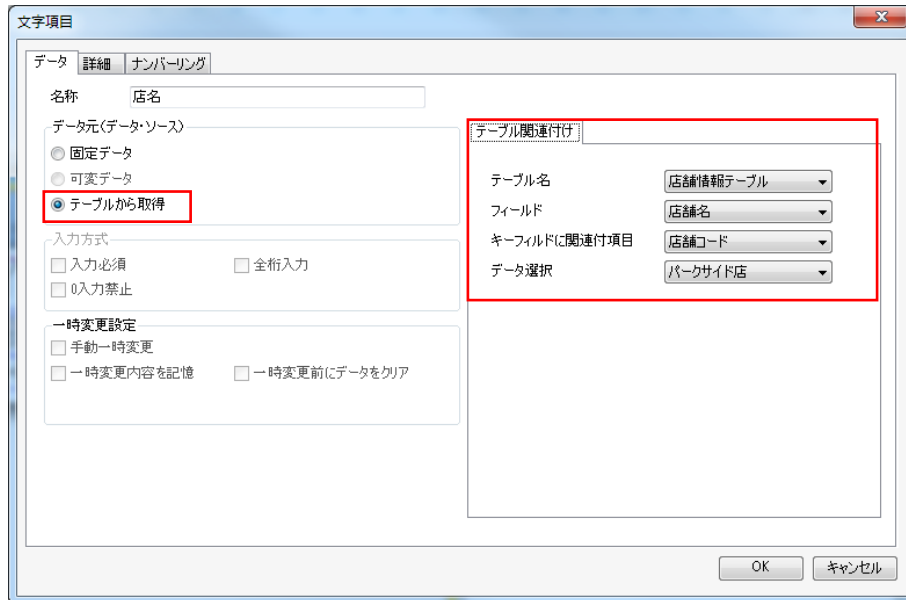
	店舗コード(8B)	店舗名(20B)	住所(40B)	電話(20B)
1	1	パークサイド店	東京都北区堀船4-12-15	TEL.03-3913-0131
2	2	湯島店	東京都文京区湯島3-24-13	TEL.03-5818-7861
3	3	大阪中央店	大阪府中央区農人橋2-1-30	TEL.06-6765-4381
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

- ② 店舗名、住所、電話番号を文字項目でレイアウトします。
また、patisserie と Shinsei も文字項目でレイアウトします。



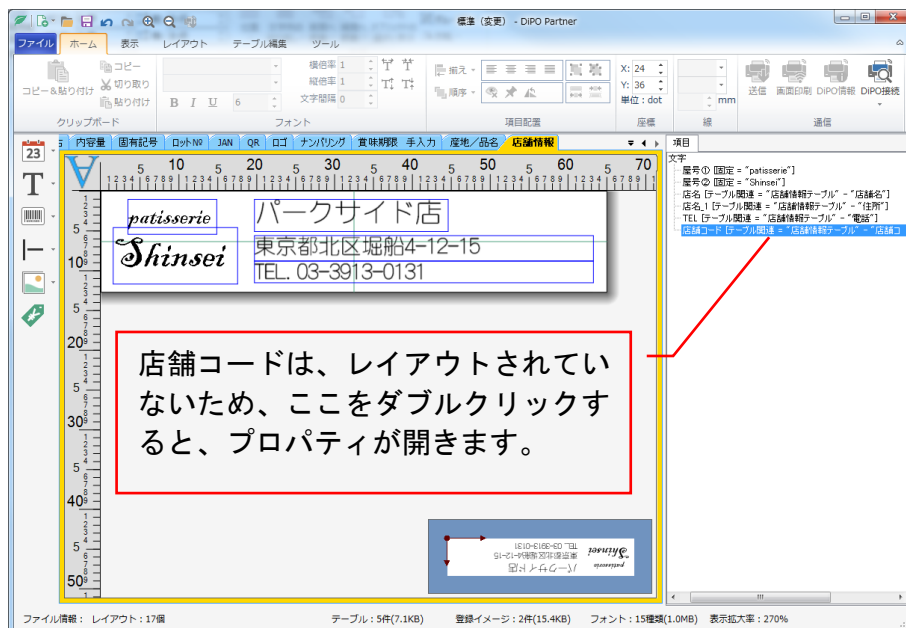
店舗名のプロパティを開き、データタブでテーブルから取得に✓を入れます。
 テーブル関連付けで、テーブル名に店舗情報テーブルを、フィールドに店舗名を、キーフィールドに関連付項目に店舗コードを、データ選択にパークサイド店を選択します。
 キーフィールドに関連付項目に店舗コードを選択すると、一時変更設定が無効になり、自動的に店舗コードが作成されますが、レイアウトされません。(デフォルトは、印刷に✓が入っていないため)

[OK] ボタンをクリックします。



同様に、住所、電話番号のプロパティを設定します。

③ 店舗コードが自動的にレイアウトされています。



- ④ このファイルをDiPOに送信します。

以下、DiPO側のタッチパネルについて説明をします。

- ⑤ 「印字内容」にタッチして、上述の店舗情報を変更したいレイアウト名を選択します。
青枠で表示された項目がDiPOで変更できます。
いずれかの青枠にタッチします。

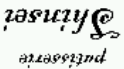
- ⑥ この店舗コード画面で店舗コードを変更することによって、リンクされた店舗情報を変更することができます。

DiPO Partner でレイアウトされた店舗情報のプロパティのテーブル関連付けられたデータ選択「パークサイド店」が表示されています。

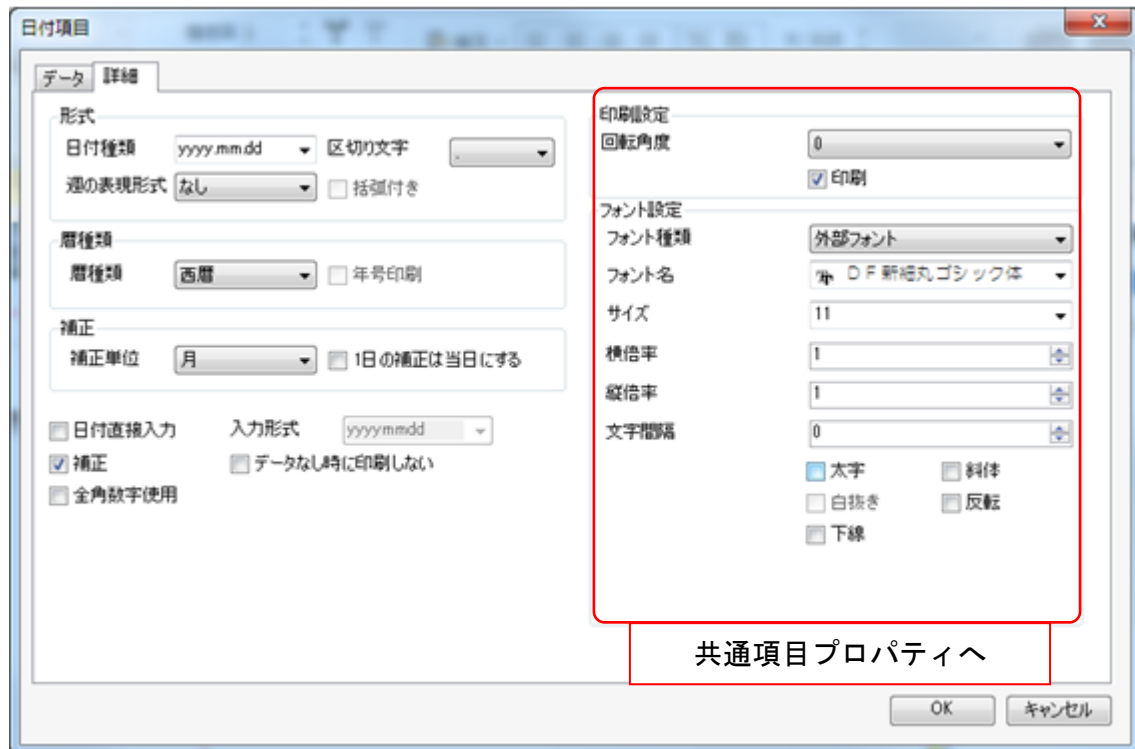
▲または▼にタッチして、店舗コードを変更します。

たとえば、店舗コード[2]を選択し、「決定」にタッチします。

- ⑦ 店舗コード[2]にリンクされた店舗情報に変更することができました。

店舗情報		
TEL. 03-5818-7861	 SHIRASEI	手動印刷
東京都文京区湯島3-24-13		印刷開始
湯島店		
回数:000082	カートリッジ 交換	モード:標準A
印刷内容	設定	ツール

B 詳細タブ



- 日付種類 ----- プルダウンメニューから、日付の表示形式を選択します。
- * [mm] : 月を2桁で表示、1桁の月の場合、前に [0] が付加されます。
 - * [dd] : 日を2桁で表示、1桁の日の場合、前に [0] が付加されます。
 - * [yy] : 年を西暦末尾2桁で表示します。
 - * [m] : 月を2桁で表示、1桁の月の場合、前にスペースが付加されます。
 - * [d] : 日を2桁で表示、1桁の日の場合、前にスペースが付加されます。
- 区切り文字 ----- プルダウンメニューから、年、月、日の区切りに使用する文字を選択します。
- 週の表現形式 ----- プルダウンメニューから、曜日の表示方法を選択します。
- * [X 曜日] : 設定された日付の末尾に [月曜日] のように曜日表示します。
 - * [X] : 設定された日付の末尾に1文字で [月] のように曜日表示します。

- 括弧付き ----- [週の表現形式] で [なし] 以外を選択した場合に設定することができます。指定した曜日の前後に () を付加する場合に✓を入れます。
- 暦種類 ----- プルダウンメニューから、日付の表示に使用する暦を選択します。
- 年号印刷 ----- [暦種類] で [和暦] を選択した場合に設定することができます。元号を日付項目の先頭に付加する場合に✓を入れます。
- 補正単位 ----- 画面下部の [補正] を選択した場合に設定することができます。
プルダウンメニューから、補正単位を選択します。
* [年] を選択すると、年単位で加算して補正を行います。
* [月] を選択すると、月単位で加算して補正を行います。
* [日] を選択すると、日単位で加算して補正を行います。
- 1 日の補正は当日にする --- 補正データを 1 日と指定した場合、印刷日を補正日 1 日目として処理を行います。✓を入れない場合は、印刷日の翌日が補正日 1 日目となります。
- 日付直接入力 ----- 日付の直接入力が有効になります。直接入力を行う形式をプルダウンメニューから選択してください。選択する形式は、詳細タブ内の日付種類と合わせる必要があります。
*日付種類で ymd の 3 種類の文字が使用されている場合、入力形式は ymd の 3 種類の文字で構成された入力形式を選択する必要があります。
*日付種類で md の 2 種類の文字が使用されている場合、入力形式は md の 2 種類の文字で構成された入力形式を選択する必要があります。
- 入力形式 ----- 日付直接入力に✓入れた場合に有効になります。直接入力を行う形式をプルダウンメニューから選択してください。選択する形式は、詳細タブ内の日付種類と合わせる必要があります。
- 補正 ----- 日付項目を補正する場合に✓を入れます。補正を行わない場合、発行日の日付が常に表示 (印刷) されます。
- データなし時に印刷しない --- [補正] に✓を入れた場合に設定することができます。印刷時に補正データが入力されていなければ日付 (時刻) を印刷しないようにする場合に✓を入れます。

- 全角数字使用 ----- 日付項目を全角サイズで表示（印刷）する場合に✓を入れます。
全角数字を使用することにより日付項目と時刻項目が重なる場合は、
日付項目/ 時刻項目を移動させるか、プロパティの「[フォント設定]」
で文字間隔を狭めてください。
- 印刷設定 ----- 印刷される日付の角度や印刷有無の設定を行います。
※印刷設定項目については、「[第5章 1－（4）印刷設定]」の共通項
目プロパティをご参照ください。
- フォント設定 ----- 印刷される文字のフォントやサイズなどの設定を行います。
※フォント設定については、「[第5章 1－（5）フォント設定]」の共
通項目プロパティをご参照ください。

(2) 時刻項目プロパティ

A データタブ

時刻を入力

データ 詳細

名称 時刻

データ元(データ・ソース)

☐ 固定データ

☐ 可変データ

☐ テーブルから取得

入力方式

☐ 入力必須 ☐ 全桁入力

☐ 入力禁止

一時変更設定

☐ 手動一時変更

☐ 一時変更内容を記憶 ☐ 一時変更前にデータをクリア

共通項目プロパティへ

OK キャンセル

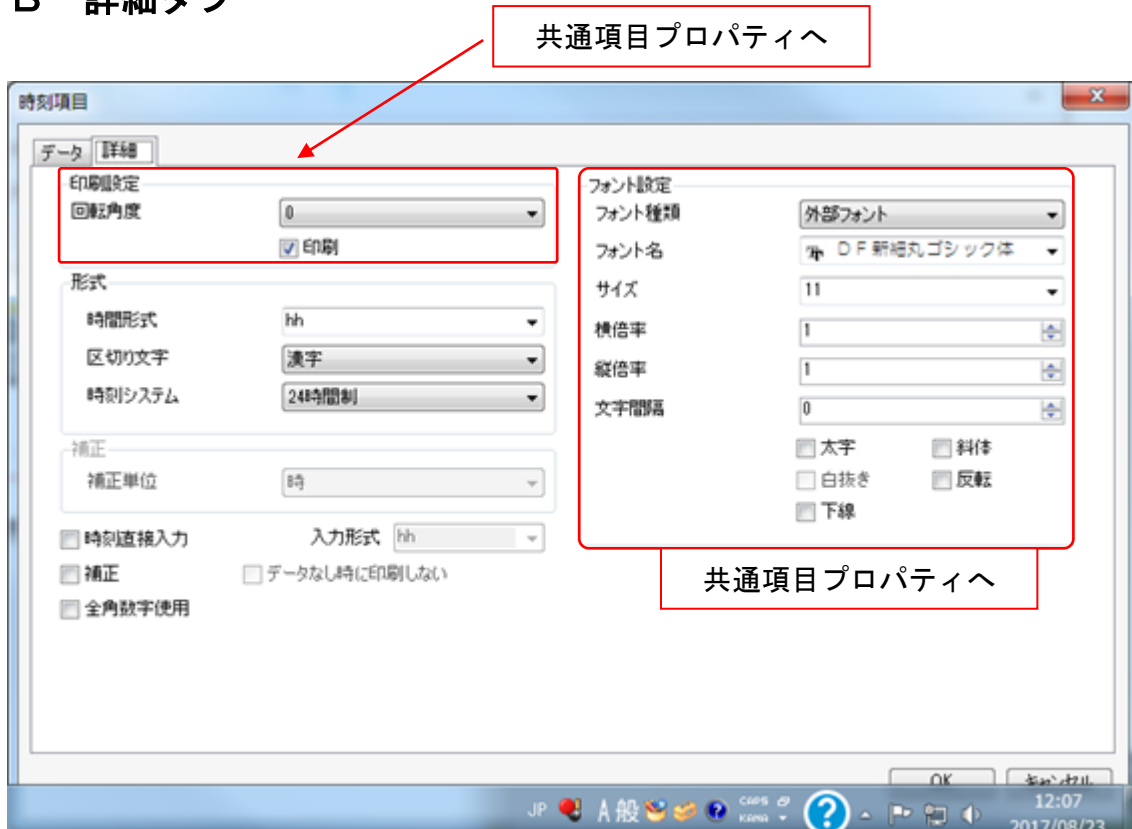
名称 ----- 項目の名称を設定することができます。名称は、項目一覧エリア等に反映されます。

データ元(データ・ソース) -- 印刷に使用する時刻の値をどの様に入力するかを設定します。
※データ元項目の設定については[第5章 1 - (1) データ元]の項目をご参照ください。

入力方式 ----- データの入力条件に関する設定を行います。[入力方式]をご参照ください。
※入力方式項目の設定については[第5章 1 - (2) 入力方式]の共通項目プロパティをご参照ください。

一時変更設定 ----- D i P Oのタッチパネル上で印刷前にデータの変更をすることができます。
※入力方式項目の設定については、[第5章 1 - (3) 一時変更設定]の共通項目プロパティをご参照ください。

B 詳細タブ



印刷設定 ----- 印刷される文字やイメージの角度や印刷有無の設定を行います。
 ※印刷設定項目については、[第5章 1－(4) 印刷設定] の共通項目プロパティをご参照ください。

時間形式 ----- プルダウンメニューから時刻の表示形式を選択します。

- * [h] : 時間を 1 桁または 2 桁で表示します。1 桁の場合は、詰めて印刷します。
- * [h] : 時間を 2 桁で表示します。1 桁の場合は、前にスペースが付加されます。
- * [hh] : 時間を 2 桁で表示します。1 桁の場合は、前に [0] が付加されます。
- * [hh:mm] : 時間・分を 2 桁で表示します。1 桁の場合は、前に [0] が付加されます。
- * [h: m] : 時間・分を 2 桁で表示します。1 桁の場合は、前にスペースが付加されます。
- * [h:m] : 時間・分を 1 桁または 2 桁で表示します。1 桁の場合は、詰めて印刷します。
- * [hh:mm:ss] : 時間・分・秒を 2 桁で表示します。1 桁の場合は、前に [0] が付加されます。
- * [h: m: s] : 時間・分・秒を 2 桁で表示します。1 桁の場合は、スペースを付加します。
- * [h:m:s] : 時間・分・秒を 1 桁または 2 桁で表示します。1 桁の場合は、詰めて印刷します。

- 区切り文字 ----- プルダウンメニューから、時、分、秒の区切りに使用する文字を選択します。
- 時刻システム ----- プルダウンメニューから、時刻の表示に使用する時刻システムを選択します。[12 時間制]、[24 時間制]、[AM/PM+12 時間制]、または[午前/ 午後+12 時間制]のいずれかを選択します。
- 補正単位 ----- 画面下部の[補正]に✓を入れた場合に設定することができます。プルダウンメニューから、補正単位を選択します。
 * [時]：時間単位で加算して補正を行います。
 * [分]：分単位で加算して補正を行います。
- 時刻直接入力 ----- ✓を入れると時刻の直接入力が有効になります
 補正機能と併用はできません。
- 入力形式 ----- [時刻直接入力]に✓を入れた場合に設定します。
 プルダウンメニューから直接入力する際の形式を選択します。
 形式は[時間形式]で選択した項目と揃える必要があります。
 * [hhmmss]：6桁(時間2桁、分2桁、秒2桁)を入力します。
 1桁の場合は、0を入れて入力します。
 17時5分9秒=170509
 * [hhmm]：4桁(時間2桁、分2桁)を入力します。
 1桁の場合は、0を入れて入力します。
 17時5分=1705
 * [hh]：時間を2桁入力します。
 1桁の場合は、0を入れて入力します。
 8時=08
 * [mmss]：4桁(分2桁、秒2桁)を入力します。
 1桁の場合は、0を入れて入力します。
 5分9秒=0509
 * [ss]：分を2桁入力します。
 1桁の場合は、0を入れて入力します。
 5分=05
- 補正 ----- 時刻項目を補正する場合に✓を入れます。補正を行わない場合、印刷時刻が常に表示(印刷)されます。
 時刻直接入力と併用はできません。
- データなし時に印刷しない -- [補正]または[時刻直接入力]に✓を入れた場合に設定することができます。印刷時にデータが入力されていなければ日付(時刻)を印刷しないようにする場合に✓を入れます。
- 全角数字使用 ----- 時刻項目を全角サイズで表示(印刷)します。
- フォント設定 ----- 印刷される文字のフォントやサイズなどの設定を行います。
 ※フォント設定については[第5章1-(5)フォント設定]の共通項目プロパティをご参照ください。

(3) 文字項目のプロパティ

A データタブ

The screenshot shows the 'Text Item' (文字項目) dialog box with the 'Data' (データ) tab selected. The 'Data Source' (データ元) section is highlighted with a red box and labeled '共通項目プロパティへ' (To Common Item Properties). The 'Table Link' (テーブル関連付け) section is on the right.

データ元(データ・ソース)

- ☐ 固定データ
- ☐ 可変データ
- ☒ テーブルから取得

入力方式

- ☐ 入力必須 ☐ 全桁入力
- ☐ 0入力禁止

一時変更設定

- ☐ 手動一時変更
- ☐ 一時変更内容を記憶 ☐ 一時変更前にデータをクリア

テーブル関連付け

- テーブル名: 日付付帯文字テーブル
- フィールド: 内容
- キーフィールドに関連付け項目:
- データ選択: 製造日

Buttons: OK, キャンセル

名称 ----- 文字項目の名称を設定します。名称は、項目一覧エリア等に反映されます。

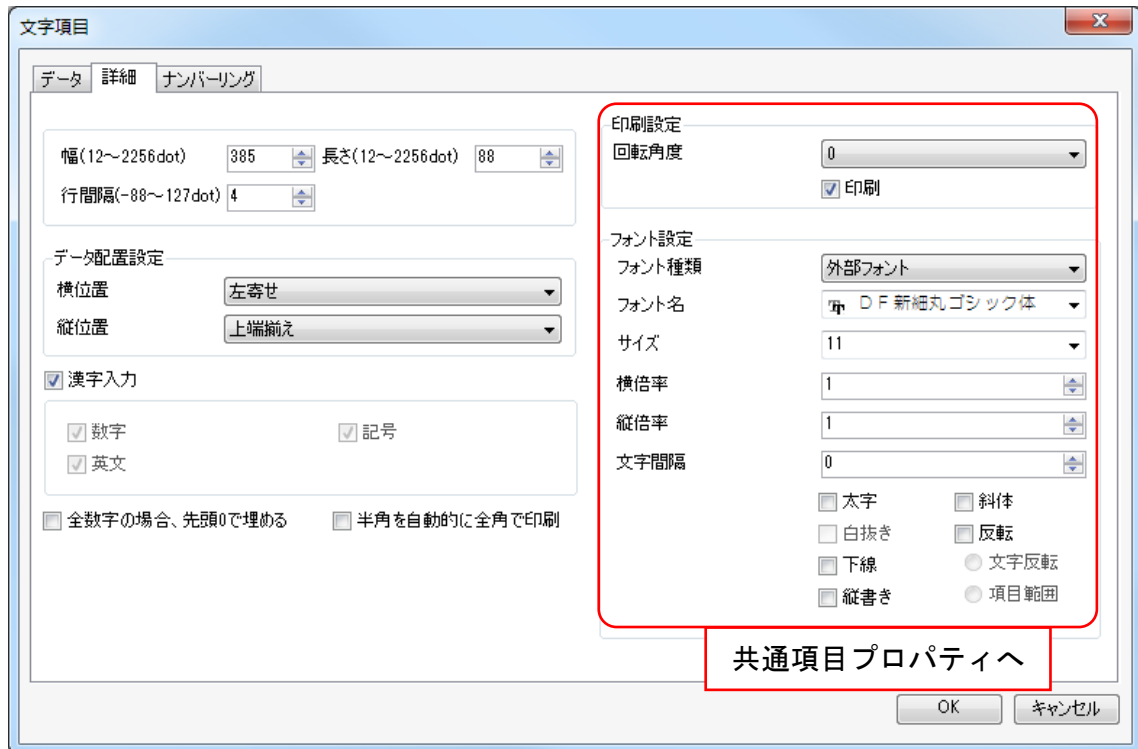
桁数固定 ----- 文字項目プロパティでは設定できません。

データ元(データ・ソース) 印刷に使用する文章や値をどの様に入力するかを設定します。
※データ元項目の設定については[第5章 1-(1) データ元]の共通項目プロパティをご参照ください。

入力方式 ----- データの入力条件に関する設定を行います。[入力方式]をご参照ください。
※入力方式項目の設定については[第5章 1-(2) 入力方式]の共通項目プロパティをご参照ください。

一時変更設定 ----- D i P Oのタッチパネル上で印刷前にデータの変更をすることができます。
※入力方式項目の設定については、[第5章 1-(3) 一時変更設定]の共通項目プロパティをご参照ください。

B 詳細タブ



幅 ----- レイアウト上の文字項目の幅を設定します。

長さ ----- レイアウト上の文字項目の縦を設定します。

行間隔 ----- レイアウト上の文字項目内の行間隔を設定します。

横位置 ----- レイアウト上の文字項目に対して入力した項目データの横方向の位置を設定します。
[左寄せ]、[中央]、[右寄せ]、または[均等]を選択することができます。メインツールバーの[ホーム]でも同様の操作ができます。

縦位置 ----- レイアウト上の文字項目に対して入力した項目データの縦方向の位置を設定します。
[上端揃え]、[上下中央揃え]、[下端揃え]、[上下両端揃え]、または[行間隔均等]を選択することができます。

漢字入力 ----- すべての文字種が漢字入力になります。
ナンバーリングを行う場合は、[漢字入力]の✓を外し、[数字]のみに✓を入れる必要があります。

数字 ----- [漢字入力]の✓を外している場合に設定します。
入力可能な文字種に半角数字を含める場合に✓を入れます。
ナンバーリングを行う場合は、[漢字入力]の✓を外し、[数字]のみに✓を入れている必要があります。

- 記号 ----- [漢字入力] の✓を外している場合に設定します。
入力可能な文字種に記号を含める場合に✓を入れます。
- 英文 ----- [漢字入力] の✓を外している場合に設定します。
入力可能な文字種に半角英字を含める場合に✓を入れます。
ナンバーリングを行う場合は、[漢字入力] の✓を外し、[数字] のみに✓を入れている必要があります。
- 全数字の場合、先頭 0 で埋める -- [数字] に設定された項目の入力データが設定された桁数よりも小さい桁数の場合に不足桁数分を先頭から [0] で埋めます。
※ナンバーリングは桁数が不足している場合に実行されないため、ナンバーリングを行う場合は、✓を入れます。
- 半角を自動的に全角で印刷 -- 半角で入力された数字、英字、記号を自動的に全角に変換して印刷します。
- 印刷設定 ----- 印刷される文字の角度や印刷有無を設定します。
※印刷設定については [第5章 1 – (4) 印刷設定] の共通項目プロパティをご参照ください。
- フォント設定 ----- 印刷される文字のフォントやサイズなどの設定を行います。
※フォント設定については [第5章 1 – (5) フォント設定] の共通項目プロパティをご参照ください。

C ナンバーリングタブ

- ① ナンバーリングタブを開く前に、詳細タブで漢字入力の✓を外し数字項目にのみ✓を入れます。

文字項目

データ 詳細 ナンバーリング

幅(12~2256dot) 722 長さ(12~2256dot) 98
行間隔(-88~127dot) 4

データ配置設定
横位置 左寄せ
縦位置 上端揃え

☒ 漢字入力
☒ 数字 ☐ 記号
☒ 英文

☐ 全数字の場合、先頭0で埋める ☐ 半角を自動的に全角で印刷

印刷設定
回転角度 0
☒ 印刷

フォント設定
フォント種類 外部フォント
フォント名 新細丸ゴシック体
サイズ 11
横倍率 1
縦倍率 1
文字間隔 0

☐ 太字 ☐ 斜体
☐ 白抜き ☐ 反転
☐ 下線 ☐ 文字反転
☐ 縦書き ☐ 項目範囲

OK キャンセル

- ② データタブで可変データを選択します。

たとえば、名称を「ナンバーリング」と入力し、桁数を[6]に設定し、可変データ枠に[000001]と入力し、入力必須と全桁入力で✓を入れます。

文字項目

データ 詳細 ナンバーリング

名称 ナンバーリング
桁数(半角) 6 ☒ 桁数固定

データ元(データソース)
☐ 固定データ ☐ 合成
☒ 可変データ ☐ リンク
☐ テーブルから取得 ☐ 演算

入力方式
☒ 入力必須 ☒ 全桁入力
☐ 0入力禁止

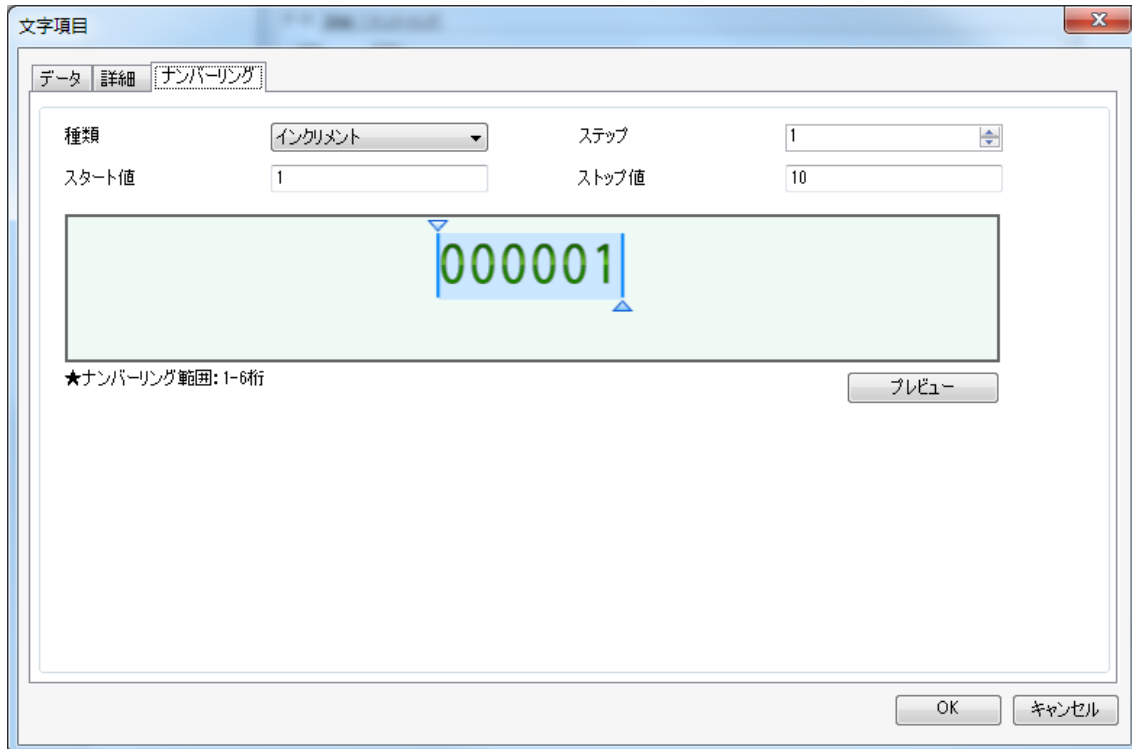
一時変更設定
☒ 手動一時変更
☒ 一時変更内容を記憶 ☐ 一時変更前にデータをクリア

可変データ入力
可変データ 000001

OK キャンセル

③次に、ナンバーリングタブを開きます。

プレビュー画面で桁数が6桁になるようにスライドをドラッグします。



- ①種類 ----- インクリメント=加算します。デクリメント=減算します。
- ②ステップ ----- 加減算の幅を設定することができます。
- ③スタート値 ----- 可変データに入力された[1]を入力します。
- ④ストップ値 ----- ナンバーリング範囲内でストップ値を設定することができます。
- ⑤ナンバーリング範囲 ----- スライダーを使用してナンバーリング範囲を設定します。
- ⑥プレビュー ----- 設定内容をプレビュー表示します。

(4) バーコード項目のプロパティ

A データタブ

名称 ----- バーコード項目の名称を設定します。名称は、項目一覧エリア等に反映されます。

桁数（半角） ----- バーコードタイプに応じて桁数が表示されます。変更することはできません。

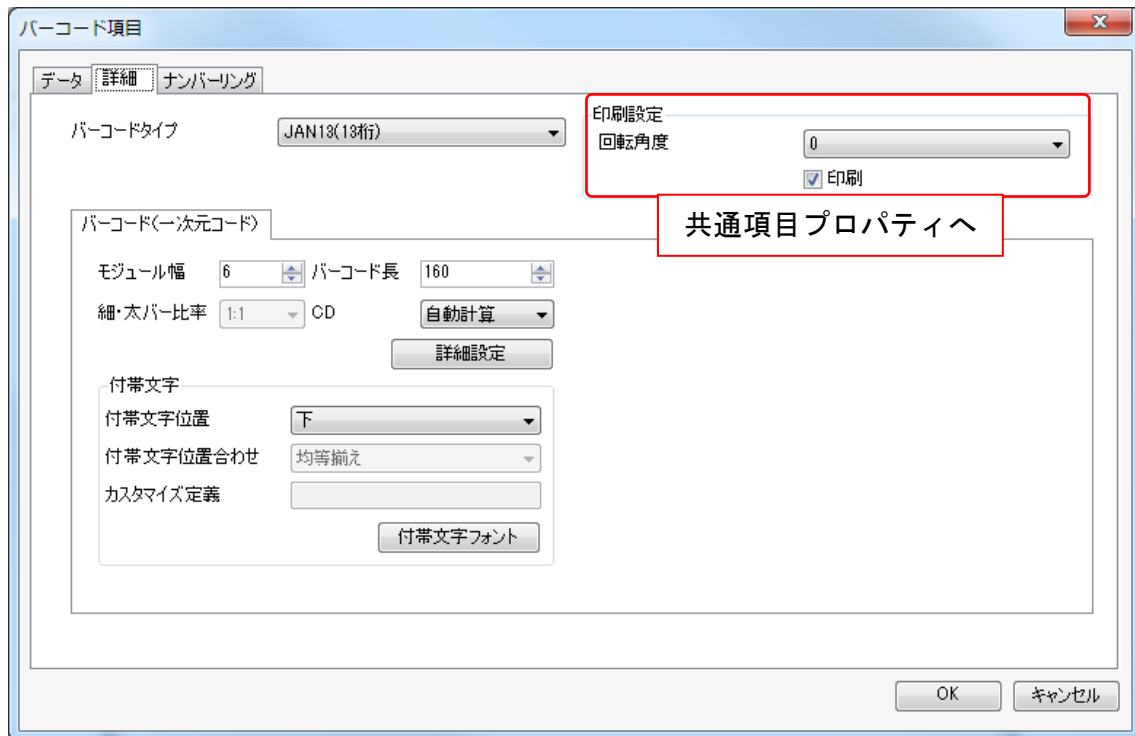
桁数固定 ----- バーコード項目プロパティでは設定できません。

データ元（データ・ソース） -- バーコードに使用する文章や値をどの様に入力するかを設定します。
基本的には「固定データ」を使用します。
※データ元項目の設定については「第5章 1 - (1) データ元」の共通項目プロパティをご参照ください。

入力方式 ----- データの入力条件に関する設定を行います。「入力方式」をご参照ください。
※入力方式項目の設定については「第5章 1 - (2) 入力方式」の共通項目プロパティをご参照ください。

一時変更設定 ----- D i P Oのタッチパネル上で印刷前にデータの変更をすることができます。
※入力方式項目の設定については、「第5章 1 - (3) 一時変更設定」の共通項目プロパティをご参照ください。

B 詳細タブ



バーコードタイプ ----- バーコードの種類を変更することができます。プルダウンメニューから使用するバーコードの種類を選択します。[バーコードタイプ]の選択に応じて、[詳細] タブの表示が変更されます。

印刷設定 ----- 印刷される文字やイメージの角度や印刷有無の設定を行います。
※印刷設定項目については、[第5章 1 - (4) 印刷設定] の共通項目プロパティをご参照ください。

(i) バーコード（一次元コード）を設定する

[バーコードタイプ] から一次元コードタイプのバーコードを選択した場合、[詳細] タブ画面に、[バーコード（一次元コード）] 項目が表示されます。

*一次元コードタイプのバーコードは、[JAN13 (13 桁)]、[JAN8 (8 桁)] [ITF]、[NW7]、[CODE39]、[CODE128]、[UPC-A (12 桁)]、[UPC-E (7 桁)]、[EAN128] です。

モジュール幅 ----- バーコードのモジュール幅を指定します。

バーコード長 ----- バーコードの長さ（高さ）を指定します。
(バーコード長 1mm≒23.6dot)

細・太バー比率 ----- プルダウンメニューから細いバーと太いバーの比率を選択します。
バーコードタイプによっては変更できない場合があります。

CD ----- プルダウンメニューからチェックデジットの入力（確認）方法を選択します。
バーコードの CD を自動計算することができます。

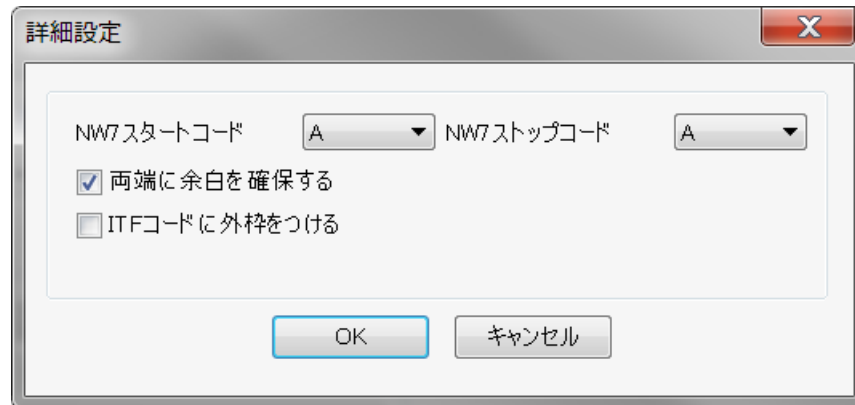
詳細設定 ----- [NW7] のダイアログが表示されますので、各種設定をします。
ダイアログの設定については、後述する (ii) 詳細設定 (NW7) をご参照ください。

付帯文字位置 ----- プルダウンメニューから付帯文字のレイアウト位置を選択します。

付帯文字位置合わせ ----- [付帯文字位置] で [上] を選択した場合に設定することができます。
バーコードタイプによっては変更できない場合があります。
プルダウンメニューからバーコードに対する付帯文字の位置設定を選択します。

付帯文字フォント ----- [バーコードタイプ] を一次元コードタイプ、または GS1 DataBar のシンボルを選択した場合に使用するフォントを設定します。
[フォント] ダイアログ内の各項目の詳細については、[第5章 1 - (5) フォント設定] の共通項目プロパティをご参照ください。
[キャンセル] をクリックすると、変更内容を破棄することができます。
[OK] をクリックすると変更内容を保存することができます。

(ii) 詳細設定 (NW7)



NW7 スタートコード ----- NW7 スタートコードをプルダウンメニューから選択します。

NW7 ストップコード ----- NW7 ストップコードをプルダウンメニューから選択します。

両端に余白を確保する ----- 両端に余白を確保する場合に選択します。
デフォルトは✓が入っています。

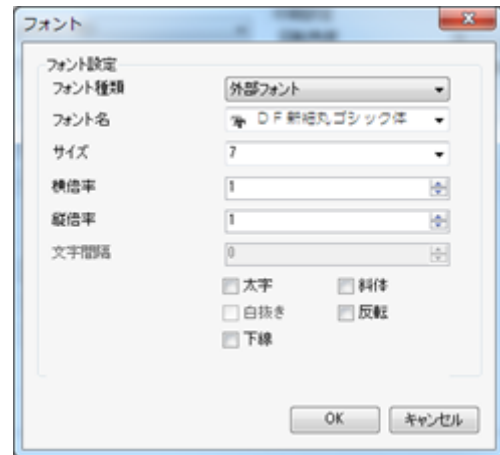
ITF コードに外枠をつける -- ITF コードに外枠を付ける場合に✓を入れます。
デフォルトでは✓が入っていません。

(iii) 付帯文字フォント

付帯文字フォント項目は、フォント種類によって項目が変わります。



内蔵フォント



外部フォント

- フォント種類 ----- 使用するフォントを設定します。
 外部フォント: windows に登録されているフォントを使用します。
 内蔵フォント: DiPO Partner に登録されているフォントを使用します。
 フォントによっては使用できない場合があります。
- フォント名 ----- 使用するフォントを選択します。
- フォント幅 ----- 文字の横サイズを設定します。(単位: dot)
- フォント長 ----- 文字の縦サイズを設定します。(単位: dot)
- サイズ ----- 文字のサイズを設定します。(単位: ポイント)
- 横倍率 ----- 文字の横倍率を設定します。(横サイズ=サイズ×横倍率)
- 縦倍率 ----- 文字の縦倍率を設定します。(縦サイズ=サイズ×縦倍率)
- 文字間隔 ----- 文字間隔を設定します。
- 太字 ----- 文字が太字になります。
- 白抜き ----- 文字のアウトラインが白抜きになります。
 フォントによっては使用できない場合があります。
- 下線 ----- 文字に下線を付与します。
- 斜体 ----- 文字が斜体になります。
- 反転 ----- 文字周囲が黒くなり、文字が白くなります。

(iv) QR を設定する

[バーコードタイプ] から [QR] または [Micro QR (最大 35 桁)] を選択した場合、[QR] 項目が表示されます。

※作成した QR コードを読み取る場合は、QR コードのサイズまたは読み取り機器の精度などによって読み取ることができない場合がありますので、ご注意ください。

バーコード項目

データ 詳細 ナンバーリング

バーコードタイプ: QR

☐ 印刷する前に確認表示

印刷設定
回転角度: 0
☒ 印刷

QR

セルサイズ: 6

マスク番号: Default

エラー訂正レベル: L (7%)

OK キャンセル

セルサイズ QR ----- コードのセルサイズモジュール幅を指定します。

マスク番号 ----- プルダウンメニューからマスクパターンを選択します。

エラー訂正レベル ----- プルダウンメニューから誤り訂正機能のレベルを選択します。

(v) PDF417 を設定する

[バーコードタイプ] から [PDF417 Standard] または [PDF417 Truncated] を選択した場合、[詳細] タブ画面に [PDF417] 項目が表示されます。

バーコード項目

データ 詳細 ナンバーリング

バーコードタイプ PDF417 Standard

印刷設定
回転角度 0
☒ 印刷

PDF417

横モジュール幅	4	縦モジュール幅	12
行数	0	列数	0
エラー訂正レベル	0-Lowest Security	エラー訂正%	0
縦横比率	0.5		

OK キャンセル

横モジュール幅 ----- バーコードのモジュール幅を指定します。

縦モジュール幅 ----- バーコードのモジュール高さを指定します。

行数 ----- バーコードの行数を指定します。

列数 ----- バーコードの列数を指定します。

エラー訂正レベル ----- プルダウンメニューから誤り訂正機能のレベルを選択します。

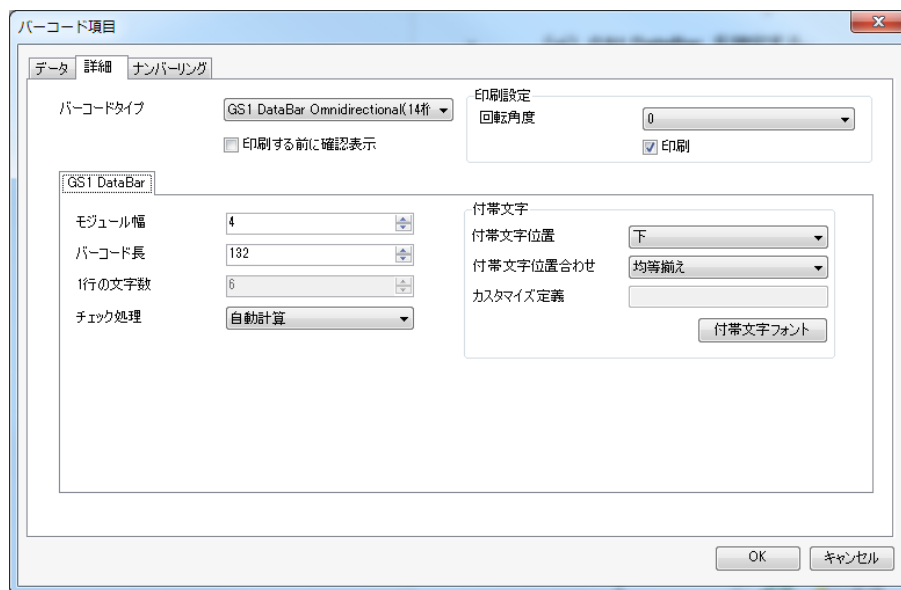
エラー訂正% ----- [エラー訂正レベル] で [エラー訂正%] を選択した場合に設定することができます。誤り訂正機能のレベルを [%] で指定します。

縦横比率 ----- バーコードの縦横比率を指定します。

(vi) GS1 DataBar を設定する

[バーコードタイプ] から GS1 DataBar のシンボルを選択した場合、[詳細] タブ画面に [GS1 DataBar] 項目が表示されます。

*一次元コードタイプのバーコードは、[GS1 Databar Omnidirectional (14 桁)]、[GS1 Databar Truncated (14 桁)]、[GS1 Databar Stacked (14 桁)]、[GS1 Databar Omnidirectional Stacked (14 桁)]、[GS1 Databar Limited (14 桁)]、[GS1 Databar Expanded Standard (最大 74 桁)]、[GS1 Databar Expanded Stacked (最大 74 桁)] となります。
GS1 DataBar の選択に応じて、一部の [GS1 DataBar] 項目が設定対象とならない場合があります。



モジュール幅 ----- シンボルのモジュール幅を指定します。

バーコード長 ----- シンボルの長さ（高さ）を指定します。
（バーコード長 1mm≒23.6dot）

1 行の文字数 ----- 1 行の文字数を指定します。

チェック処理 ----- プルダウンメニューからチェック方法を選択します。

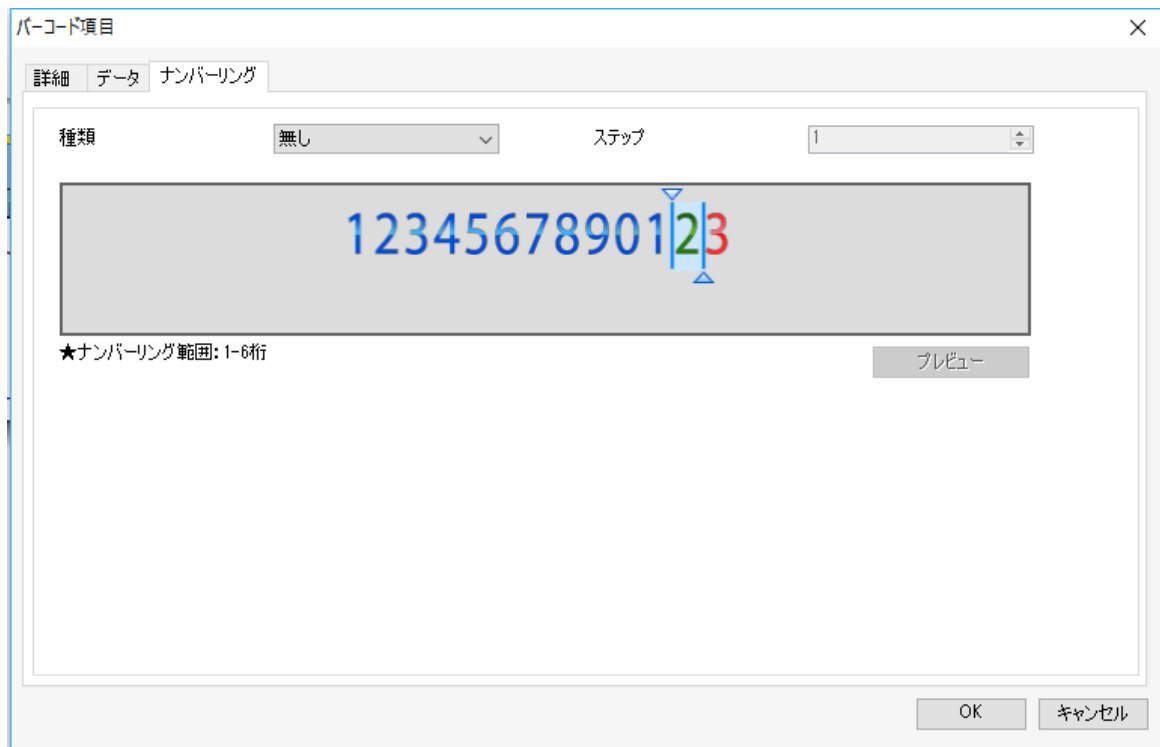
付帯文字位置 ----- プルダウンメニューから付帯文字のレイアウト位置を選択します。

付帯文字位置合わせ ----- [付帯文字位置] で [上] または [下] を選択した場合に設定することができます。プルダウンメニューからバーコードに対する付帯文字の位置設定を選択します。メインツールバーの [ホーム] でも同様の操作ができます。

付帯文字フォント ----- クリックすると、[フォント] ダイアログが表示されます。
※フォント設定については [第5章 1 - (5) フォント設定] の共通項目プロパティをご参照ください。

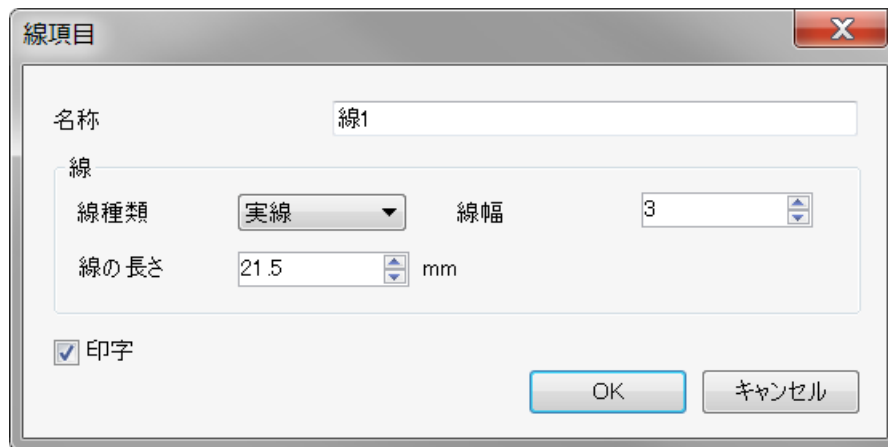
C ナンバーリングタブ

バーコード項目では、無効となります。



(5) 線項目のプロパティ

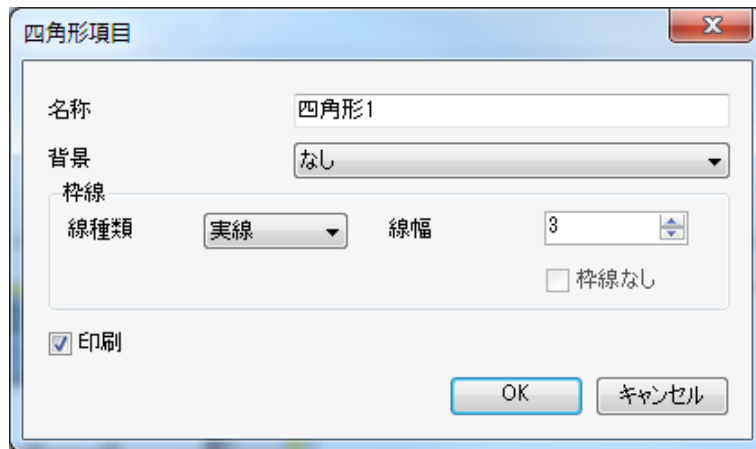
直線項目・斜線項目の項目プロパティは、[線項目] ダイアログで設定します。



- 名称 ----- 項目の名称を設定することができます。名称は、項目一覧エリア等に表示されます。
項目一覧エリアのショートカットメニューでも同様の操作ができます。
- 線種類 ----- プルダウンメニューから線の種類を選択します。
メインツールバーの [ホーム] でも同様の操作ができます。
- 線幅 ----- プルダウンメニューから線の太さを選択します。
メインツールバーの [ホーム] でも同様の操作ができます。
- 線の長さ ----- 直線の長さを指定します。
メインツールバーの [ホーム] でも同様の操作ができます。
- 印刷 ----- 印刷する場合に✓を入れます。
項目一覧エリアのショートカットメニューでも同様の操作ができます。

(6) 四角形項目のプロパティ

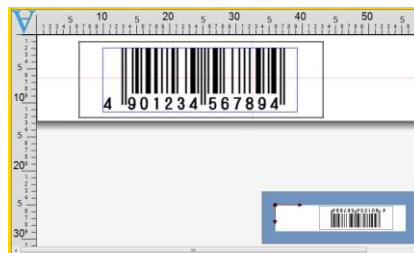
四角形項目の項目プロパティは、[四角形項目] ダイアログで設定します。



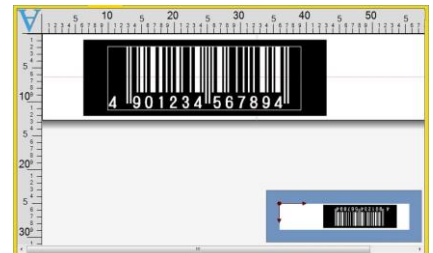
名称 ----- 項目の名称を設定することができます。名称は、項目一覧エリア等に反映されます。
項目一覧エリアのショートカットメニューでも同様の操作ができます。

背景 ----- プルダウンメニューから四角形の枠内の背景を選択します。
[なし]、[点]、[左斜線]、[右斜線]、[網掛け]、[黒] または [反転] のいずれかを選択することができます。

【背景が反転に設定された場合の補足説明】



背景が [なし] に設定



背景が [反転] に設定
背景が黒くバーコードが白に反転します。

線種類 ----- プルダウンメニューから線の種類を選択します。
メインツールバーの [ホーム] でも同様の操作ができます。

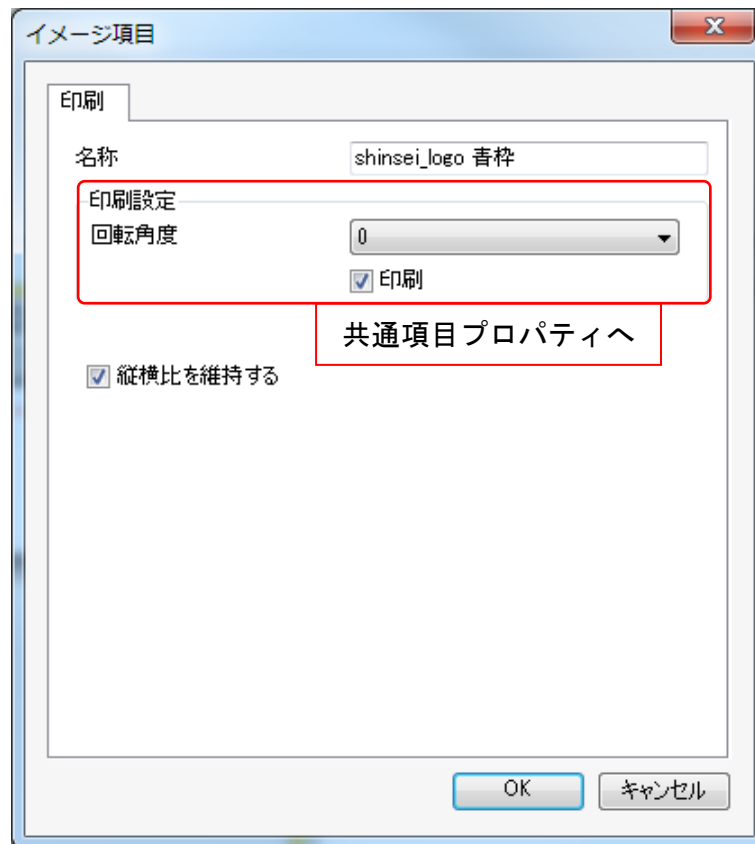
線幅 ----- プルダウンメニューから線の太さを選択します。
メインツールバーの [ホーム] でも同様の操作ができます。

枠線なし ----- [背景] で [なし] 以外を選択した場合に設定することができます。
四角形の枠線を表示しない場合に✓を入れます。

印刷 ----- 項目を印刷対象とする場合に✓を入れます。
項目一覧エリアのショートカットメニューでも同様の操作ができます。

(7) イメージ項目のプロパティ

イメージ項目の項目プロパティは、[イメージ項目] ダイアログで設定します。



名称 ----- 項目の名称を設定することができます。名称は、項目一覧エリア等に反映されます。

印刷設定 ----- 印刷される文字の角度や印刷有無を設定します。
※印刷設定については[第5章 1 – (4) 印刷設定]の共通項目プロパティをご参照ください。

縦横比を維持する ----- 縮小または拡大した時の縦横比を固定します。

(8) 価格項目のプロパティ

A データタブ

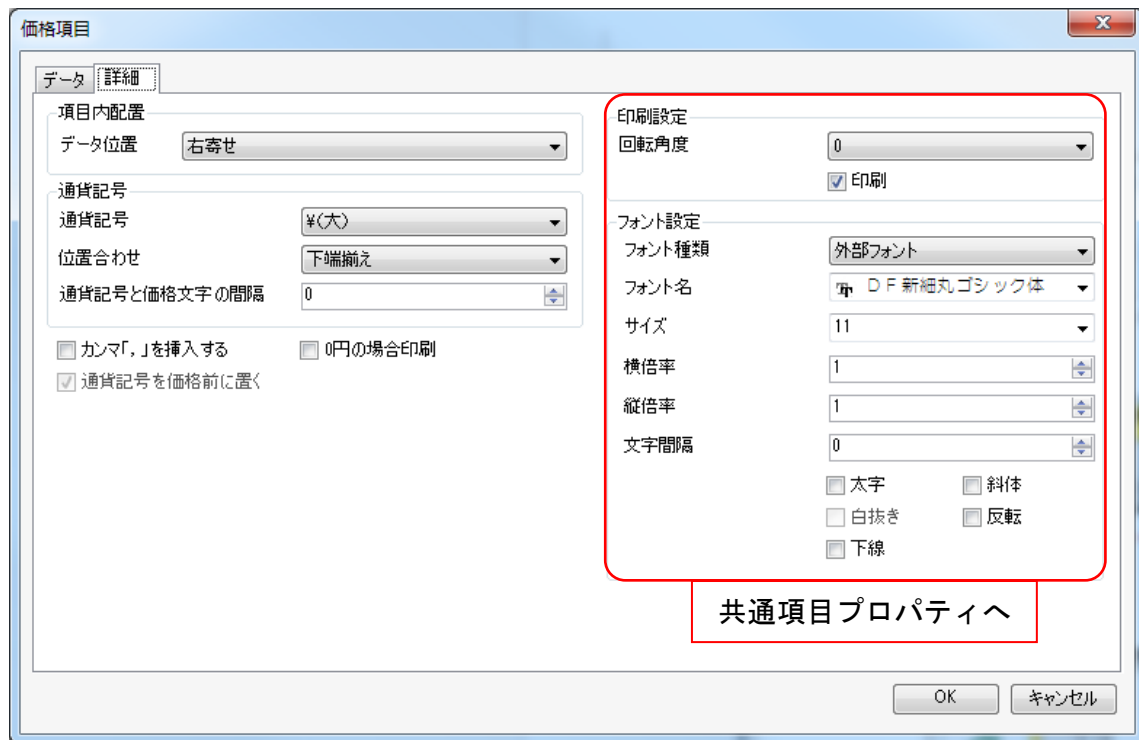
名称 ----- 項目の名称を設定することができます。名称は、項目一覧エリア等に反映されます。

データ元(データ・ソース) -- 価格に使用する値をどの様に入力するかを設定します。
※データ元項目の設定については、[第5章 1 - (1) データ元]の共通項目プロパティをご参照ください。

入力方式 ----- データの入力条件に関する設定を行います。[入力方式]をご参照ください。
※入力方式項目の設定については、[第5章 1 - (2) 入力方式]の共通項目プロパティをご参照ください。

一時変更設定 ----- D i P Oのタッチパネル上で印刷前にデータの変更をすることができます。
※入力方式項目の設定については、[第5章 1 - (3) 一時変更設定]の共通項目プロパティをご参照ください。

B 詳細タブ



- データ位置 ----- プルダウンメニューから、横方向の揃え方法を選択します。
[左寄せ]、[中央]、[右寄せ]、または[均等]を選択します。
メインツールバーの[ホーム]でも同様の操作ができます。
- 通貨記号 ----- プルダウンメニューから使用する通貨記号を選択します。
- 位置合わせ ----- プルダウンメニューから通貨記号の表示位置を選択します。
- 通貨記号と価格文字の間隔 -- 通貨記号と価格の間隔をドット単位で指定します。
(12 ドットで 1 mm)
- カンマ [,] を挿入する --- 4桁以上の価格にカンマを挿入する場合に✓を入れます。
- 0 円の場合印刷 ----- 価格データが 0 円の場合にも印刷を行う場合に✓を入れます。
- 通貨記号を価格前に置く -- 通貨記号の選択に応じて自動的に設定されます。
変更することはできません。
- 印刷設定 ----- 印刷項目の角度や印刷有無を設定します。
※印刷設定については[第5章 1 - (4) 印刷設定]の共通項目プロパティをご参照ください。
- フォント設定 ----- 印刷される文字のフォントやサイズなどの設定を行います。
※フォント設定については[第5章 1 - (5) フォント設定]の共通項目プロパティをご参照ください。

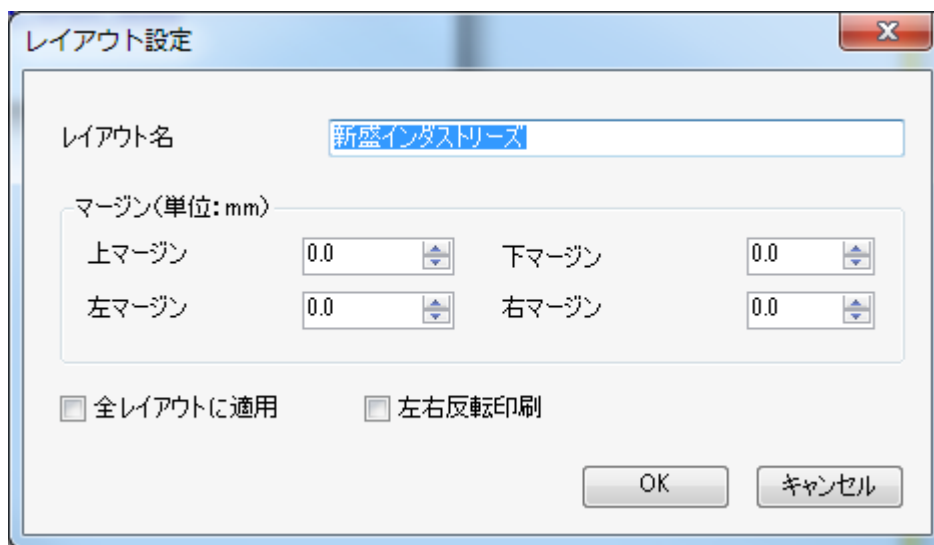
3 レイアウトプロパティ

■レイアウト設定は、レイアウトプロパティで設定します。

レイアウトプロパティは、以下の方法で表示することができます。

- ・ レイアウトタブ上をダブルクリックします。
- ・ レイアウトタブを右クリックします。
- ・ レイアウトエリア内の項目を右クリックするとショートカットメニューが表示され「レイアウトプロパティ」を選択します。

■レイアウト設定は、レイアウト毎に設定します。



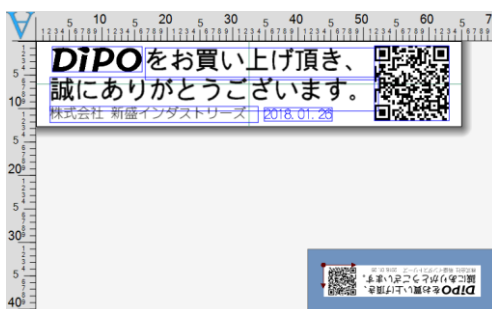
レイアウト名 ----- レイアウトタブに表示する名称を設定します。

上下/左右マージン ----- 印刷範囲内で印刷しない範囲を指定します。

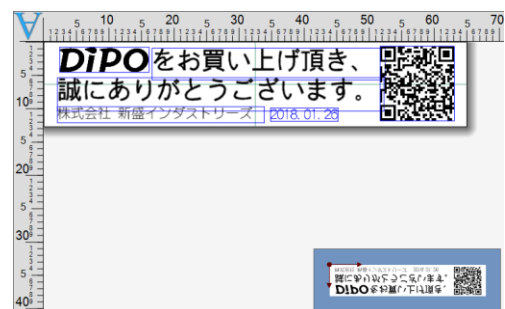
全レイアウトに適用 ----- ✓を入れると全てのレイアウトに適用されます。

左右反転印刷 ----- ✓を入れるとプレビューのように左右反転して印刷されます。

【左右反転印刷の補足説明】



プレビューで通常の状態



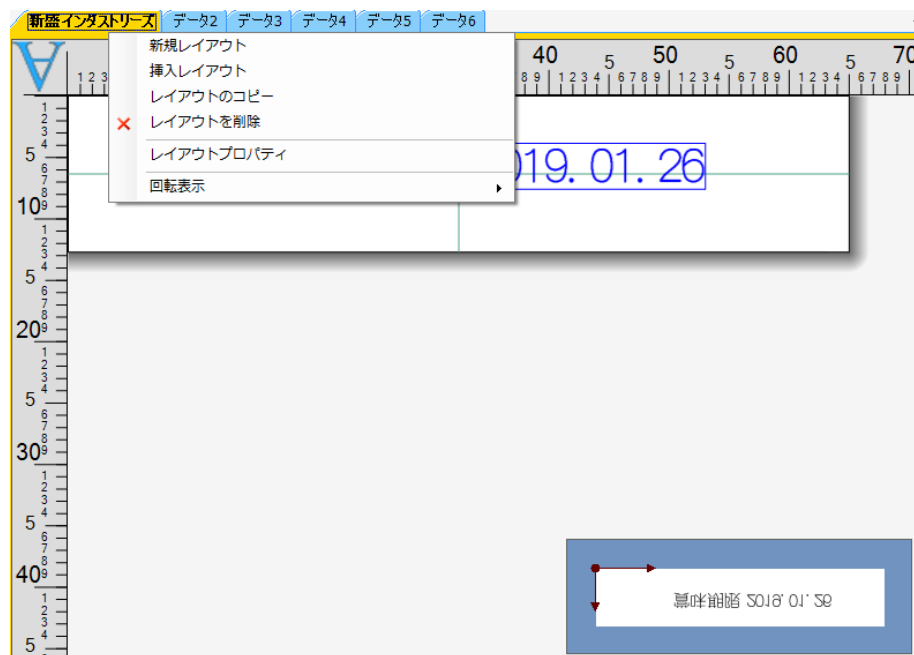
プレビューで左右反転した状態

第6章 ショートカットメニュー

■レイアウトタブやレイアウトエリア内の各項目、項目一覧エリア内の各項目を右クリックすることでショートカットメニューを表示します。

1 レイアウトタブのショートカットメニュー

レイアウトタブを右クリックすると、レイアウトタブのショートカットメニューを表示することができます。



新規レイアウト ----- 新しいレイアウトタブを現在のレイアウトタブの後に追加します。
 メイツールバーの [ファイル] から [新規] ⇒ [レイアウト] でも同様の操作ができます。
 クイックアクセスツールバーの新規作成でも同様の操作ができます。

挿入レイアウト ----- 新しいレイアウトタブを現在のレイアウトタブの前に追加します。

レイアウトのコピー ----- 右クリックしたレイアウトの後ろに同じレイアウトをコピーします。
 項目データもコピーされます。

レイアウトを削除 ----- 右クリックしたレイアウトのタブが削除されます。
 削除したレイアウトに設定されていた項目データも削除されます。
 削除したレイアウトを元に戻す場合は、クイックアクセスツールバーの [元に戻す] を使用してください。

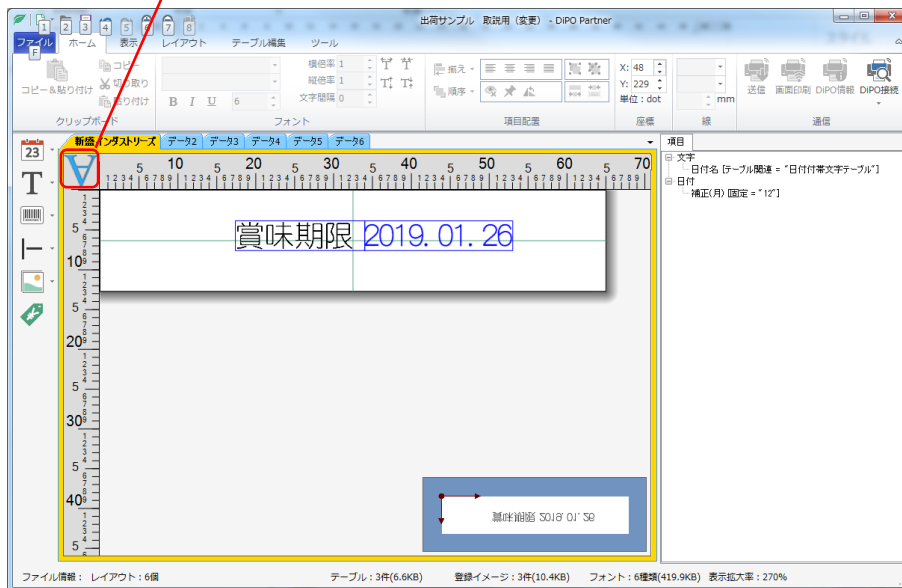
レイアウトプロパティ ----- レイアウトプロパティが表示されます。

※レイアウトプロパティ項目の設定については、[第5章3 レイアウトプロパティ] をご参照ください。

回転表示 ----- レイアウトエリアが0度、90度、180度、270度で選択された角度で回転します。

回転表示は、下図のA文字をダブルクリックすることでもレイアウトを回転させることができます。

ここをダブルクリックします。

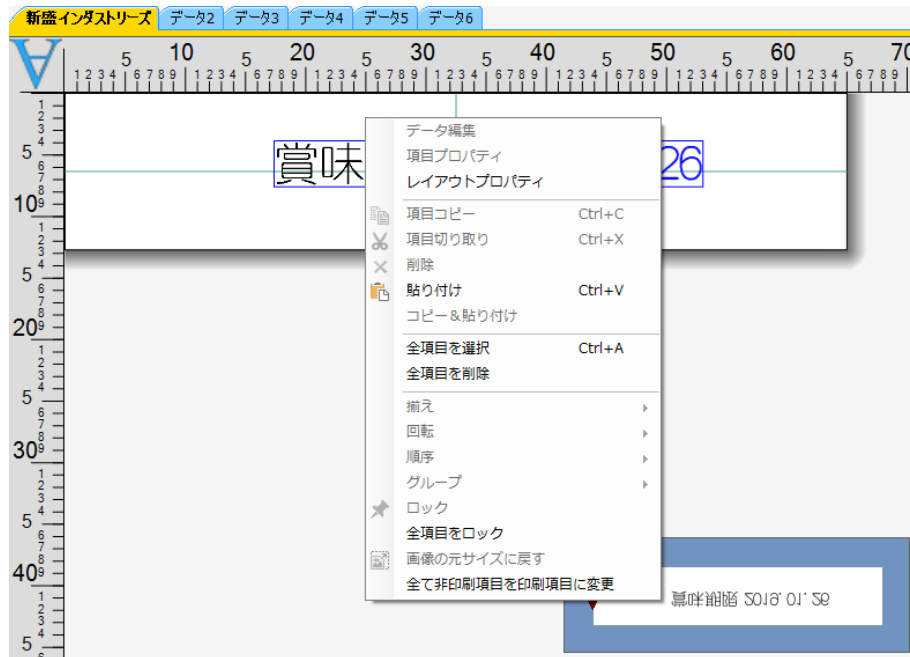


レイアウトに項目がある場合：ダブルクリックすることにより180度ずつ回転します。

レイアウトに項目がない場合：前記の回転表示と同様にダブルクリックすることにより90度ずつ回転します。

2 レイアウトエリアのショートカットメニュー

■レイアウトエリアの項目上で右クリックすると、項目のショートカットメニューが表示されます。



データ編集 ----- 各項目の印刷データを編集することができます。

項目プロパティ ----- 各項目のプロパティが表示されます。
※各項目プロパティの詳細については、[第5章2 各項目プロパティ] をご参照ください。

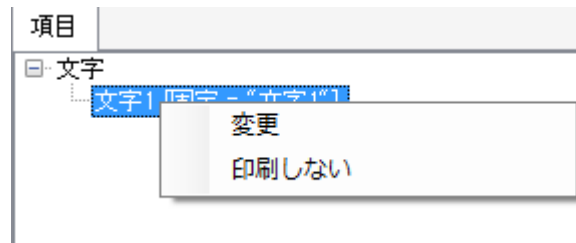
レイアウトプロパティ ---- レイアウトプロパティが表示されます。
※レイアウトプロパティ項目の設定については、[第5章3 レイアウトプロパティ] をご参照ください。

項目コピー ----- 右クリックした項目がクリップボードにコピーされます。
必要に応じて、貼り付けを行ってください。
※貼り付けに関しては、後述する [貼り付け] 項目をご参照ください。

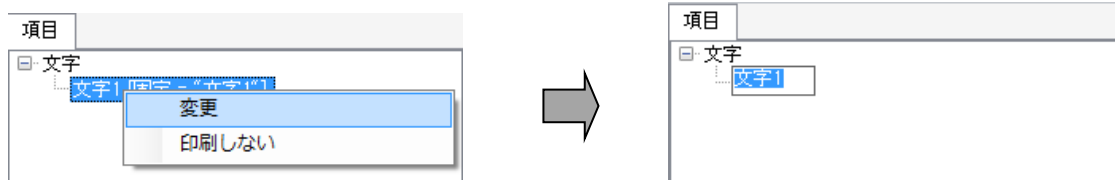
- 項目切り取り ----- 右クリックした項目がレイアウトから切り取られ、クリップボードに一時保存されます。
必要に応じて、貼り付けを行ってください。
切り取りを元に戻す場合は、クイックアクセスツールバーの「元に戻す」を使用してください。
※貼り付けに関しては、後述する「貼り付け」項目をご参照ください。
- 削除 ----- 右クリックした項目を削除します。
削除を元に戻す場合は、クイックアクセスツールバーの「元に戻す」を使用してください。
- 貼り付け ----- 選択した項目の近くに一時保存されたコピーデータ、または切り取りデータが貼り付けられます。
貼り付けを元に戻す場合は、クイックアクセスツールバーの「元に戻す」を使用してください。
- コピー&貼り付け ----- コピーと貼り付けを1クリックで行います。
コピーした項目の近くに同じ項目がもう一つ貼り付けられます。
- 全項目を選択 ----- レイアウト上のすべての項目が選択されます。
- 全項目を削除 ----- レイアウト上のすべての項目が削除されます。
全項目削除を元に戻す場合は、クイックアクセスツールバーの「元に戻す」を使用します。
- 揃え ----- 「Ctrl」キーを押しながら位置を揃えたい項目を選択し、揃え方法を選択すると項目が指定した位置に揃えられます。
[左揃え]、[縦軸中央揃え]、[右揃え]、[上端揃え]、[横軸中央揃え]、[下端揃え]、[横項目間隔均等]、または「縦項目間隔均等」を選択します。
*3項目以上を選択して「横項目間隔均等」を実行した場合、選択された最左位置の項目と最右位置の項目の左右間隔を均等にします。
*3項目以上を選択して「縦項目間隔均等」を実行した場合、選択された最上位置の項目と最下位置の項目の上下間隔を均等にします。
*揃えを元に戻す場合は、クイックアクセスツールバーの「元に戻す」を使用してください。
- 回転 ----- 右クリックした項目の角度を選択します。
レイアウト項目の始点を軸に反時計周りの方向に項目が回転します。
0度、90度、180度、270度が選択できます。
*すでに回転した項目については、「0度」を選択して、元の角度に戻すことができます。
*回転により項目が印刷領域外にはみ出てしまった場合、項目枠がオレンジ色で表示されますので、必要に応じて項目をドラッグして調整してください。

- 順序 ----- 右クリックした項目の順序を変更します
順序は [最前面へ移動]、[最背面へ移動]、[前面へ移動]、または [背面へ移動] を選択します。
- グループ ----- [Ctrl] キーを押しながら複数項目を選択し、選択している項目のいずれかを右クリックします。ダイアログが開きますので [グループ] ⇒ [グループ項目] を選択することでグループ化されます。
項目の複数選択は、マウスでドラッグして範囲指定することでもできます。
グループ化された項目上で右クリックすると [グループを解除] / [全てのグループを解除] を選択することができます。
* [グループを解除] を選択した場合、選択したグループ項目のグループ化が解除されます。
* [全てのグループを解除] を選択した場合、複数選択したグループ項目について、すべてのグループ化が解除されます。
- ロック ----- 設定した項目の位置をロックし移動できなくなります。
複数の項目を選択してロックすることができます。
ロックを解除する場合は、同じ操作をもう一度行います。
- 全項目をロック ----- レイアウト上で右クリック⇒ [全項目をロック] を選択します。
表示されたレイアウト上のすべての項目がロックされます。
全項目のロックを解除する場合は、同じ操作をもう一度行います。
- キー項目 ----- 無効となっています。
- 画像の元サイズに戻す ----- イメージ項目上で右クリック⇒ [画像の元サイズに戻す] を選択することで選択したイメージ項目が元の画像サイズに戻ります。
- 全て非印刷項目を印刷項目に変更 -- すべての項目が印刷されます。

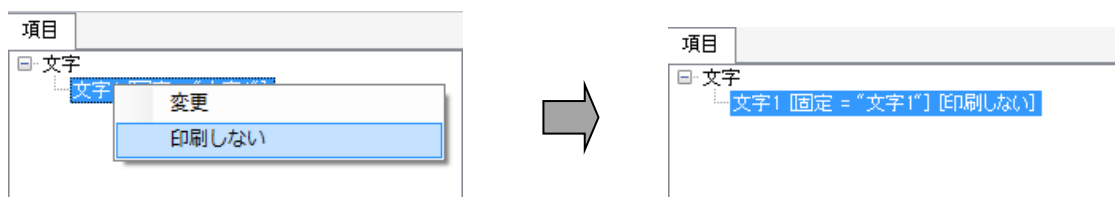
3 項目一覧エリアのショートカットメニュー



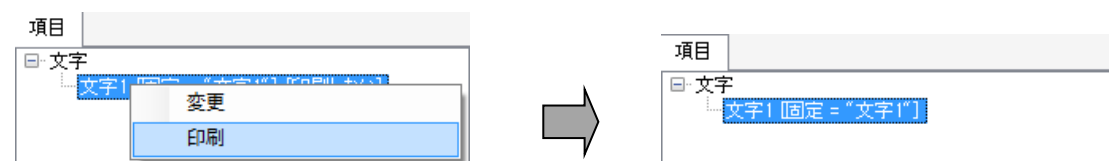
変更 ----- 項目の名称を変更します。
 項目上で右クリックして表示されるショートカットメニューから「変更」をクリックします。
 下図右の様な表示になり項目の名称が編集可能になりますので名称を変更し、[Enter] キーを押して変更します。



印刷しない ----- 設定した項目の印刷する/印刷しないを切り替えます。
 項目上で右クリックするとショートカットメニューが表示され「印刷しない」をクリックします。
 印刷する状態に戻す場合には同じ手順で「印刷」をクリックします。
 印刷しないに設定した場合には、レイアウトエリアでも表示されなくなります。



印刷しない状態にする場合

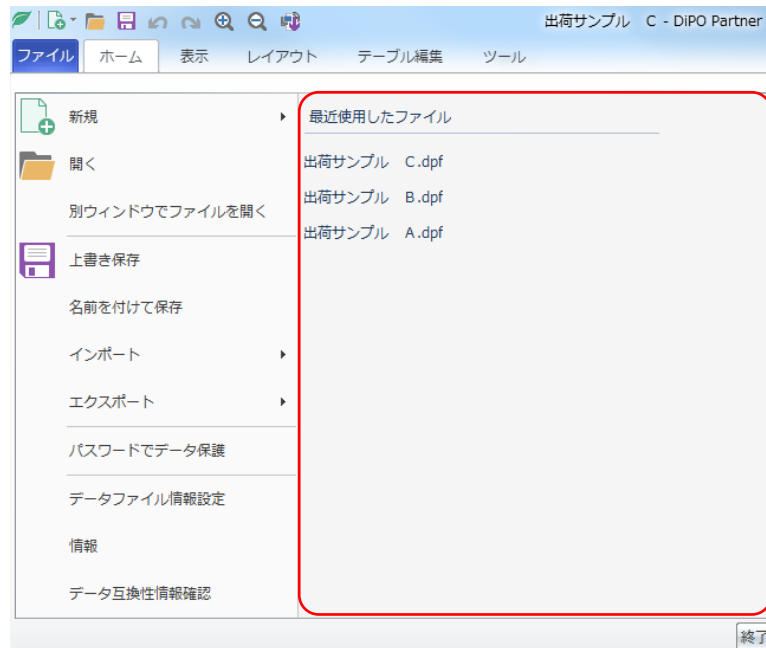


印刷するに戻す場合

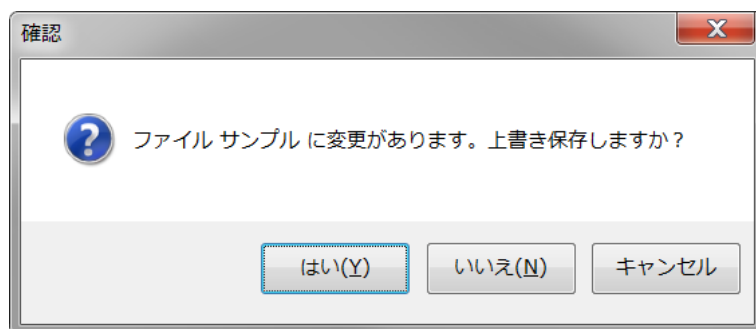
第7章 メインツールバー

1 ファイル

ファイルをクリックすると右フレームに最近使用したファイルが表示されます。
表示されているファイルは、クリックして開くことができます。



ファイルを開く際に現在のデータが未保存だった場合、[確認] ダイアログが表示されます。
[はい] をクリックすると [名前を付けて保存] ダイアログが表示されますので、保存場所とファイル名を入力し [保存] ボタンをクリックした後にファイルが開きます。
[いいえ] をクリックすると現在のデータを保存せずにファイルを開きます。
[キャンセル] をクリックすると現在のデータに戻ります。
※ [いいえ] を選択した場合、取り消す事はできませんのでご注意ください。

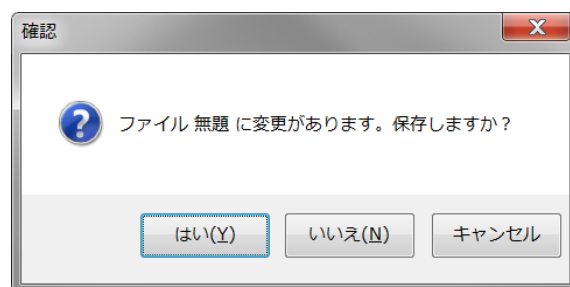
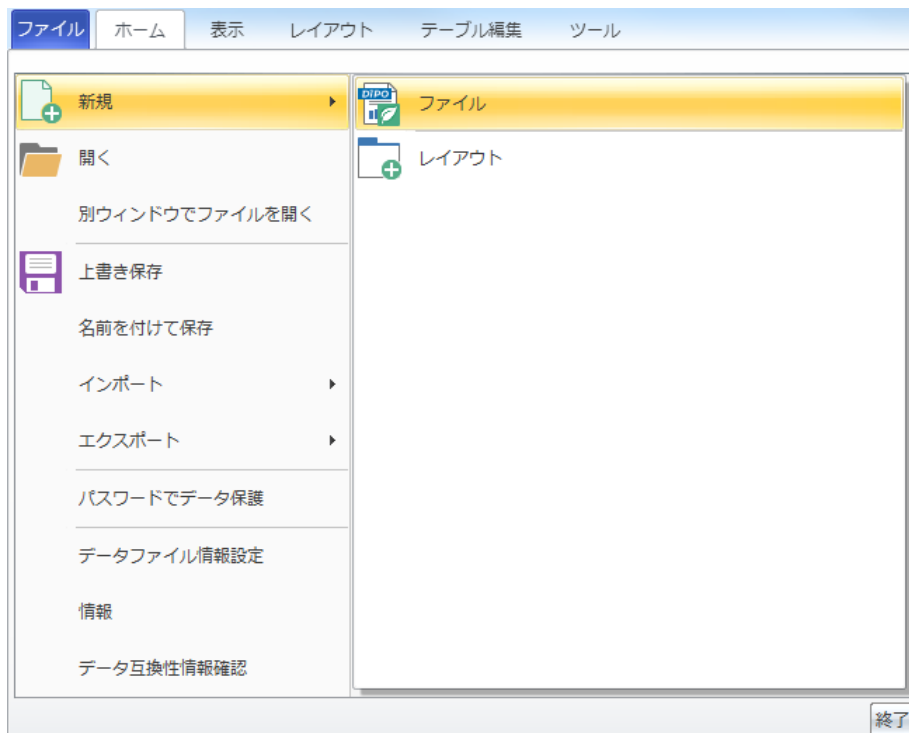


(1) 新規

新規にファイルまたはレイアウトを作成します。
(最大 100 レイアウトまで作成できます。)

A ファイル

クリックすると新規にファイルを作成します。
クイックアクセスツールバーの「新規」メニュー⇒「ファイル」でも同様の操作ができます。
未保存のデータを開いている場合には、下図の様な「保存しますか?」という確認ダイアログが表示されますので「はい」「いいえ」「キャンセル」から作業を選択します。



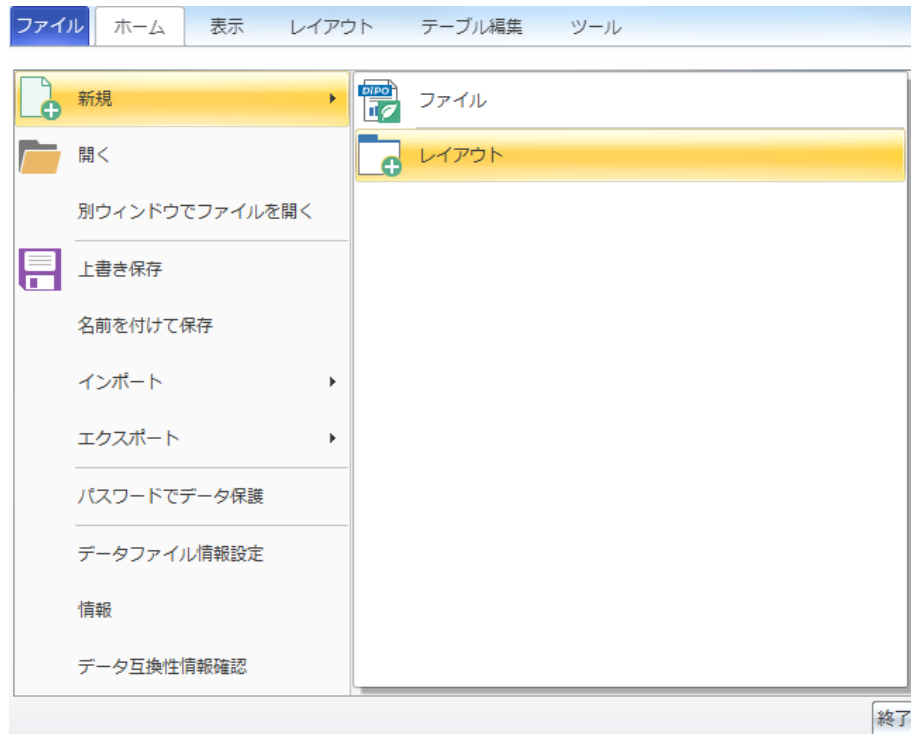
確認ダイアログ

B レイアウト

クリックすると新規レイアウトがタブの最後尾に追加されます。

クイックアクセスツールバーの[新規]メニュー⇒[レイアウト]でも同様の操作ができます。

ショートカットメニューの[新規レイアウト]⇒[挿入レイアウト]でも同様の操作ができます。

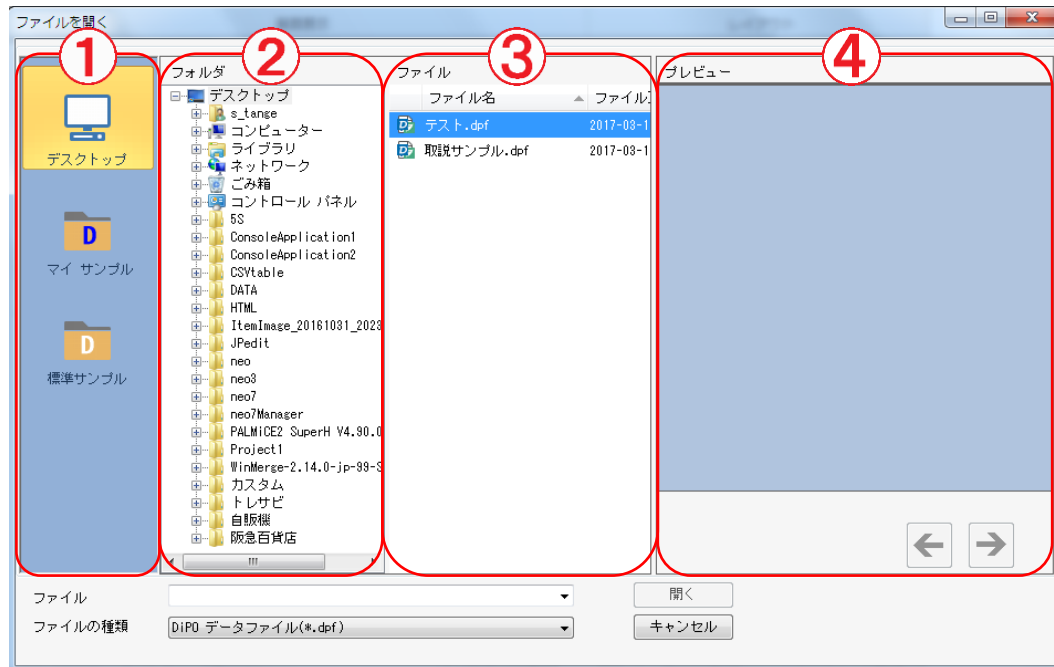


(2) 開く

既存のファイルを開くことができます。

クリックすると「ファイルを開く」ダイアログが表示されます。

開くファイルを選択してダイアログ下部の「開く」をクリックしてください。



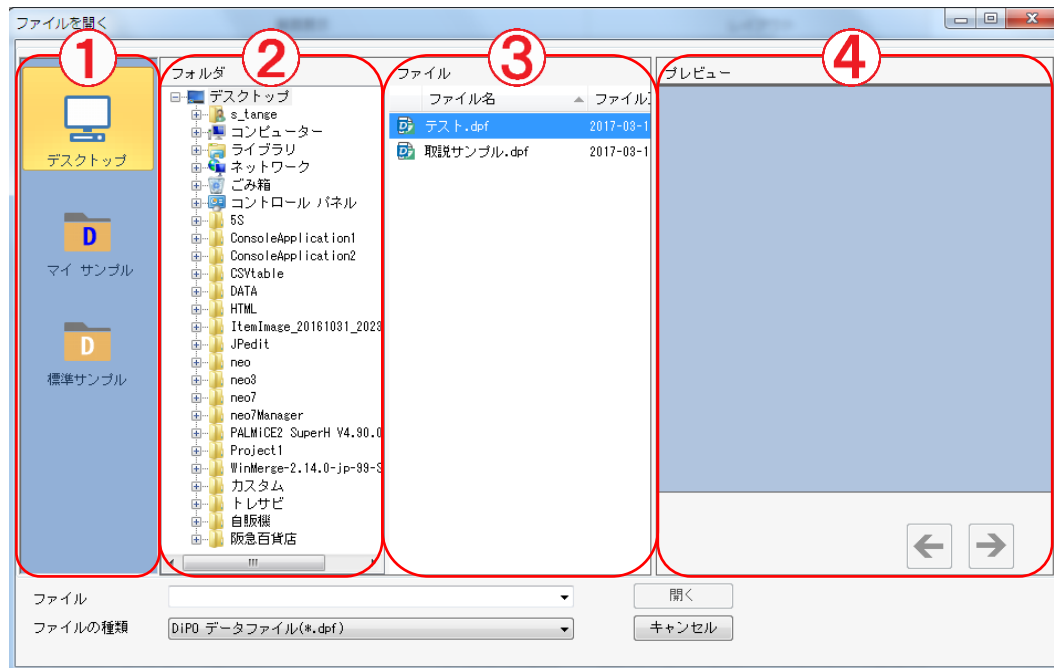
- ①分類エリア ----- ファイルの保存されているエリアを選択します。
 ファイルを探す場合は、[デスクトップ] を選択してください。
 ・ デスクトップ：②のエリアにデスクトップが表示されます。
 ・ マイサンプル：②及び③に Sample フォルダが表示されます。
 ・ 標準サンプル：②のエリアが無くなり、標準サンプルが表示されます。
- ②フォルダ選択エリア ---- ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- ③ファイル選択エリア ---- ②で選択したフォルダの内容が表示されます。
 開きたいファイルを選択します。
- ④レイアウトプレビュー -- ③で選択したファイルのレイアウトの確認ができます。
 一つのファイルに複数のレイアウトが作成してある場合にはプレビューエリア下部の左右矢印ボタンをクリックする事で別のレイアウトをプレビューすることができます。

(3) 別ウィンドウでファイルを開く

現在開いているファイルとは別に DiPO Partner を立ちあげて既存のファイルを開くことができます。DiPO Partner が多重起動する形となります。

クリックすると「ファイルを開く」ダイアログが表示されます。

開くファイルを選択してダイアログ下部の「開く」をクリックして開きます。



- ①分類エリア ----- ファイルの保存されているエリアを選択します。
 ファイルを探す場合は、[デスクトップ] を選択してください。
 ・デスクトップ：②のエリアにデスクトップが表示されます。
 ・マイサンプル：②及び③に Sample フォルダを表示されます。
 ・標準サンプル：②のエリアが無くなり、標準サンプルが表示されます。
- ②フォルダ選択エリア ---- ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- ③ファイル選択エリア ---- ②で選択したフォルダの内容が表示されます。
 開くファイルを選択します。
- ④レイアウトプレビュー -- ③で選択したファイルのレイアウトを確認できます。
 一つのファイルに複数のレイアウトが作成してある場合にはプレビューエリア下部の左右矢印ボタンをクリックする事で別のレイアウトをプレビューすることができます。

(4) 上書き保存

開いているデータを上書き保存します。

新規作成したデータで上書き保存を行った場合は、[名前を付けて保存]が行われます。

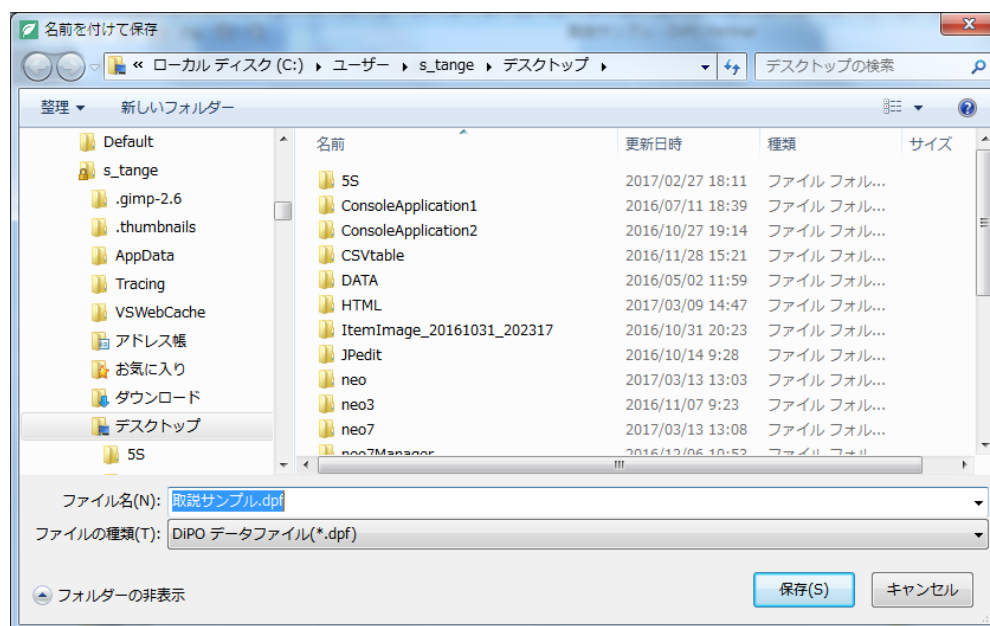
※ [名前を付けて保存] については、次項 [第7章 1 – (5) 名前を付けて保存] をご参照ください。

(5) 名前を付けて保存

現在のデータに名前を付けて保存します。

クリックすると [名前を付けて保存] ダイアログが表示されます。

保存する場所を選択し、ファイル名を入力して [保存] ボタンをクリックして保存します。



(6) インポート

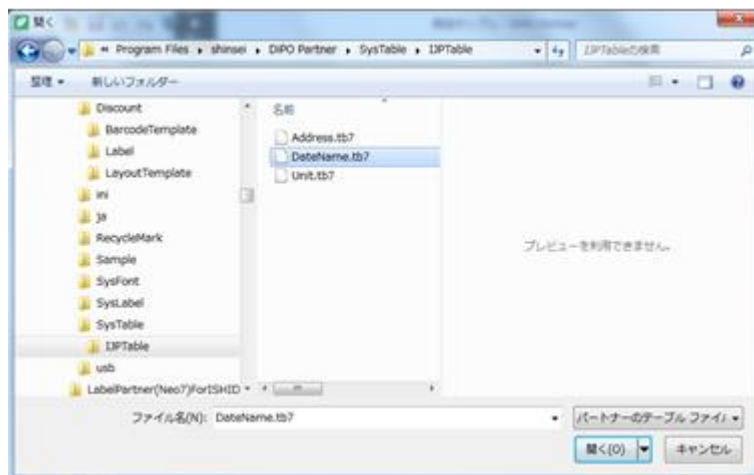
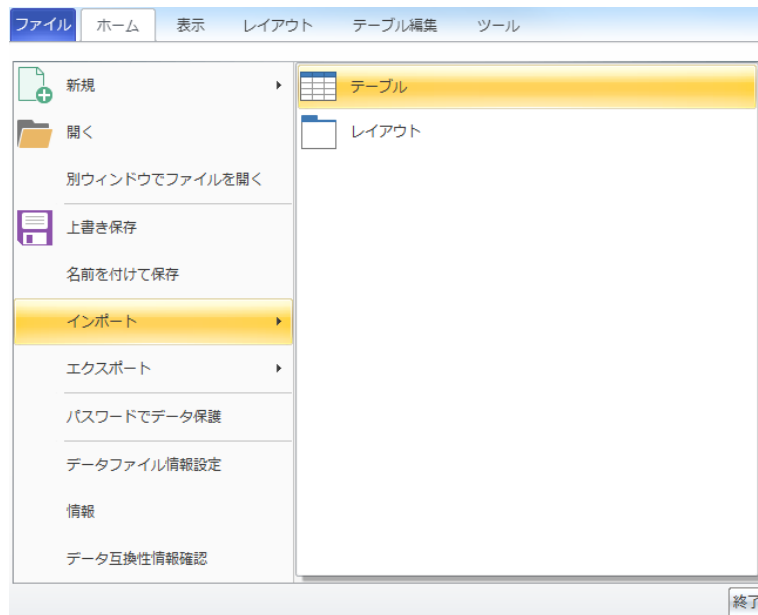
A テーブル

既存のテーブルファイルをインポートすることができます。

クリックすると「開く」ダイアログが表示されます。

開くファイルを選択してダイアログ下部の「開く」をクリックしてください。

※開くダイアログは、ご使用の OS により見た目が異なります。



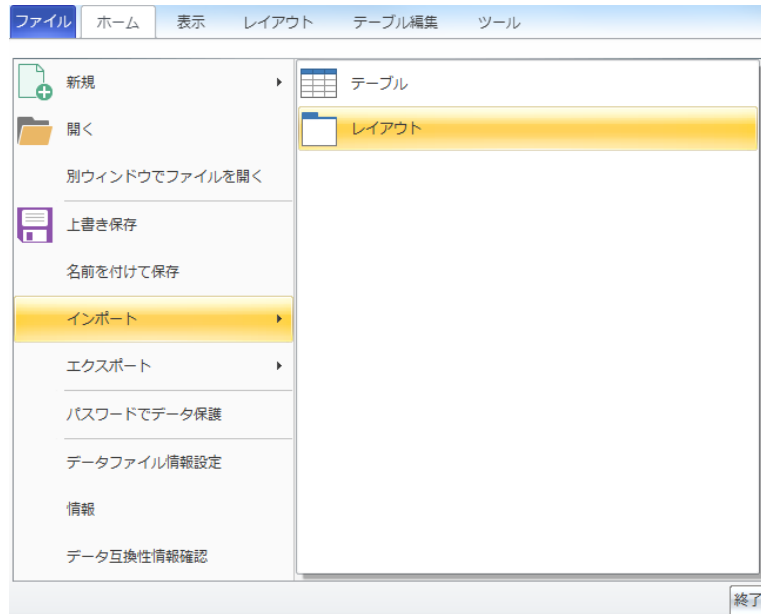
B レイアウト

別のデータからレイアウトをインポートします。

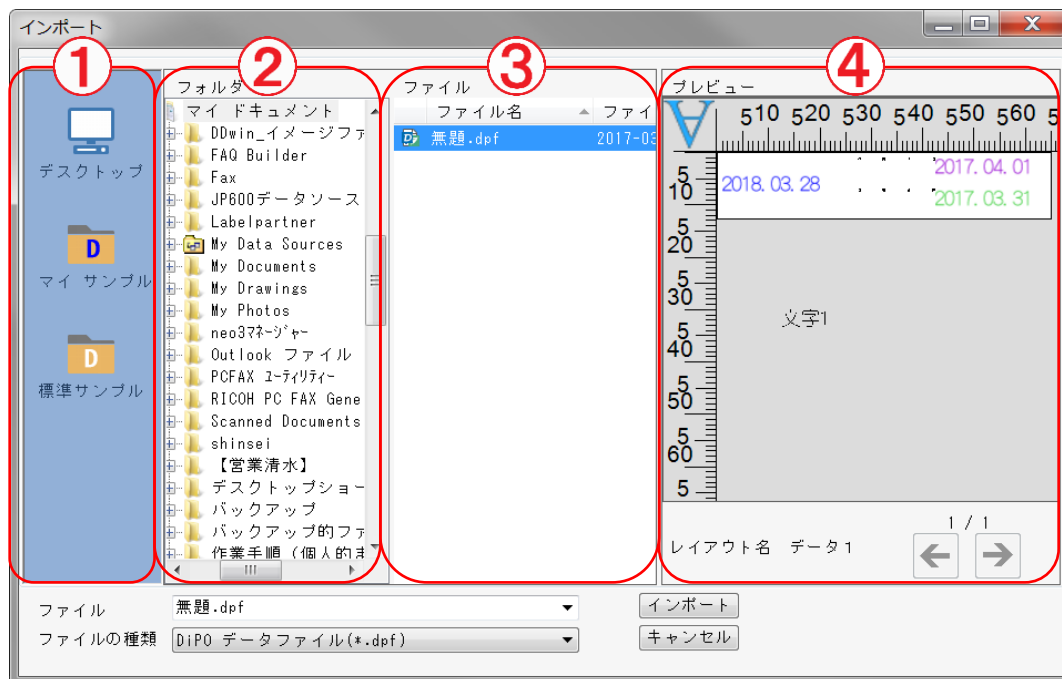
クリックすると「インポート」ダイアログが表示されます。

インポートしたレイアウトは、レイアウトタブの最後尾に追加されます。

※インポート手順および「インポート」ダイアログについては、次ページをご参照ください。



■インポート手順



- ①分類エリア ----- ファイルの保存されているエリアを選択します。
 ファイルを探す場合は、[デスクトップ] を選択してください。
 ・ デスクトップ：②のエリアにデスクトップが表示されます。
 ・ マイサンプル：②及び③に Sample フォルダが表示されます。
 ・ 標準サンプル：②のエリアが無くなり標準サンプルが表示されます。
- ②フォルダ選択エリア ---- ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- ③ファイル選択エリア ---- ②で選択したフォルダの内容が表示されます。
 開くファイルを選択します。
- ④レイアウトプレビュー -- ③で選択したファイルのレイアウトを確認します。
 一つのファイルに複数のレイアウトが作成してある場合にはプレビューエリア下部の左右矢印ボタンをクリックする事で別のレイアウトをプレビューすることができます。
 このプレビューエリアに表示されているレイアウトがインポートされます。

(7) エクスポート

テーブルファイル

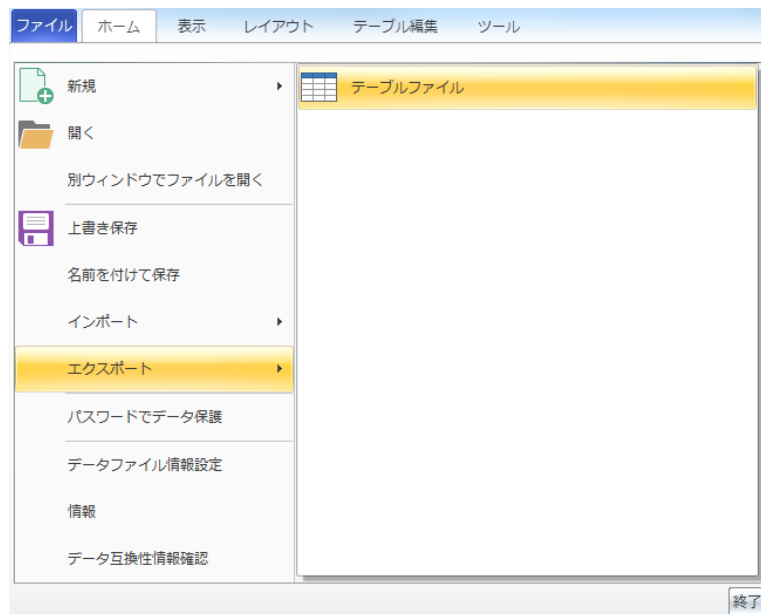
現在のデータからテーブルファイルをエクスポートします。

現在のデータのテーブルファイルはそのまま残ります。

クリックするとエクスポートするテーブルを選択するダイアログが表示されます。

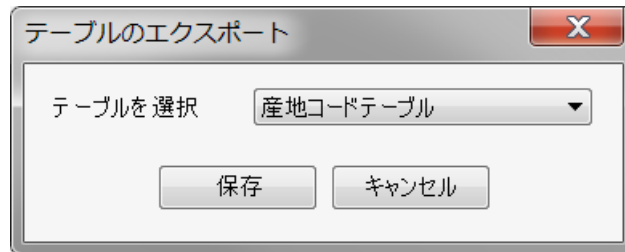
テーブル選択後にテーブルの保存先を指定して「保存」をクリックすると、エクスポートされます。

※エクスポート手順および「テーブルのエクスポート」ダイアログについては、次ページをご参照ください。

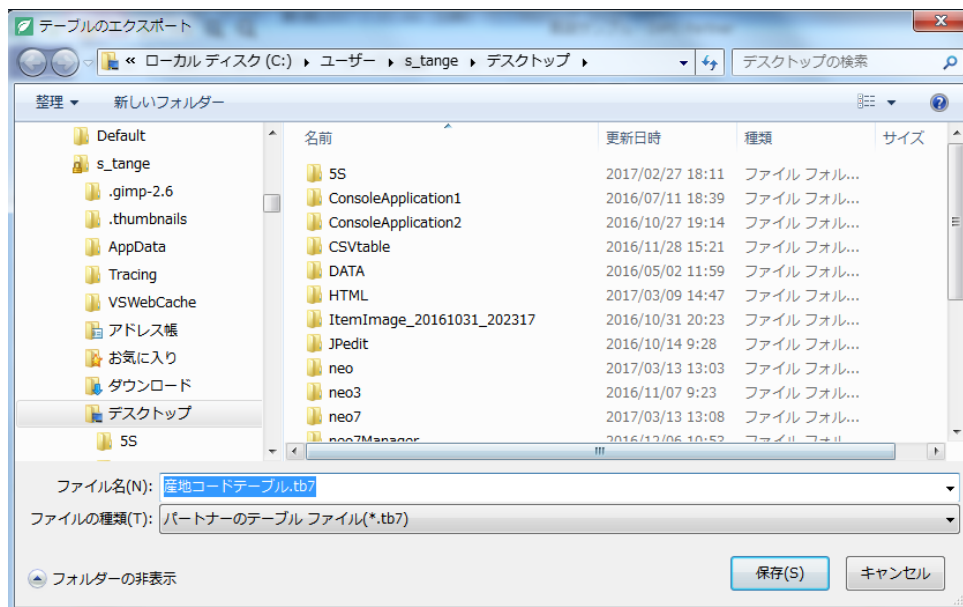


■エクスポート手順

「テーブルのエクスポート」ダイアログが表示されますので保存するテーブルを選択し、「保存」をクリックします。



続いて保存先を指定する「テーブルのエクスポート」ダイアログが表示されます。



保存する場所を選択し、ファイル名を入力して「保存」ボタンをクリックして保存します。DiPO Partner 用テーブルファイルが保存されます。

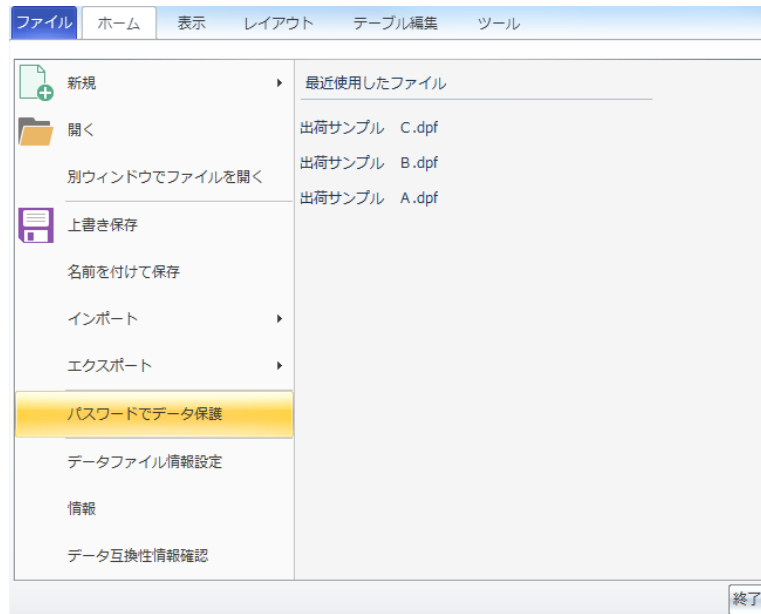
(8) パスワードでデータ保護

データにパスワードをかける事ができます。

パスワードをかけている状態では、項目の移動や編集、追加、削除などデータに関する操作ができなくなります。

パスワードを解除するには再度同じ手順で解除を行います。

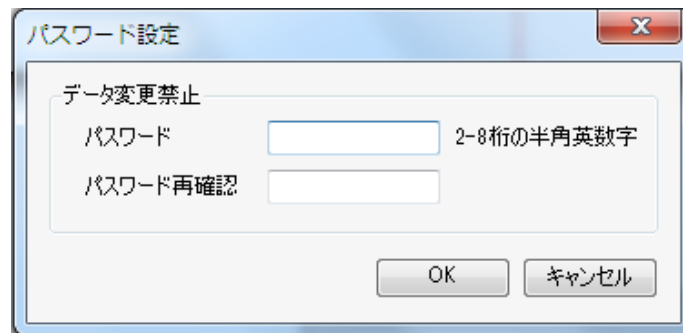
※パスワードを忘れてしまった場合には、解除できなくなりますのでご注意ください。



■ データ保護手順

〔パスワード設定〕ダイアログが表示されますので、2～8桁の半角英数字でパスワードを入力します。

続いてパスワード再確認欄にもう一度同じ半角英数字を入力して〔OK〕をクリックします。

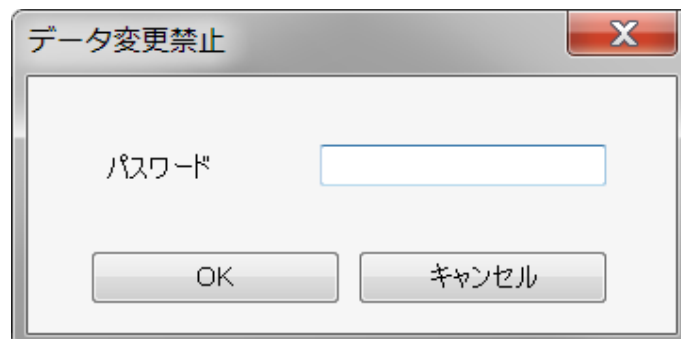


〔確認〕ダイアログが表示されますので〔はい〕を選択してください。

**■ データ保護解除手順**

パスワード設定を解除する場合にはもう一度、〔パスワード保護を設定〕の作業を行います。

解除の場合には〔データ変更禁止〕ダイアログが表示されますので、設定したパスワードを入力して〔OK〕をクリックします。

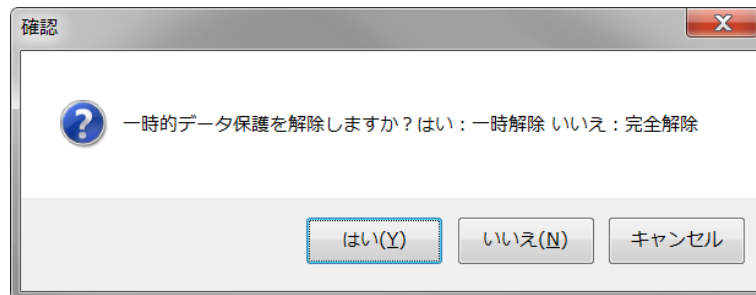


〔確認〕 ダイアログが表示されますので〔いいえ〕または〔はい〕を選択してください。

*はい : データ保護を完全に解除します。

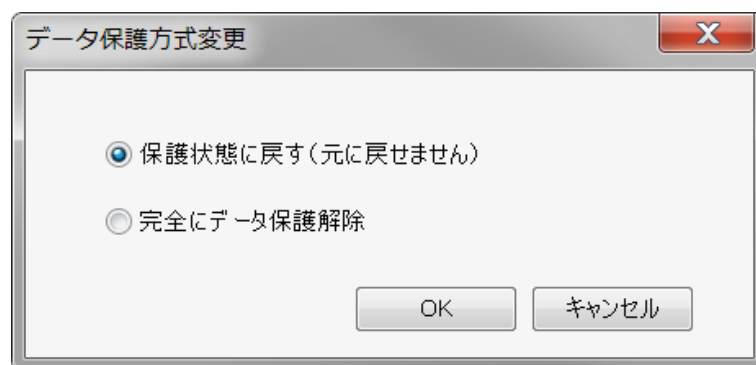
*いいえ : 一時的に保護を解除します。再度データ保護設定を行うかまたはデータを閉じるまで解除状態が続きます。

*キャンセル : 保護解除作業自体をキャンセルします。



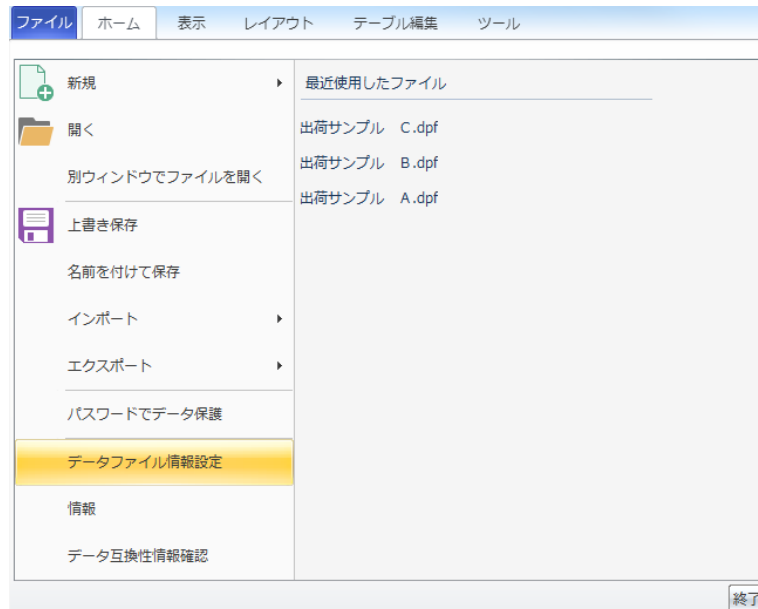
〔はい〕を選択した場合には一時解除となります。

一時解除状態から完全解除または保護状態に戻す場合には、もう一度データ保護作業を行います。一時解除状態の場合には〔データ保護方式変更〕ダイアログが表示されますので〔保護状態に戻す〕または〔完全にデータ保護解除〕のどちらかを選択して〔OK〕をクリックしてください。

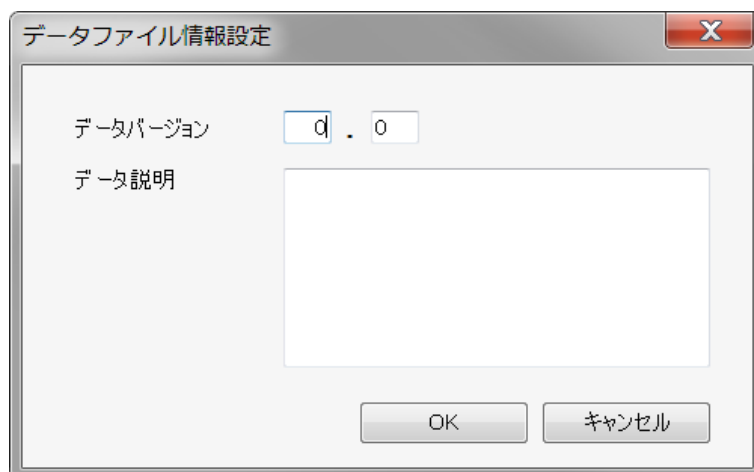


(9) データファイル情報設定

編集集中のファイルにデータファイル情報（データバージョン）を設定することができます。
ファイルにデータバージョンを設定すると、ファイル管理に役立ちます。

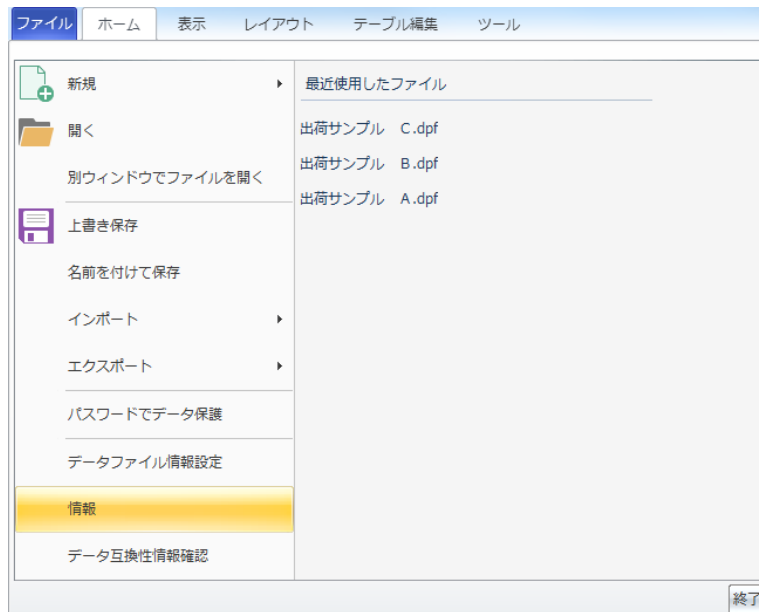


クリックすると「データファイル情報設定」ダイアログが表示されます。
管理しやすいデータバージョンとその説明を入力して「OK」をクリックします。



(10) 情報

DiPO Partner のバージョン情報ダイアログが表示されます。



DiPO Partner のバージョン情報画面が表示されます。

下図では ver. 1.1 という事を表示しています。

確認後、画面右上の×ボタンまたはバージョン情報画面をクリックすることで画面を閉じます。

※ver. ナンバーは、出荷時期などにより異なります。

※取扱説明書中表示される ver. ナンバーは、作成時の ver. ナンバーで表示されています。

最新でない場合がありますので、ご注意ください。



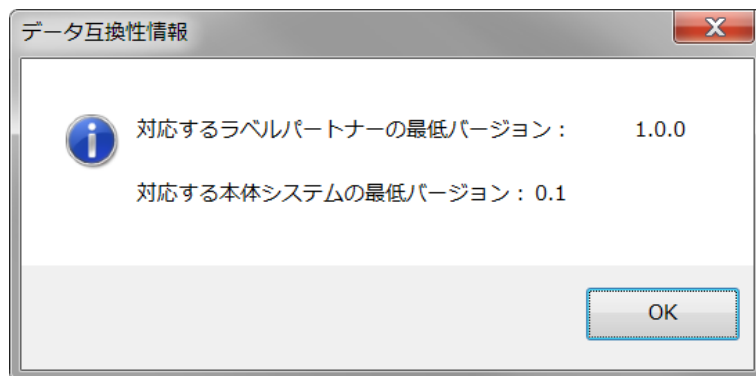
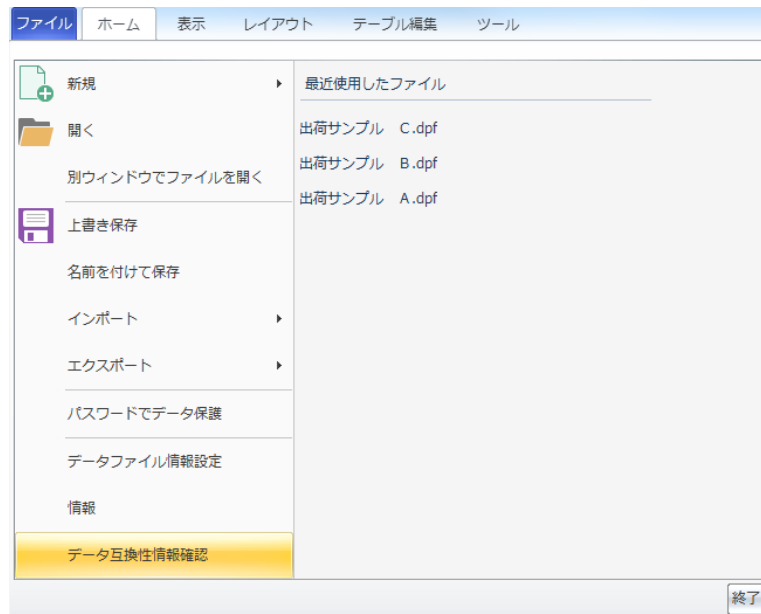
(11) データ互換性情報確認

対応する DiPO Partner と本体システムのバージョン情報が表示されます。

互換性を持つ最低 ver.が表示されます。

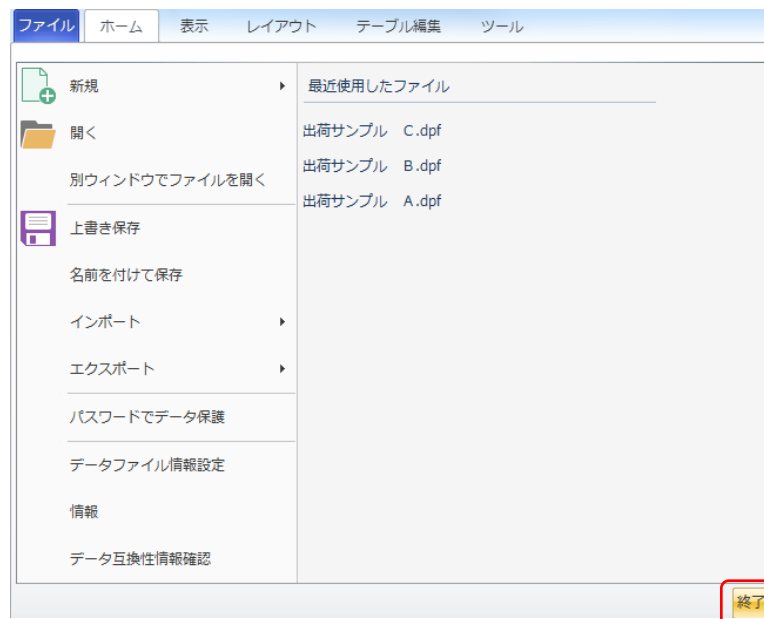
別のパソコンでデータを編集する際や DiPO にデータを書き込む場合、役に立ちます。

※最低 ver.に満たない DiPO Partner または本体システムを使用した場合には、正常に機能しない場合があります。



(12) 終了

DiPO Partner を終了します。



開いているデータが未保存の場合、次の確認メッセージが表示されます。



ファイルを保存する場合は「はい」をクリックし、表示される「名前を付けて保存」ダイアログでファイルを保存します。

* 「名前を付けて保存」ダイアログの操作方法については、「名前を付けて保存」をご参照ください。

* ファイルを保存する必要がない場合は、「いいえ」をクリックします。この場合は、DiPO Partner を終了します。

直前の編集画面に戻る場合は、「キャンセル」をクリックします。

また、変更が保存されていない編集集中のファイルがある場合、確認メッセージが表示されます。

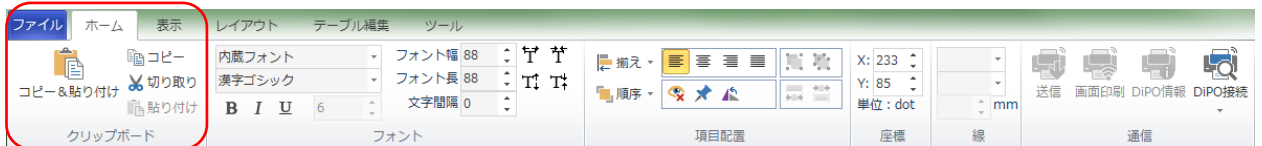
ファイルを上書き保存する場合は、「はい」をクリックします。

ファイルを保存する必要がない場合は、「いいえ」をクリックします。直前の編集画面に戻る場合は、「キャンセル」をクリックします。

2 ホーム

(1) クリップボード

クリップボードに関する作業を行うことができます。



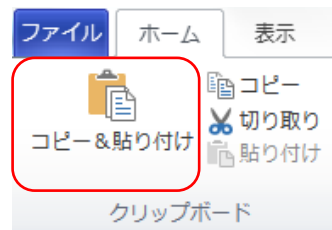
A コピー&貼り付け

選択した項目のコピーと貼り付けを1クリックで同時に行うことができます。

コピーした項目は、元の項目の近くに貼り付けられます。

*レイアウトエリアのショートカットメニュー [コピー&貼り付け] でも同様の操作ができます。

*ショートカットメニュー [コピー&貼り付け] は、[第6章2 レイアウトエリアのショートカットメニュー] の項目をご参照ください。

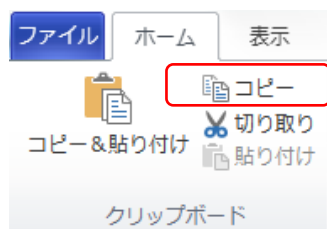


B コピー

選択した項目のレイアウトをクリップボードにコピーすることができます。

*レイアウトエリアのショートカットメニュー [コピー] でも同様の操作ができます。

*ショートカットメニュー [コピー] は、[第6章2 レイアウトエリアのショートカットメニュー] の項目をご参照ください。

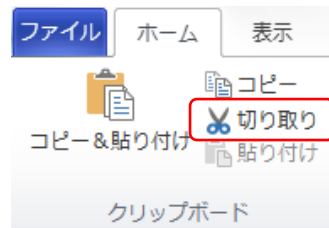


C 切り取り

選択した項目のレイアウトの切り取り、または項目データの切り取りができます。

*レイアウトエリアのショートカットメニュー [切り取り] でも同様の操作ができます。

*ショートカットメニュー [切り取り] は、[第6章2レイアウトエリアのショートカットメニュー] の項目をご参照ください。



D 貼り付け

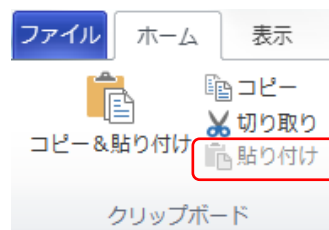
コピーまたは切り取りを行った項目を貼り付けます。

貼り付けられる項目は、元の項目の近くに貼り付けられます。

別のレイアウトへ貼り付けを行う場合にも、元のレイアウトで項目があった場所の近くに貼り付けられます。

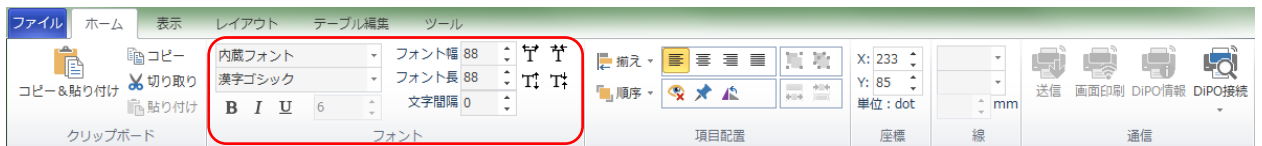
*レイアウトエリアのショートカットメニュー [貼り付け] でも同様の操作ができます。

*ショートカットメニュー [貼り付け] は、[第6章2レイアウトエリアのショートカットメニュー] の項目をご参照ください。



(2) フォント

フォントに関する作業を行うことができます。



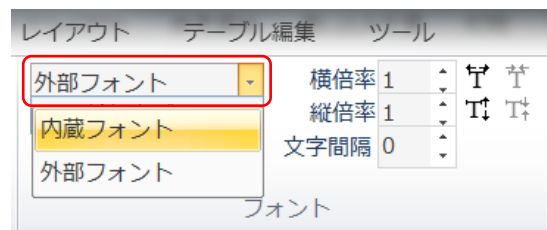
A フォント種類

選択している項目のフォント種類を切り替えます。

フォント種類項目（下図赤枠）をクリックするとプルダウンメニューが表示されますので、[内蔵フォント] または [外部フォント] を選択します。

*内蔵フォント：D i P Oにインストールされているフォントを使用する場合に、選択します。

*外部フォント：パソコンにインストールされているフォントを使用する場合に、選択します。



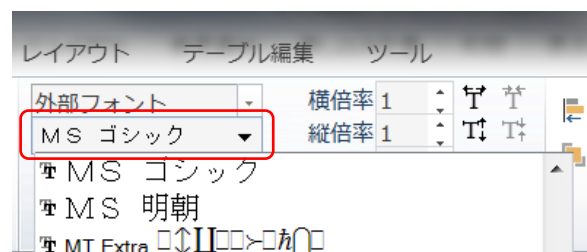
B フォント名

選択している項目のフォントを変更します。

フォント名項目（下図赤枠）をクリックすると使用できるフォント名がプルダウンメニューに表示されますので、使用するフォント名を選択します。

*各項目のプロパティでも同様の操作ができます。

*各項目のプロパティについては、[第5章2各項目プロパティ] をご参照ください。



C 太字/ 斜体/ 下線

アイコンをクリックすることで選択している項目の文字装飾を行います。

もう一度アイコンをクリックすると文字装飾を解除します。

*各項目のプロパティでも同様の操作ができます。

*各項目のプロパティについては、[第5章2各項目プロパティ] をご参照ください。



D フォントサイズ

外部フォント選択時に上下矢印でフォントサイズの変更を行うことができます。

内蔵フォントの場合には、フォントサイズは使用できませんので [フォント幅] [フォント長] の項目でサイズの変更を行います。

*各項目プロパティでも同様の操作ができます。

*各項目プロパティについては、[第5章2各項目プロパティ] をご参照ください。



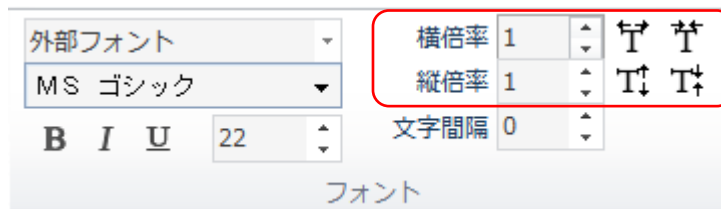
E 横倍率 / 縦倍率

外部フォント選択時に横または縦のサイズの倍率を1～4倍の間で変更します。

値の変更は、直接入力、上下矢印ボタン、拡大／縮小アイコンで行います。

*各項目プロパティでも同様の操作ができます。

*各項目プロパティについては、[第5章2各項目プロパティ] をご参照ください。



F フォント幅 / フォント長

内部フォント選択時に横または縦のサイズの倍率を変更します。

値の変更は、直接入力、上下矢印ボタン、拡大／縮小アイコンで行います。

*各項目プロパティでも同様の操作ができます。

*各項目プロパティについては、[第5章2各項目プロパティ]をご参照ください。



拡大縮小アイコン

G 文字間隔

選択した項目の文字同士の間隔を変更します。

値の変更は、間隔の直接入力または上下矢印ボタンで行います。

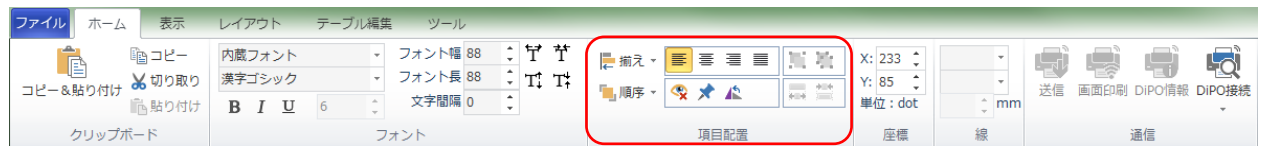
*各項目プロパティでも同様の操作ができます。

*各項目プロパティについては、[第5章2各項目プロパティ]をご参照ください。



(3) 項目配置

- 項目のレイアウトに関する設定を行うことができます。
- [Ctrl] キーを押しながらレイアウトエリア内の項目をクリックして、複数の項目を選択することができます。



A 揃え

揃えのプルダウンボタンをクリックすると揃えのプルダウンメニューが表示され、項目の位置を揃えることができます。

揃えのプルダウンメニュー



一つの項目を選択した状態では、レイアウトの左端、縦軸中央、右端、上端、下端に揃えることができます。

複数の項目を選択した状態では、最も左側の項目、縦軸の中央の項目、最も右側の項目、最も上端の項目、横軸の中央の項目、最も下端の項目に位置を揃えることができます。

三つ以上の項目を選択して横項目間隔均等を選択した状態では、選択された最左の項目と最右の項目の左右間隔を均等に揃えることができます。

三つ以上の項目を選択して縦横項目間隔均等を選択した状態では、選択された最上の項目と最下の項目の上下間隔を均等に揃えることができます。

※揃えを元に戻す場合は、クイックアクセスツールバーの[元に戻す]をクリックしてください。

B 順序

重なってレイアウトされた項目がある場合、選択した項目を他の項目より前面/ 背面にするまたは最前面/ 最背面にすることができます。

*レイアウトエリアのショートカットメニューでも同様の操作ができます。

*レイアウトエリアのショートカットメニューについては、[第6章2レイアウトエリアのショートカットメニュー] をご参照ください。



順序のダイアログ



最前面へ移動 ----- 選択した項目を最前面に移動します。

最背面へ移動 ----- 選択した項目を最背面へ移動します。

前面へ移動 ----- 選択した項目を一つ前の面へ移動します。

背面へ移動 ----- 選択した項目を一つ後ろの面へ移動します。

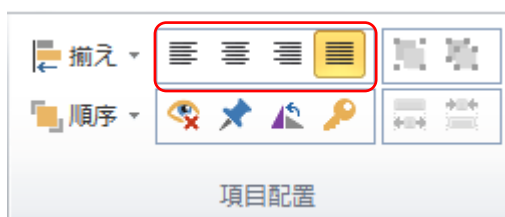
C 文字揃え

項目内の文字の揃え方を設定します。

項目によっては変更できない場合があります。

*各項目プロパティでも同様の操作ができます。

*各項目プロパティについては、[第5章2各プロパティ] をご参照ください。



左寄せ ----- 選択した項目の文字を左に寄せます。

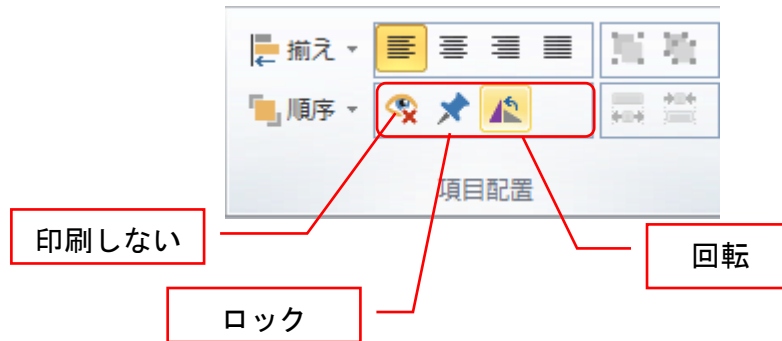
中央 ----- 選択した項目の文字を中央にレイアウトします。

右寄せ ----- 選択した項目の文字を右に寄せます。

均等 ----- 選択した項目の文字を項目内で均等間隔にレイアウトします。

D ショートカットアイコン

プロパティなどから設定する項目のショートカットアイコンになります。



- 印刷しない** ----- 項目の印刷しないに設定します。
印刷しないに設定するとレイアウトエリアに表示されなくなります。
解除するには、項目一覧エリアから設定を変更してください。
※項目一覧エリアの設定に関しては、[第6章3項目一覧エリアのショートカットメニューをご参照ください。
- ロック** ----- 設定した項目の位置をロックし移動できなくなります。
複数の項目を選択してロックすることができます。
ロックを解除する場合は、もう一度アイコンをクリックします。
- 回転** ----- 選択した項目の左上の基準点を支点に反時計周りに 90 度ごとに項目が回転します。
※回転により項目が印刷領域外にはみ出てしまった場合、項目枠がオレンジ色で表示されますので必要に応じて項目をドラッグして調整してください。

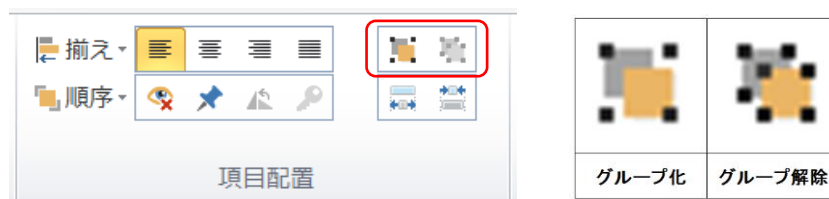
E グループ / グループを解除

選択した複数の項目をグループ化することができます。また、グループ化を解除して元の個別の項目に戻すこともできます。

*項目のショートカットメニューでも同様の設定ができます。

*項目一覧エリアの設定に関しては、[第6章2 レイアウトエリアのショートカットメニュー] をご参照ください。

*全てのグループ化を解除する場合は、レイアウトエリアショートカットメニューの[全てのグループを解除]を使用してください。



F 項目幅を最大幅に揃える / 項目幅を最小幅に揃える

選択した複数の項目の項目幅を変更します。

*入力エリアで項目データのセルを選択した場合も対応するレイアウトエリアの項目が選択され、その項目の横幅を調整することができます。



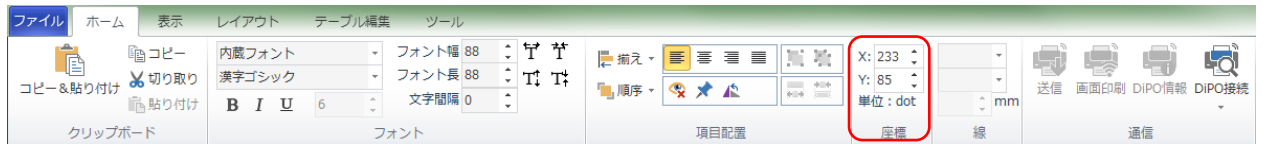
項目幅を最大幅に揃える — 選択した複数の項目の幅を一番大きい項目に揃える。

項目幅を最少幅に揃える — 選択した複数の項目の幅を一番小さい項目に揃える。

(4) 座標

項目のレイアウトに関する設定を行うことができます。

XとYの項目に値を入力して項目の移動を行うこともできます。



X : -----選択した項目基準点のX軸の値 (単位 : dot)

Y : -----選択した項目基準点のY軸の値 (単位 : dot)

*基準点 : 項目の左上の角

*レイアウトの左上角の座標は、[X (横方向) =0、Y (縦方向) =0] です。

*複数の項目の座標を一度に指定することはできません。

*レイアウトした項目を選択⇒ドラッグして項目の位置を移動することもできます。

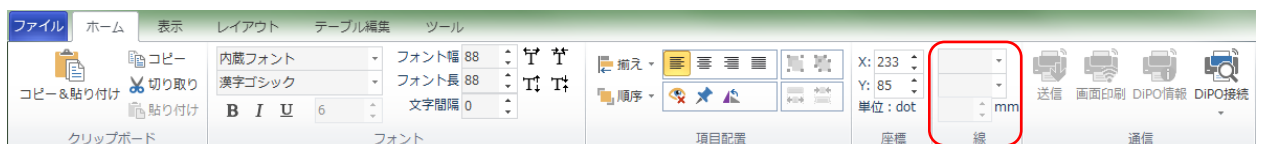
*XとYの座標に数値を入力する代わりにキーボードの矢印キーを押して項目を移動することもできます。

(5) 線

線項目に関する設定を行うことができます。

※線項目及び四角形項目のプロパティでも同様の設定を行うことができます。

※線項目のプロパティについては、[第5章2-(5) 線項目のプロパティ] を、四角形項目のプロパティについては、[第5章2-(6) 四角形項目のプロパティ] をご参照ください。



線の太さ ----- 線の太さが表示されます。リストから太さを選択して変更することもできます。(単位 : dot)

線の種類 ----- 線の種類が表示されます。リストから線種を選択して変更することもできます。

線の長さ ----- 直線または斜線の場合に線の長さが表示されます。(単位 mm) 値を直接入力または上下矢印で変更することもできます。

(6) 通信

DiPOとBluetooth 通信を行うことができます。

*DiPOと通信するためには、Bluetooth 通信機能のあるパソコンと通信したいDiPOをペアリングする必要があります。ペアリング方法は、後述します。



A 送信

DiPO Partner ファイルがDiPOに送信されます。

*DiPO Partner ファイルを USB メモリに保存して、この USB メモリをDiPOに挿入することによって保存することもできます。



B 画面印刷

パソコン画面にレイアウトされた項目をオンラインでDiPOに印刷することができます。

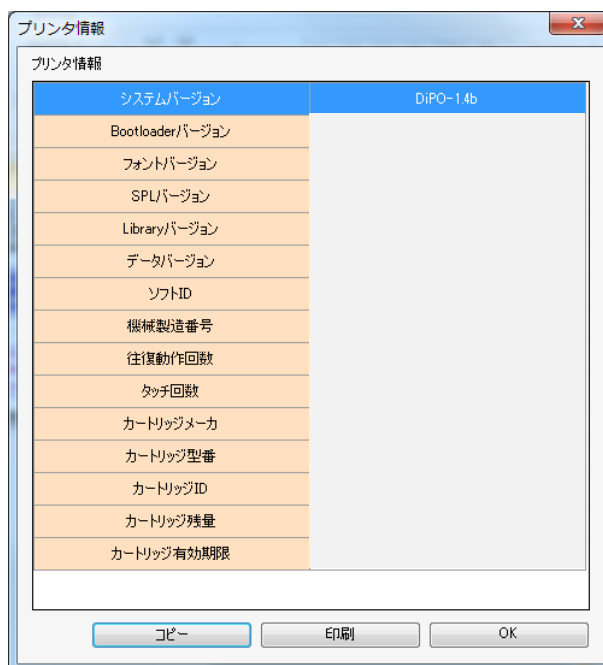


C DiPO情報

DiPOに保存されているプリンタ情報をパソコン上に表示させることができます。



プリンタ情報画面が表示されます。



コピー ----- プリンタ情報をコピーすることができます。

印刷 ----- プリンタ情報をプリントアウトすることができます。

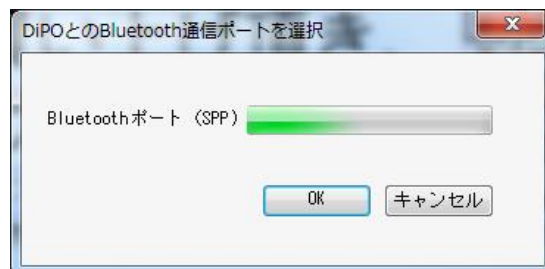
D DiPO接続



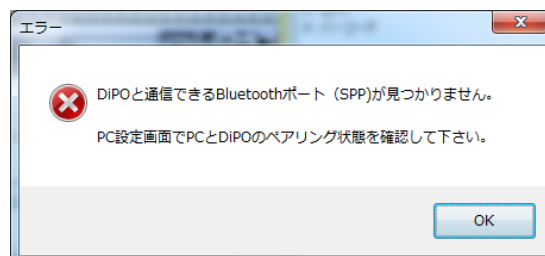
- 自動 ----- 自動で最適なDiPOと通信します。
- 切断 ----- 通信を切断します。
- 手動設定 ----- 自動でPCとDiPOとがペアリングできていない場合に、この機能によりPC側がBluetoothから作成されたシリアル変換ポートを全部表示し、問題の特定に役に立ちます。

【手動設定をクリックします。】

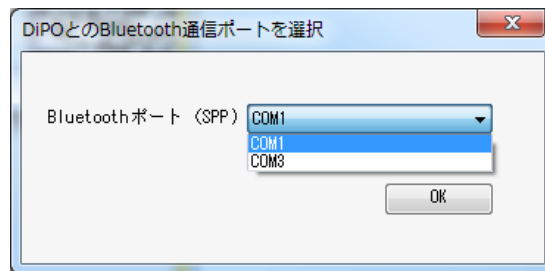
PC上のBluetooth通信ポート(SPP)を検索します。



見つからなかったらDiPOとのペアリングができていない可能性がありますので、DiPOとのペアリングを確認してみてください。



見つかったら使える通信ポートの一覧が表示されますので、[OK] ボタンをクリックして接続するかどうか確認してください。接続できなかったら接続失敗というメッセージが表示されます。

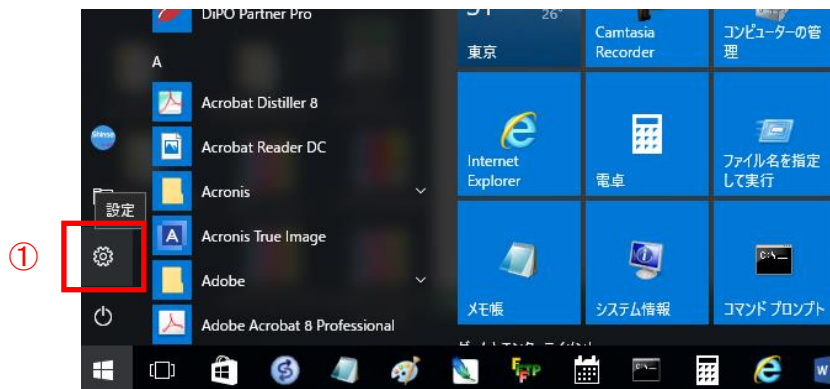


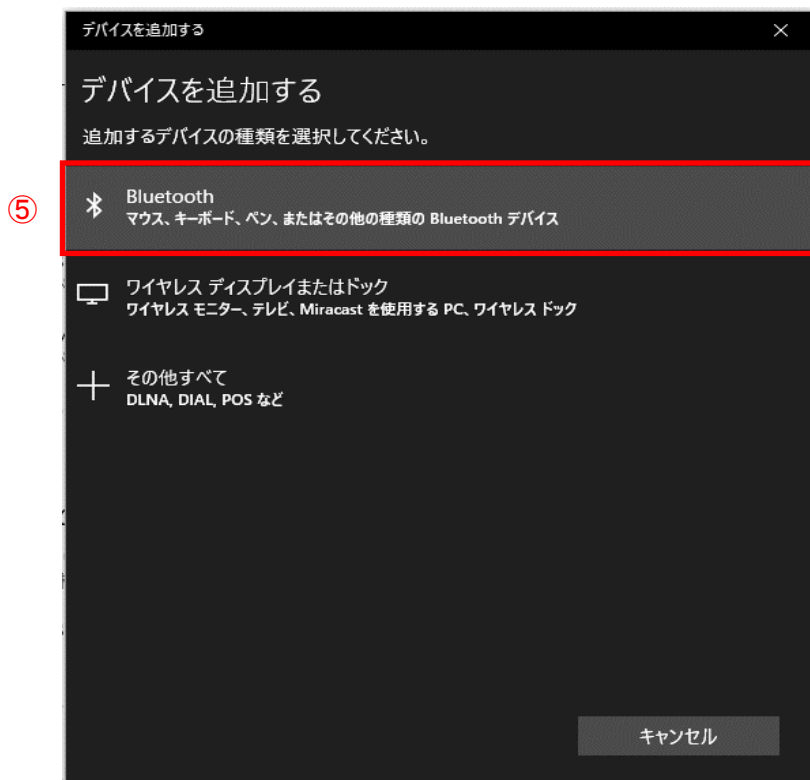
【ペアリング方法】

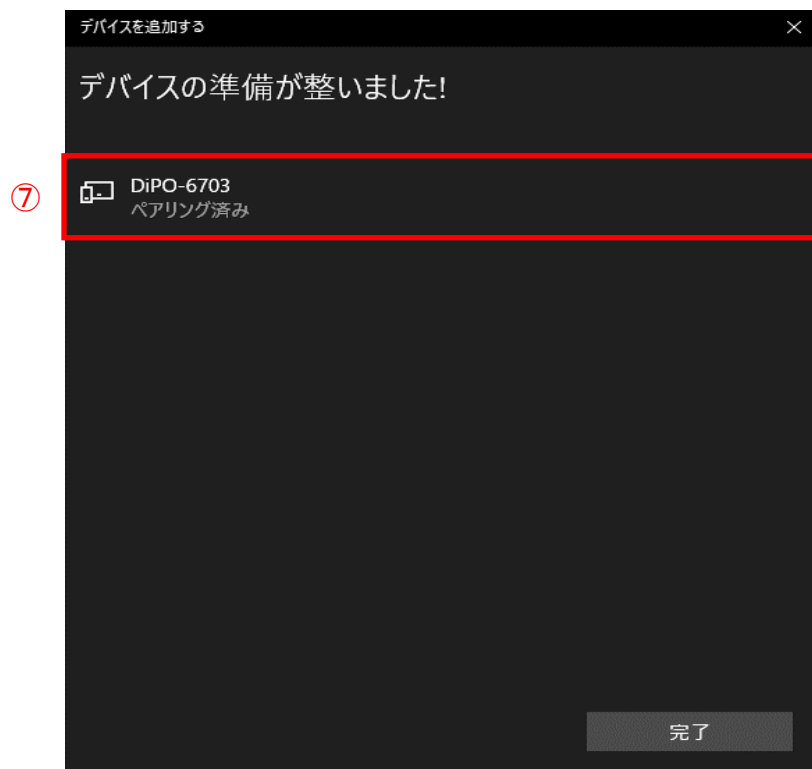
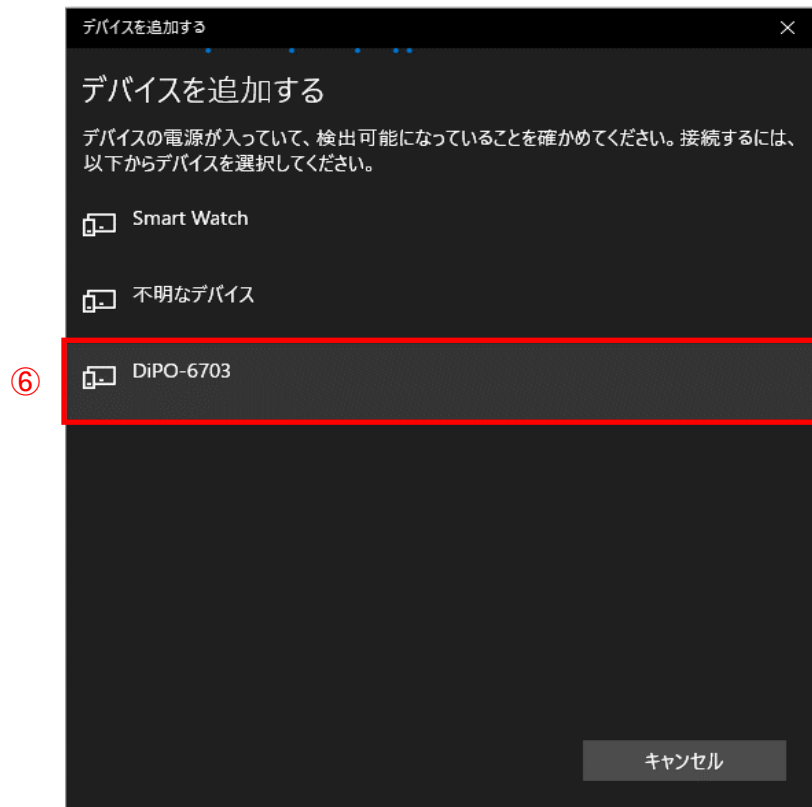
Windows10 の場合について、ペアリング方法を説明します。

※Windows7 の場合については、Bluetooth アダプタに付属の取扱説明書をご参照ください。

■Windows10 側の操作（注：バージョンによって操作が異なる場合があります。）





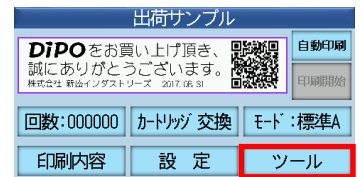




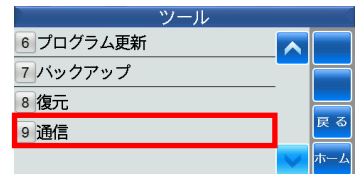
これでD i P Oと通信できる状態となりました。
次にD i P O側の操作を説明します。

■ D i P O側の操作（バージョン1.3 以上に対応します。）

①ホーム画面でツールにタッチします。




②ツールの次画面の通信にタッチします。



③通信画面にD i P Oのアドレスを表示するバーコードとQRコードが表示されます。



文字列は、Bluetooth の MAC アドレスを表示しています。

通信画面の上のステータスバーに通信可能アイコン  が表示されます。

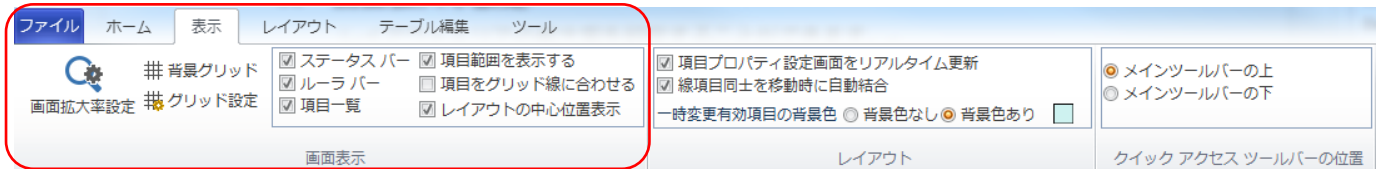
すると、DiPO Partner のメインツールバーの各通信アイコンが有効になります。



これで、DiPO Partner と D i P Oが通信できる状態になりました。

3 表示

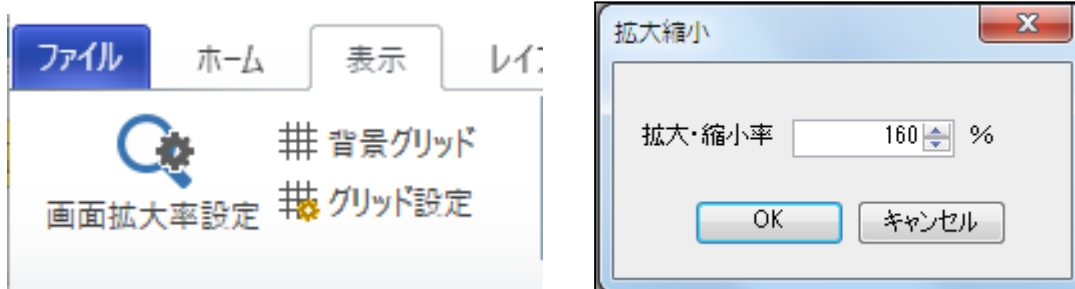
(1) 画面表示



A 画面拡大率設定

レイアウトエリアの拡大率を設定することができます。

拡大率設定アイコンをクリックすると「拡大縮小」ダイアログが表示されますので倍率を入力して「OK」をクリックすることで倍率を変更します。



B 背景グリッド



レイアウトエリアの背景グリッドの表示/非表示を切り替える場合は、メインツールバーの「表示」の「背景グリッド」をクリックします。

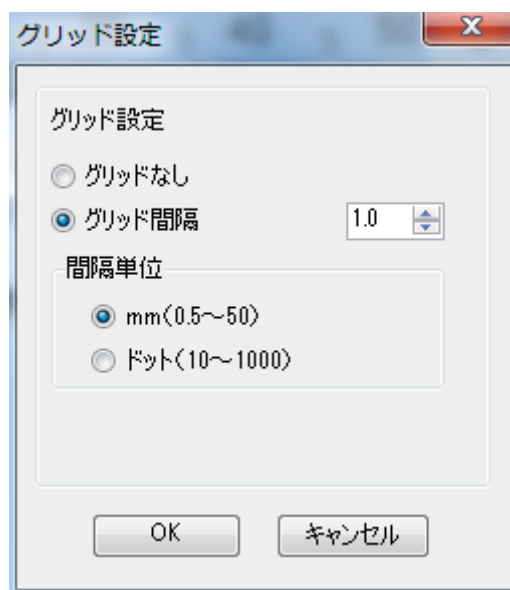
*クリックするたびに、表示 / 非表示が切り替わります。

C グリッド設定

レイアウトエリアの背景のグリッドの設定を行います。



「グリッド設定」をクリックすると「グリッド設定」ダイアログが表示されます。



グリッドの設定を変更して「OK」をクリックします。

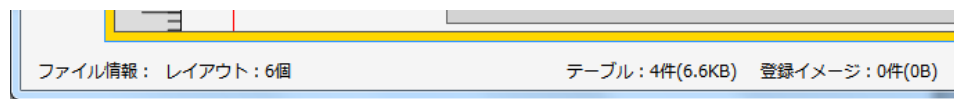
- ・グリッドなし：背景グリッドを使用しない場合に選択します。
- ・グリッド間隔：背景グリッドを使用する場合に、グリッド間隔を mm またはドットから選択します。

D その他

画面表示に関するその他の設定を変更することができます。

<input checked="" type="checkbox"/> ステータスバー	<input checked="" type="checkbox"/> 項目範囲を表示する
<input checked="" type="checkbox"/> ルーラバー	<input type="checkbox"/> 項目をグリッド線に合わせる
<input checked="" type="checkbox"/> 項目一覧	<input checked="" type="checkbox"/> レイアウトの中心位置表示

ステータスバー ----- ステータスバーの表示／非表示を切り替えます。
☒が入っているとステータスバーが表示されます。



表示状態



非表示状態

ルーラバー ----- レイアウトエリアの上と左のルーラバー（目盛り）の表示／非表示を切り替えます。
☒が入っているとルーラバーが表示されます。

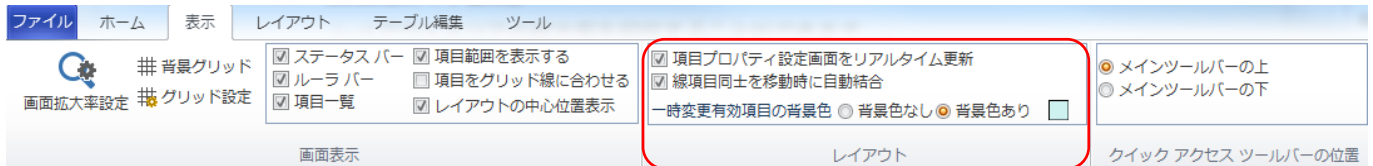
項目一覧 ----- 項目一覧エリアの表示／非表示を切り替えます。
☒が入っていると項目一覧エリアが表示状態です。

項目範囲を表示する ----- 選択項目の枠の表示／非表示を切り替えます。
☒が入っていると選択項目の枠が表示されます。

項目をグリッド線に合わせる --- レイアウトエリアの項目を追加・レイアウト・移動する際に、グリッドに合わせるか自由にレイアウトするかを切り替えます。
☒が入っていると項目がグリッドに合わされてレイアウトされます。

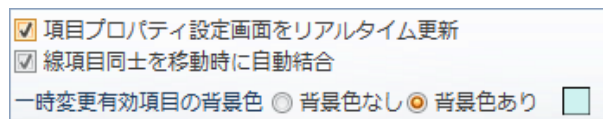
レイアウトの中心位置表示 ----- レイアウトの中心位置に縦・横線を表示／非表示を切り替えます。デフォルトは、☒が入っていて中心位置に縦・横線を表示させます。

(2) レイアウト



A 項目プロパティ設定画面をリアルタイム更新

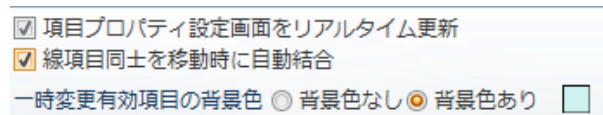
項目プロパティの設定を変更した場合にレイアウトエリアの項目にリアルタイムで変更を適用するかしないかを設定します。✓が入っているとリアルタイムで更新されます。



B 線項目同士を移動時に自動結合

直線項目/ 斜線項目/ 四角形項目を移動して接近させると自動的に結合する／しないを切り替えます。

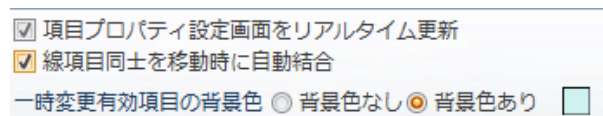
✓が入っていると直線項目/ 斜線項目/ 四角形項目を接近させると自動的に結合します。



C 一時変更有効項目の背景色

項目プロパティのデータタブで手動一時変更に設定されている場合、レイアウトされている項目の背景色の設定ができます。

背景色に✓が入っている場合は、背景色の設定もできます。

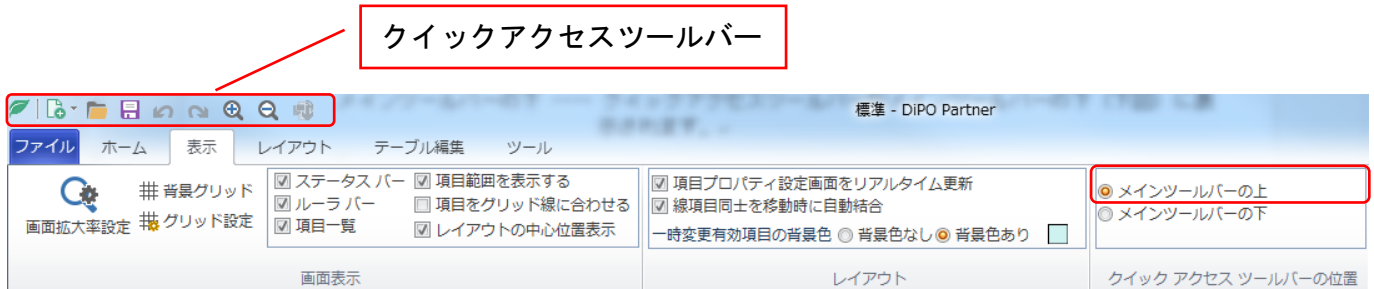


(3) クイックアクセスツールバーの位置

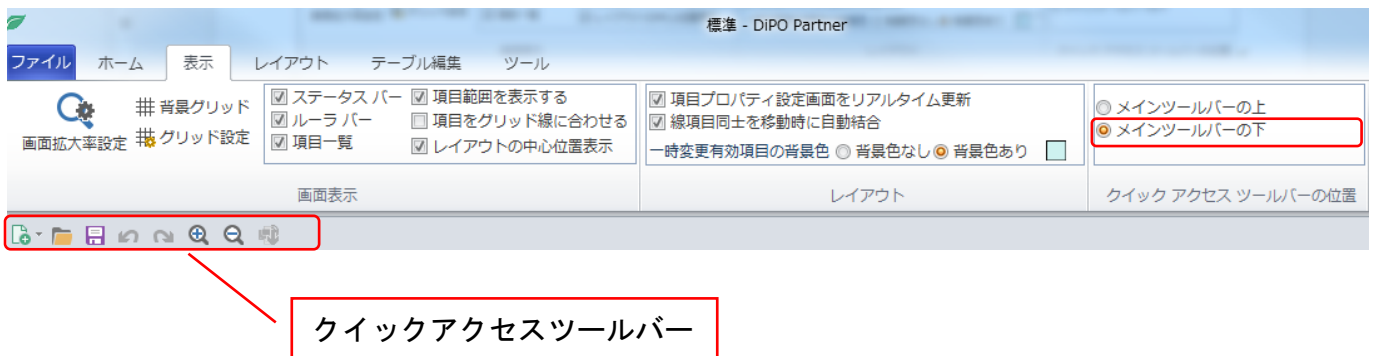
クイックアクセスツールバーの位置を変更することができます。

メインツールバーの上 ----- デフォルトは、この設定になっています。

クイックアクセスツールバーがメインツールバーの上に表示されます。

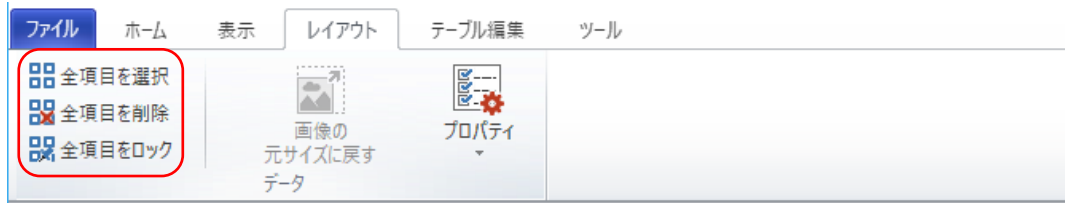


メインツールバーの下 ----- クイックアクセスツールバーがメインツールバーの下に表示されます。



4 レイアウト

(1) 全項目



A 全項目を選択

レイアウトエリア上のすべての項目を選択します。

*レイアウトエリアのショートカットメニューでも同様の設定ができます。

*レイアウトエリアのショートカットメニューについては、[第6章2 レイアウトエリアのショートカットメニュー] の項目をご参照ください。



B 全項目を削除

レイアウトエリア上のすべての項目と入力エリア上の項目データを削除することします。

*レイアウトエリアのショートカットメニューでも同様の設定ができます。

*レイアウトエリアのショートカットメニューについては、[第6章2 レイアウトエリアのショートカットメニュー] の項目をご参照ください。



C 全項目をロック

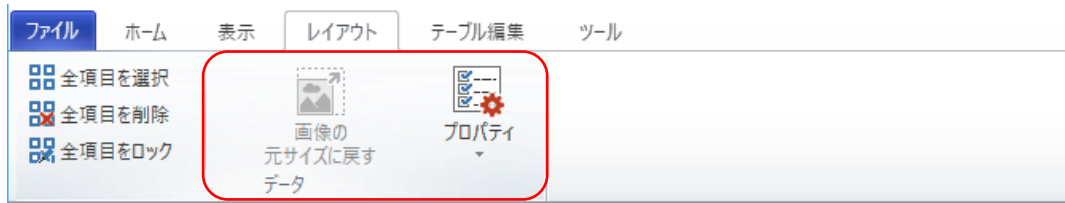
すべての項目をロックし、移動やサイズ変更ができないように設定します。

*レイアウトエリアのショートカットメニューでも同様の設定ができます。

*レイアウトエリアのショートカットメニューについては、[第6章2 レイアウトエリアのショートカットメニュー] の項目をご参照ください。



(2) データ



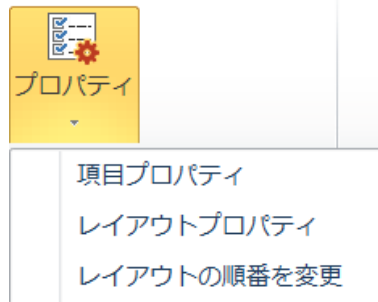
A 画像を元サイズに戻す

拡大／縮小したイメージ項目を元のサイズにもどします。
イメージ項目を選択している場合に有効になります。

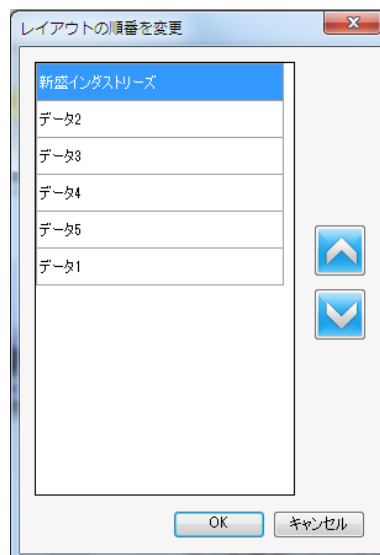


B プロパティ

データのプロパティを開くことができます。



- 項目プロパティ ----- 選択している項目のプロパティを開きます。
 ※項目プロパティについては、[第5章2各項目プロパティ] をご参照ください。
- レイアウトプロパティ ---- レイアウトプロパティを開きます。
 ※レイアウトプロパティについては、[第5章3レイアウトプロパティ] をご参照ください。
- レイアウトの順番を変更 -- レイアウトの順番を変更します。
 レイアウトタブの並びが変更されます。
 クリックすると「レイアウトの順番を変更」ダイアログに表示されます。目的のレイアウトを選択した状態で、上下ボタンで順番を変えます。変更後、[OK] ボタンを押して順番変更を完了させます。

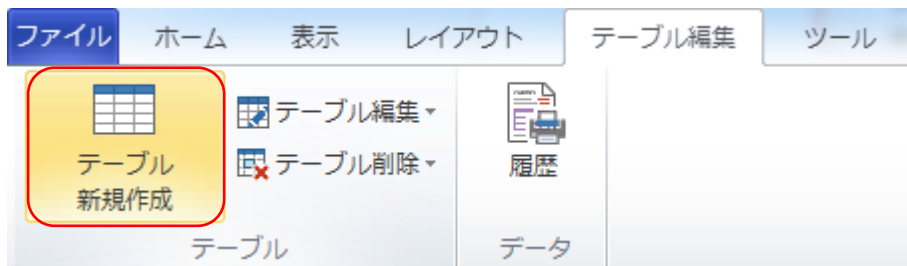


5 テーブル編集

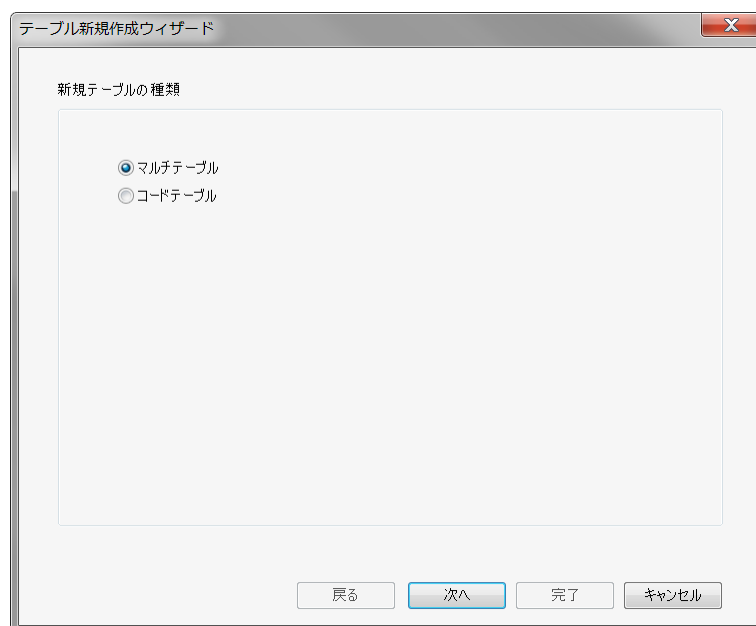
(1) テーブル新規作成

テーブル項目を新規作成します。

テーブル編集→テーブル新規作成ボタンをクリックします。



[テーブル新規作成ウィザード] 画面が表示されますのでテーブルの種類を選択します。



マルチテーブルを作成する場合は、[マルチテーブル] を選択し、[次へ] をクリックします。

※マルチテーブル：Key 毎に複数のデータを登録する場合に使用します。

例：店舗情報で Key1 に店名、住所、電話番号などの複数の情報が入る場合

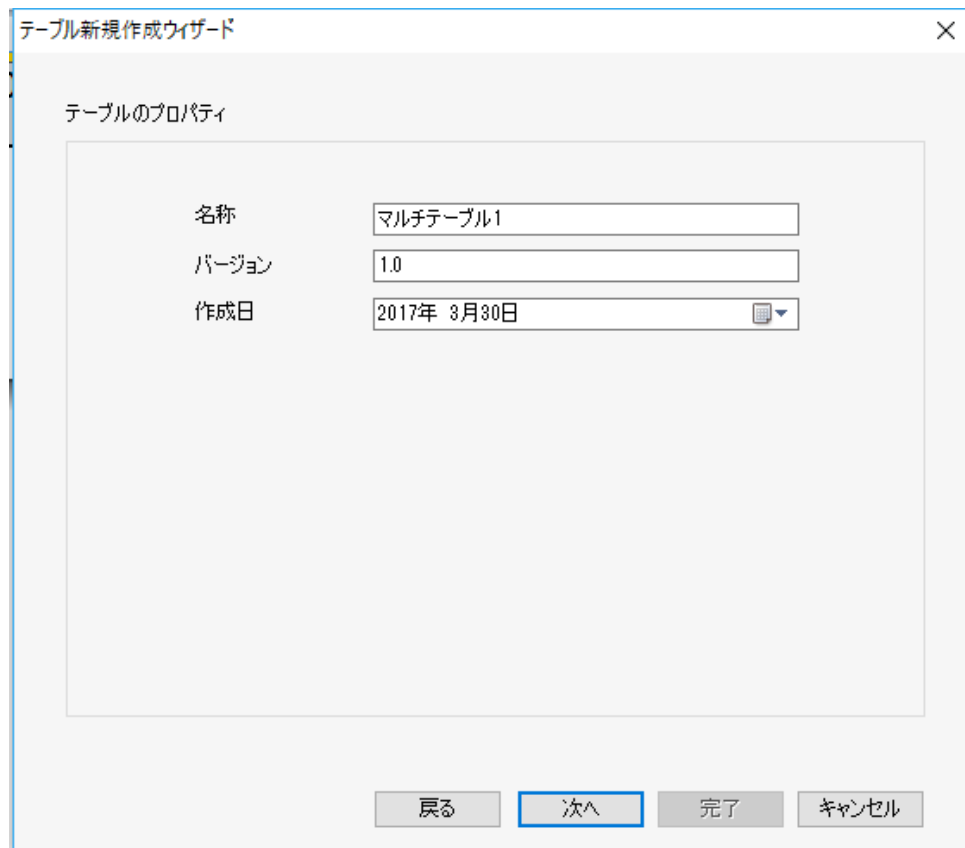
コードテーブルを作成する場合は、[コードテーブル] を選択し、[次へ] をクリックします。

※コードテーブル：Key 毎に一つのデータを登録する場合に使用します。

例：商品名で Key1 にジャガイモ、Key2 に人参などの一つだけ情報が入る場合

A マルチテーブル作成

[テーブル新規作成ウィザード]が表示されますので、テーブルのプロパティを設定します。設定が終了したら[次へ]をクリックしてください。



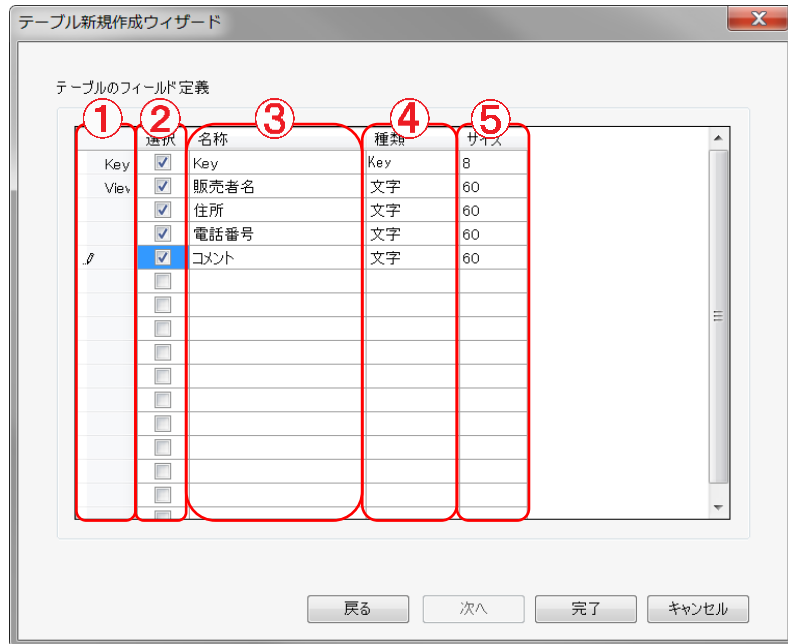
名称 ----- テーブルの名称を設定します。

バージョン ----- テーブルのバージョンを設定します。

作成日 ----- テーブル作成日を設定します。
自動的に日付が表示されます。

テーブルプロパティ設定後に[次へ]をクリックすると、テーブルのフィールド定義画面が表示されます。フィールドの設定が終了したら[完了]をクリックしてください。

下図では、例として販売者を設定する場合のテーブルを表示しています。



- | | |
|-----------|--|
| ①Key&view | key : テーブルを使用する際に②～⑤のフィールド情報を呼出す際の番号を指定します。
view : 呼出した際にどのデータか判別するために表示される項目になります。 |
| ②選択 | 使用するフィールドを指定します。使用するフィールドに✓を入れます。ただし、1 行目の [Key] と表示された項目は、オフにすることはできません。 |
| ③名称 | フィールドの名称を指定します。他のフィールド名称と重複しない名称を指定してください。 |
| ④種類 | フィールドで利用できる文字種類を設定しますが DiP0 では [文字] で固定となります。1 行目の [Key] と表示された項目の種類は、変更できません。 |
| ⑤サイズ | フィールドの入力可能文字数を指定します。(単位: バイト)
半角 1 文字=1 バイト、全角 1 文字= 2 バイトで計算します。
使用するデータ項目の桁数と揃えて設定してください。(印刷する項目のセンタリング等の設定に影響します) |

フィールド定義が終了し、[完了] をクリックすると [テーブル編集] 画面が表示されます。
各フィールドに情報を入力してください。
フィールド情報の入力終了したら [OK] をクリックして終了となります。
※フィールドの数は、テーブルのフィールド定義画面での設定により異なります。

名称 ----- このテーブルの名称が表示されます。
名称を入力して変更するも事ができます。

プロパティ ----- このテーブルのプロパティを設定します。
プロパティについては、後述する [(i) プロパティ] の項目をご参照ください。

CSVデータを読み込 ----- CSVデータを取り込みます。
CSVデータを読み込については、後述する [(ii) CSVデータを読み込] の項目をご参照ください。

CSV形式で保存 ----- 現在編集しているテーブルをCSV形式で保存します。
CSV形式で保存については、後述する [(iii) CSV形式で保存] の項目をご参照ください。

(i) プロパティ

テーブルのプロパティ

名称

バージョン

作成日

キーフィールド

☐ Key項目に「0」コードが有効

OK キャンセル

名称 ----- テーブルの名称を設定します。

バージョン ----- テーブルのバージョンを設定します。

作成日 ----- テーブル作成日を設定します。
自動的に日付が表示されます。

キーフィールド ----- このテーブルに関連している key のフィールド名称が表示されます。

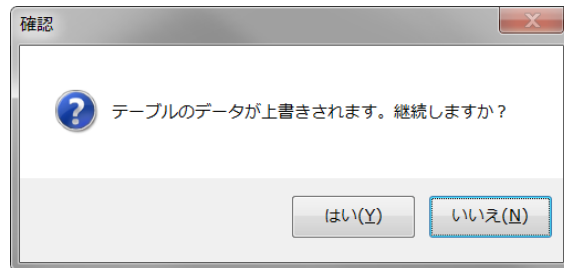
key 項目に「0」コードが有効 -- ☒を入れると、key 項目に「0」が入力されても有効になります。

(ii) CSVデータを読み込

CSVデータを取り込みます。

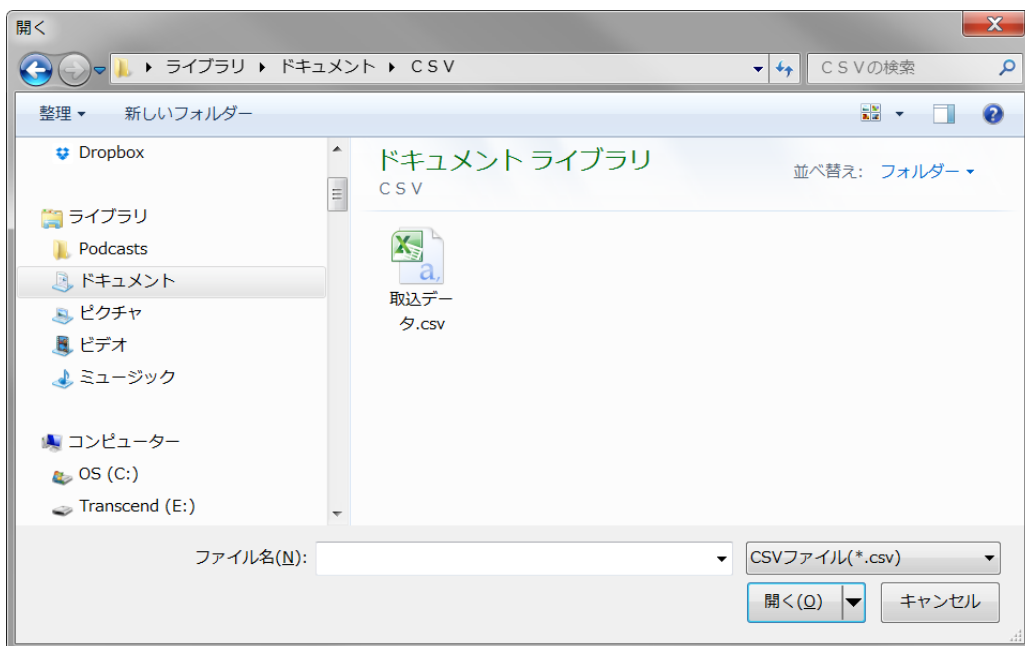
クリックすると上書きされる旨の「確認」ダイアログが表示されますので「はい」をクリックしてください。

※取り込むCSVデータは取り込み先テーブルのフィールドに合わせて作成されている必要があります。



「はい」をクリックすると、取り込むCSVファイルの保存場所を指定する画面が開くので、対象のCSVファイルを選択してください。

下図の「開く」の画面はご使用のOSにより異なります。

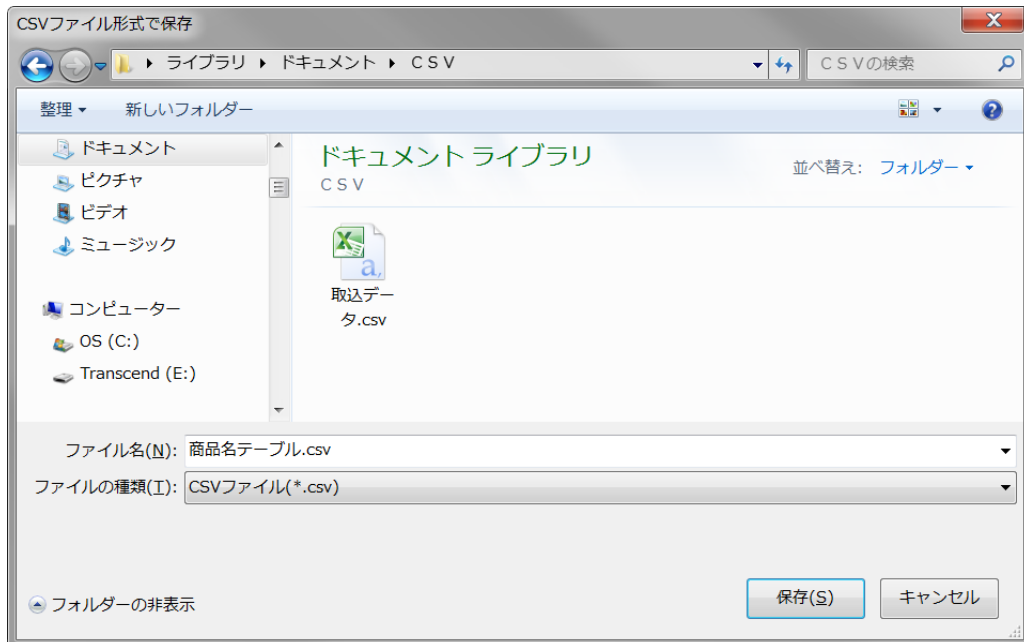


ファイルを選択して「開く」をクリックするとCSVデータがテーブルに上書きされます。

(iii) CSV形式で保存

開いているテーブルをCSVで保存します。

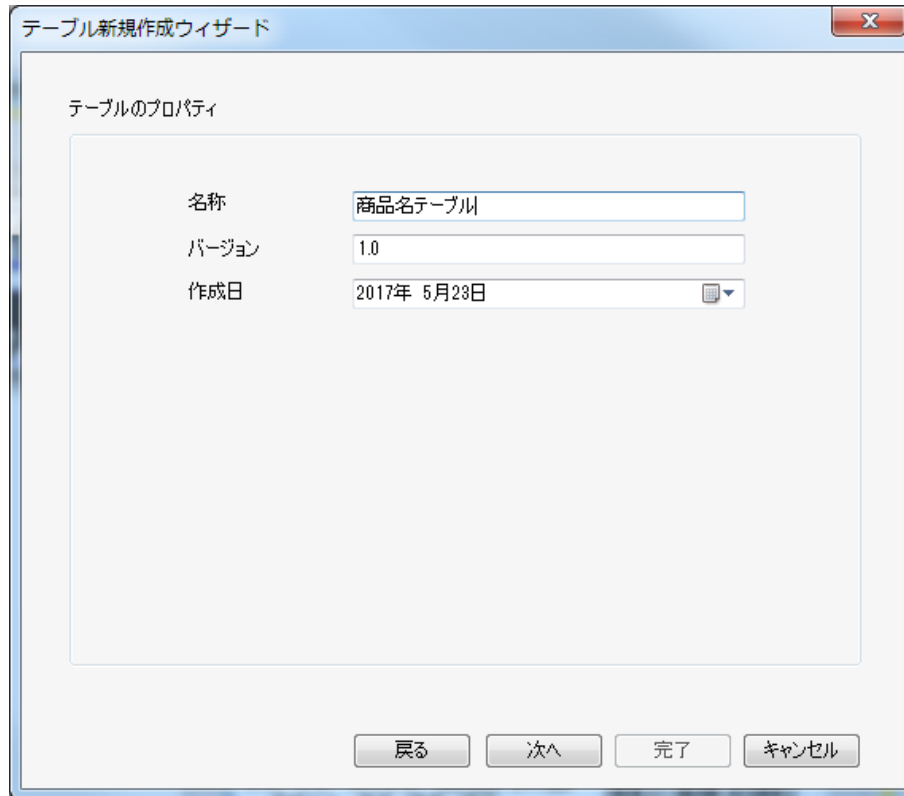
クリックすると上書きされる旨の「CSVファイル形式で保存」ダイアログが表示されますので保存先を指定し、ファイル名を入力して「保存」をクリックして終了となります。



B コードテーブル作成

コードテーブルを選択すると「テーブル新規作成ウィザード」が表示されますので、テーブルのプロパティを設定します。

設定が終了したら「次へ」をクリックしてください。



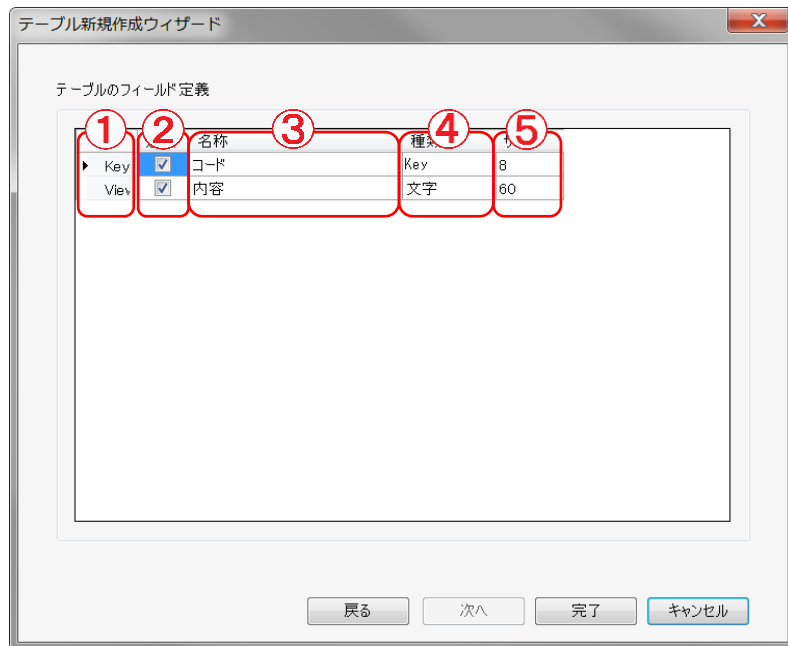
名称 ----- テーブルの名称を設定します。

バージョン ----- テーブルのバージョンを設定します。

作成日 ----- テーブル作成日を設定します。
自動的に日付が表示されます。

テーブルプロパティの設定が終了し「次へ」をクリックするとテーブル新規作成ウィザード画面が表示されます。

コードテーブルでは key に対してフィールドは一つしか持つ事ができません。複数のフィールドが必要な場合は、マルチテーブルを使用します。



- ①Key&view ----- key : テーブルを使用する際にフィールド情報を呼出す際の番号を指定します。
view : 呼出した際にどのデータか判別するために表示される項目になります。
- ②選択 ----- 使用するフィールドを指定します。コードテーブルでは、変更できません。
- ③名称 ----- フィールドの名称を指定します。他のフィールド名称と重複しない名称を指定してください。
- ④種類 ----- フィールドで利用できる文字種類を設定しますが DiP0 では「文字」で固定となります。1 行目の「Key」と表示された項目の種類は変更できません。
- ⑤サイズ ----- フィールドの入力可能文字数を指定します。(単位 : バイト)
半角 1 文字=1 バイト、全角 1 文字=2 バイトで計算します。
使用するデータ項目の桁数と揃えて設定してください (印刷する項目のセンタリング等の設定に影響します)。

テーブルフィールド定義が終了し、[完了] をクリックするとテーブル編集画面が表示されます。
各フィールドに情報を入力してください。

下図では例として商品名のみのコードテーブルを表示しています。

フィールド情報の入力が終わったら [OK] をクリックして終了となります。

※フィールドの数は、コードテーブルでは二つのみです。

名称 ----- このテーブルの名称が表示されます。
名称を入力して変更するも事ができます。

プロパティ ----- このテーブルのプロパティを設定します。
プロパティについては、後述する [(i) プロパティ] の項目をご参照ください。

CSVデータを読み込 ----- CSVデータを取り込みます。
CSVデータを読み込については、後述する [(ii) CSVデータを読み込] の項目をご参照ください。

CSV形式で保存 ----- 現在編集しているテーブルをCSV形式で保存します。
CSV形式で保存については、後述する [(iii) CSV形式で保存] の項目をご参照ください。

(i) プロパティ

テーブルのプロパティ

名称 商品名テーブル

バージョン 1.0

作成日 2018年 8月22日

キーフィールド コード

☐ Key項目に「0」コードが有効

OK キャンセル

名称 ----- テーブルの名称を設定します。

バージョン ----- テーブルのバージョンを設定します。

作成日 ----- テーブル作成日を設定します。
自動的に日付が表示されます。

キーフィールド ----- このテーブルに関連している Key のフィールド名称が表示されます。

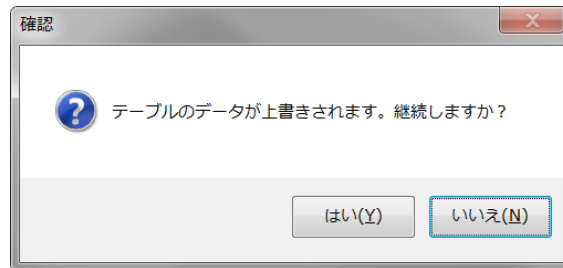
key 項目に「0」コードが有効 -- ✓を入れると、key 項目に「0」が入力されても有効になります。

(ii) CSVデータを読み込

CSVデータを取り込みます。

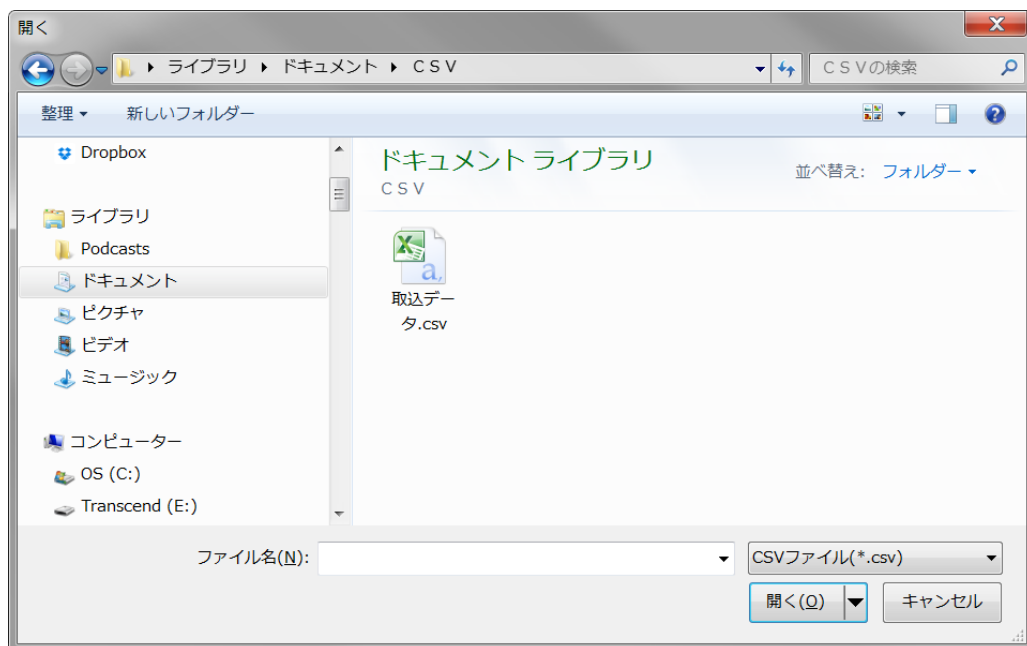
クリックすると上書きされる旨の「確認」ダイアログが表示されますので「はい」をクリックしてください。

※取り込むCSVデータは取り込み先テーブルのフィールドに合わせて作成されている必要があります。



「はい」をクリックすると、取り込むCSVファイルの保存場所を指定する画面が開くので、対象のCSVファイルを選択してください。

下図の「開く」の画面はご使用のOSにより異なります。

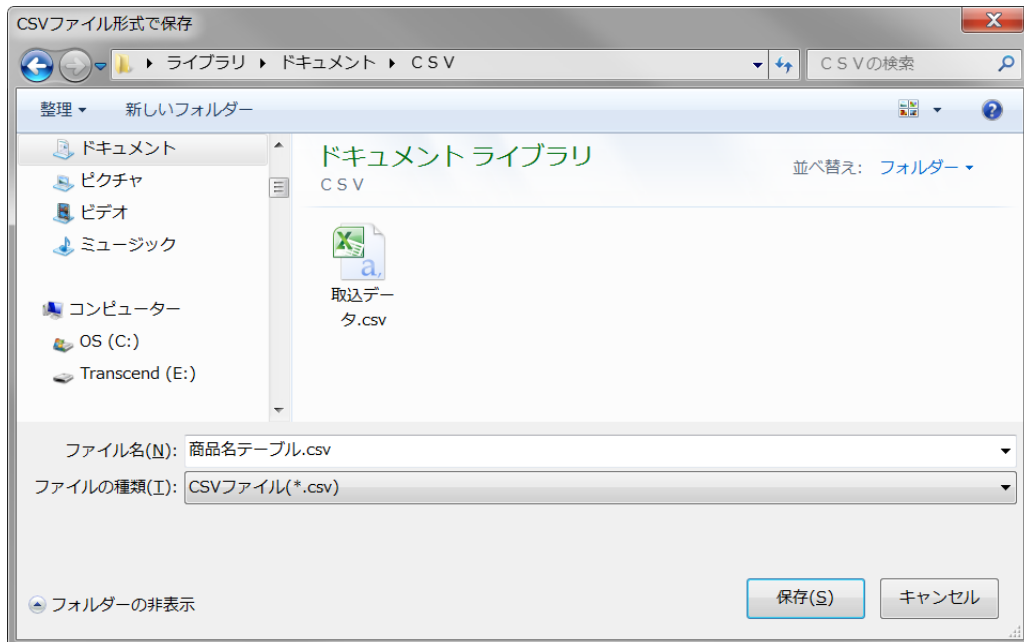


ファイルを選択して「開く」をクリックするとCSVデータがテーブルに上書きされます。

(iii) CSV形式で保存

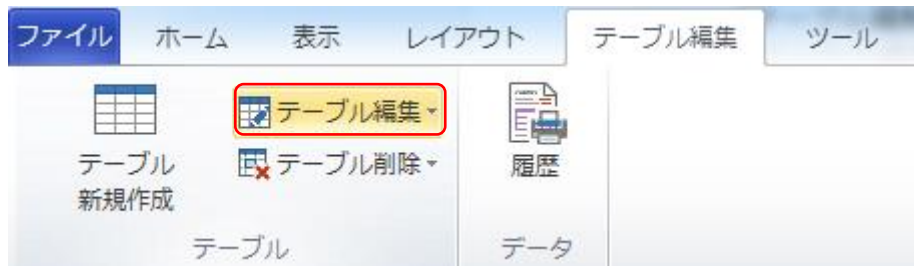
開いているテーブルをCSVで保存します。

クリックすると上書きされる旨の「CSVファイル形式で保存」ダイアログが表示されますので保存先を指定し、ファイル名を入力して「保存」をクリックして終了となります。



(2) テーブル編集

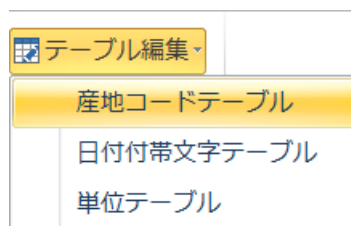
作成済のテーブルを編集します。



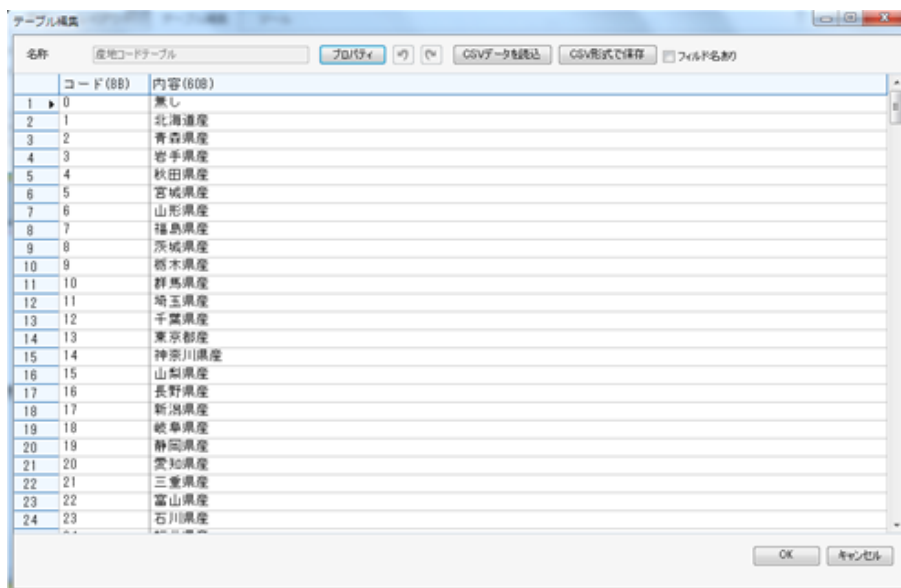
「テーブル編集」をクリックすると作成済のテーブルがリスト表示されます。
リストから編集するテーブルを選択します。

※DiP0 Partner では、あらかじめ3種類のテーブルが登録されています。

- ・産地コードテーブル：コードテーブル_産地名が登録されています。
- ・日付付帯文字テーブル：コードテーブル_日付付帯文字（消費期限など）が登録されています。
- ・単位テーブル：コードテーブル_単位が登録されています。



産地コードテーブルのテーブル編集画面が表示されますので、フィールドの編集を行ってください。

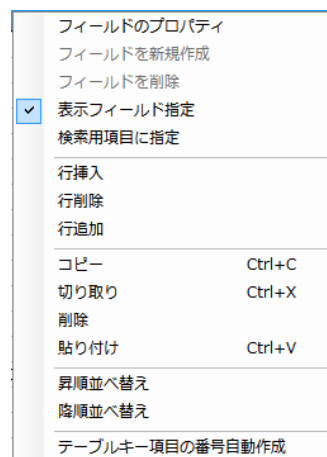


- 名称 ----- このテーブルの名称が表示されます。
名称を入力して変更するも事ができます。
- プロパティ ----- このテーブルのプロパティを設定します。
プロパティについては、[第7章5－（1）－AまたはB－（i）プロパティ] の項目をご参照ください。
- C S V データを読み込 ----- C S V データを取り込みます。
C S V データを読み込については、[第7章5－（1）－AまたはB－（ii）C S V データを読み込] の項目をご参照ください。
- C S V 形式で保存 ----- 現在編集しているテーブルをC S V 形式で保存します。
C S V 形式で保存については、[第7章5－（1）－AまたはB－（iii）C S V 形式で保存] の項目をご参照ください。

A ショートカットメニューを使う

[テーブル編集] ダイアログのセル内で右クリックすると、ショートカットメニューが表示されます。

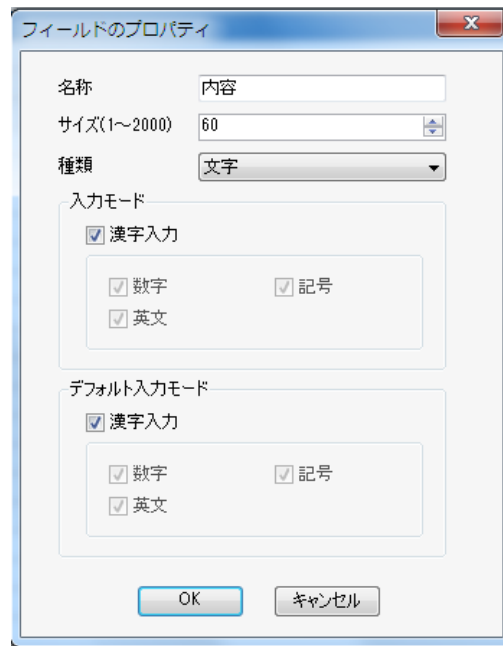
ここでは、産地コードテーブルのテーブル編集画面の場合について、説明します。



- フィールドのプロパティ --- 後述する [(i) フィールドのプロパティ] の項目をご参照ください。
- フィールドを新規作成 ---- フィールドを追加することができます。選択すると、右端に列が追加されます。
マルチテーブルの場合は、無効となります。
- フィールドを削除 ----- 現在選択しているセルがあるフィールド列を削除します。
マルチテーブルの場合は、無効となります。
- 表示フィールド指定 ----- 選択しているセルがあるフィールド列に対して、表示フィールドの指定、または表示フィールドの指定の解除ができます。表示フィールドに設定すると、D i P Oで商品名による検索発行を行う際の表示項目とすることができます。指定済みの場合、ショートカットメニューの前に✓マークが付きます。

- 検索用項目に指定 ----- 選択しているセルがあるフィールド列に対して、検索用項目の指定、または検索用項目の指定の解除ができます。検索用項目に指定すると、D i P Oで商品名による検索発行を行う際の検索用項目とすることができます。指定済みの場合、ショートカットメニューの前に✓マークが付きます。
- 行挿入 ----- 選択しているセルがある行の前に1行追加されます。
- 行削除 ----- 選択しているセルがある行が削除されます。
- 行追加 ----- 末尾に100行が追加されます。
- コピー ----- 選択しているセルの内容がクリップボードにコピーされます。
- 切り取り ----- 選択しているセルの内容が切り取られ、クリップボードにコピーされます。
- 削除 ----- 選択しているセルの内容が削除されます。
- 貼り付け ----- 選択しているセルに、クリップボードに保存されたコピーデータ、切り取りデータが貼り付けられます。
- 昇順並べ替え ----- 選択しているセルがあるフィールド列を基準に、データが昇順に並べ替えられます。
- 降順並べ替え ----- 選択しているセルがあるフィールド列を基準に、データが降順に並べ替えられます。
- テーブルキー項目の番号自動作成 -- [テーブルキー項目の番号自動作成] ダイアログを表示して、フィールドのプロパティの設定ができます。
※テーブルキー項目の番号自動作成については、後述する
〔(ii) テーブルキー項目の番号自動作成〕の項目をご参照ください。

(i) フィールドのプロパティ



名称 ----- フィールドの名称を変更できます。

サイズ ----- フィールドのサイズを変更できます。

種類 ----- DiPO では [文字] で固定となります。

入力モード／デフォルト入力モード

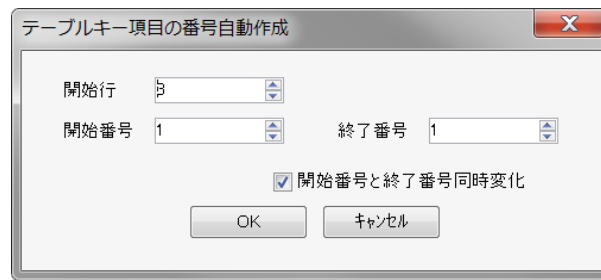
漢字入力 ----- すべての文字種が漢字入力になります。

数字 ----- [漢字入力] の✓を外している場合に設定します。
入力可能な文字種に半角数字を含める場合に✓を入れます。

記号 ----- [漢字入力] の✓を外している場合に設定します。
入力可能な文字種に記号を含める場合に✓を入れます。

英文 ----- [漢字入力] の✓を外している場合に設定します。
入力可能な文字種に半角英字を含める場合に✓を入れます。

(ii) テーブルキー項目の番号自動作成



開始行 ----- 番号を自動作成する行番号を入力します。

開始番号 ----- 作成する番号の開始番号を入力します。

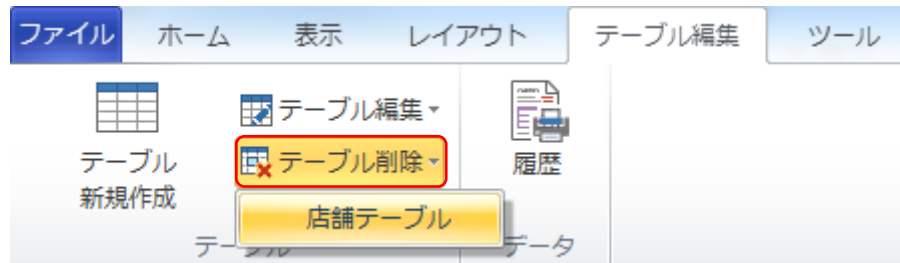
終了番号 ----- 最後の番号を入力します。

開始番号と終了番号同時変化 -- 同時に値が変化します。開始と終了の番号を変える場合は✓を外してください。

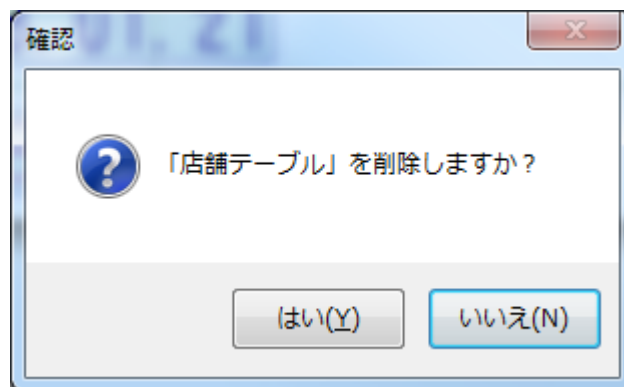
(3) テーブル削除

作成したテーブルを削除します。あらかじめ登録されている3つのテーブル（産地コードテーブル、日付付帯文字テーブル、単位テーブル）は削除することはできません。

テーブル編集→テーブル削除ボタンをクリックすると、新規に作成したテーブルが表示され削除することができますので、削除するテーブルを選択してください。



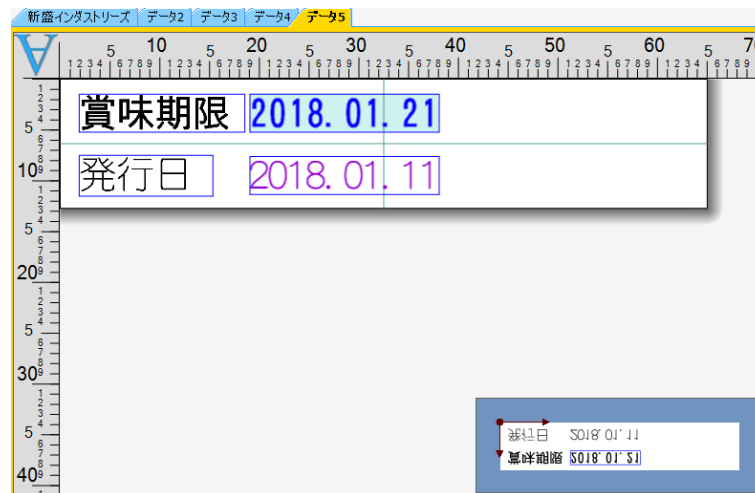
たとえば、削除したい店舗テーブルをクリックすると「確認ダイアログ」が表示されます。
「はい」をクリックすると、テーブルが削除されます。



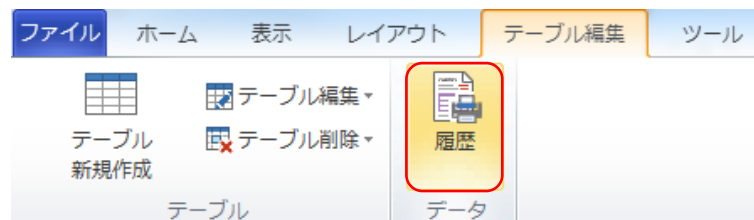
(4) 履歴

DiPO 本体で印刷した履歴データを USB メモリに保存することが出来ます。そのために、DiPO Partner で履歴データをフォーマット化する必要があります。

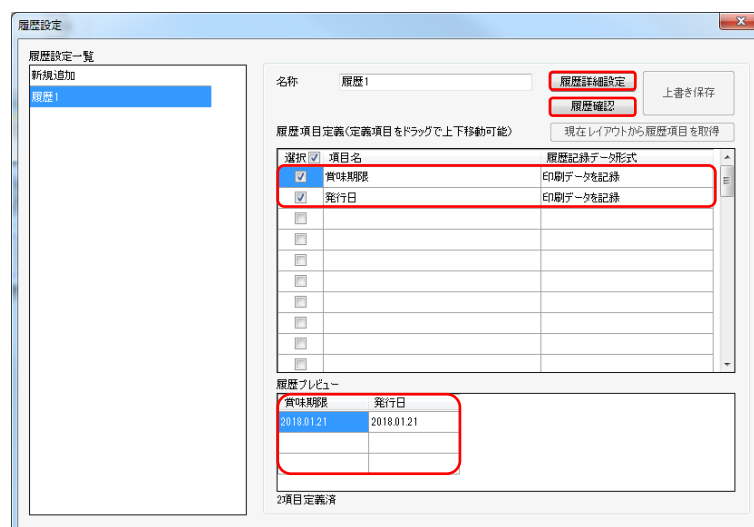
たとえば、「データ 5」のレイアウトにのみ賞味期限（手動一時変更と補正日が設定されています。）と発行日がレイアウトされている場合について、履歴データのフォーマット化について説明します。



テーブル編集→履歴ボタンをクリックしてください。



すると、履歴設定画面が表示されます。

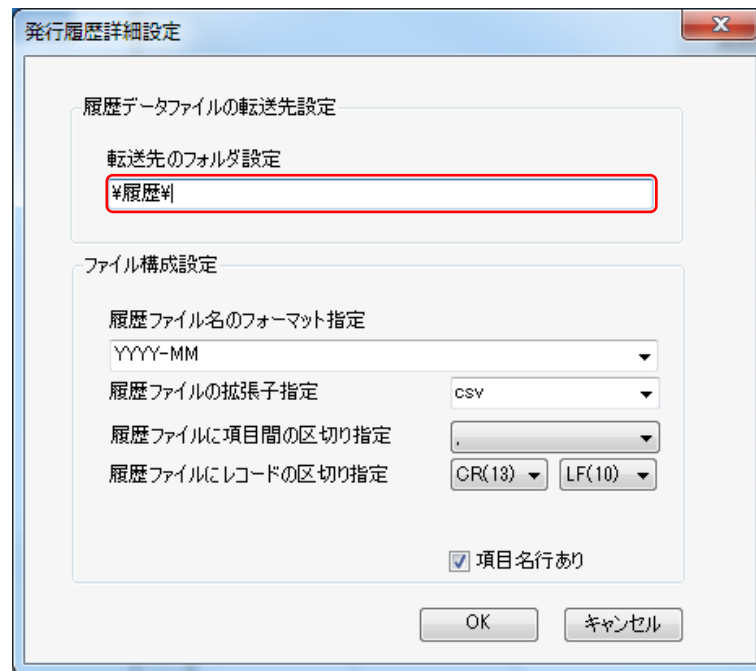


履歴設定画面の項目名欄に賞味期限と発行日を入力し、選択欄に✓を入れます。(履歴記録データ形式欄には、印刷データを記録を選択します。)

すると、履歴プレビュー欄に賞味期限と発行日の履歴フォーマットが表示されます。

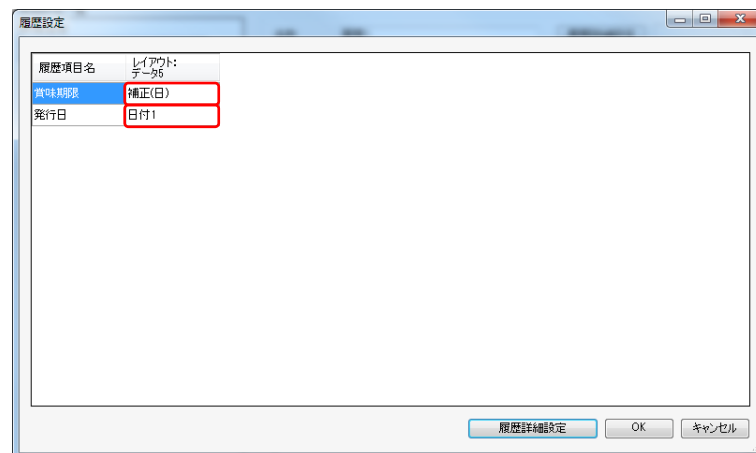
次に、履歴設定画面から履歴詳細設定ボタンをクリックします。

たとえば、USB メモリに履歴データを保存したいフォルダを作成したい場合は、転送先のフォルダ設定枠に¥履歴¥と入力し、OKボタンをクリックします。



次に、履歴設定画面から履歴確認ボタンをクリックします。

賞味期限の右枠のプルダウンメニューから補正(日)と、発行日の右欄のプルダウンメニューから日付1を選択し、OKボタンをクリックします。



これで DiPO Partner でのフォーマット化が終了しました。

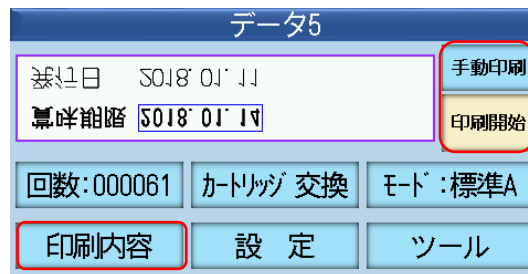
最後に、この DiPO Partner ファイルを DiPO 本体にダウンロードします。

【ここからは、DiPO 本体の説明になります。】

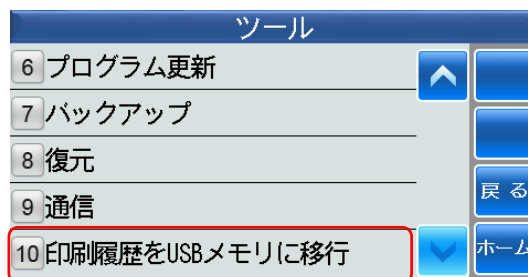
操作編の取扱説明書の「ツール⇒⑩印刷履歴を USB メモリに移行」にも同様な説明があります。

DiPO 本体の印字内容からデータ 5 を選択し、手動または自動印刷を選択して印刷します。

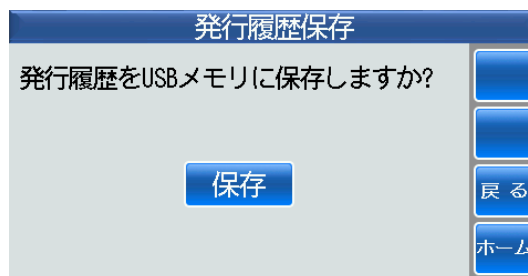
※賞味期限は、手動一時変更が設定されているため、青枠の日付項目にタッチして補正日の変更ができます。



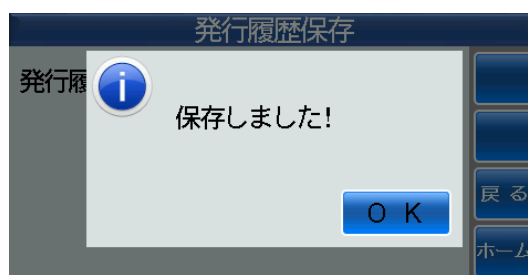
印刷履歴を保存したい USB メモリを DiPO 本体に挿入し、ツール画面の⑩印刷履歴を USB メモリに移行にタッチします。



保存にタッチします。



OKにタッチします。

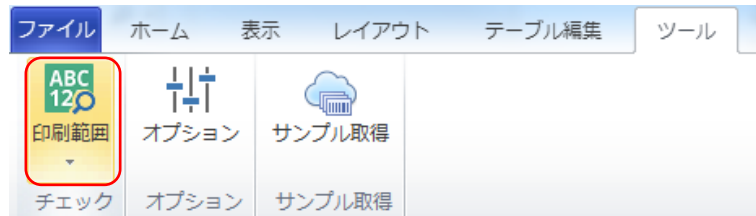


これで、USB メモリに印刷履歴が保存されました。

USB メモリをパソコンなどに挿入して、印刷履歴を見ることができます。

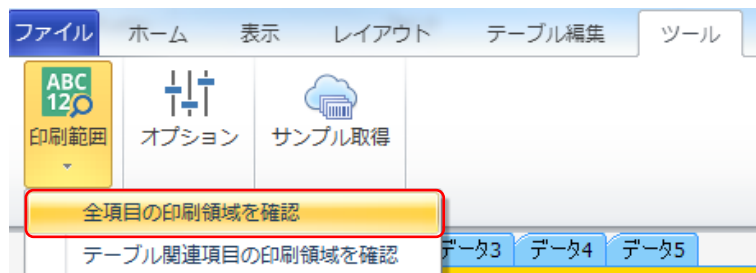
6 ツール

(1) 印刷範囲

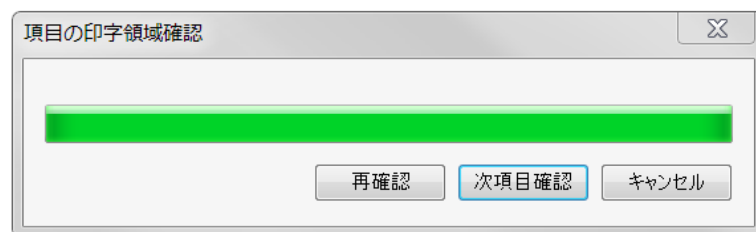


A 全項目の印刷領域を確認

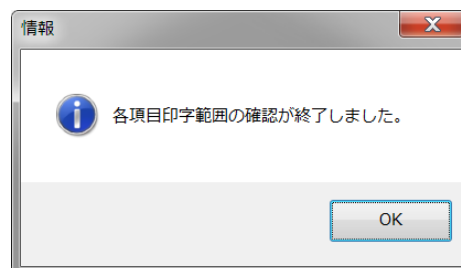
全レイアウトを通して、印刷文字数が桁数を超えていないかをチェックします。



チェックが開始されると領域確認の画面が表示されます。

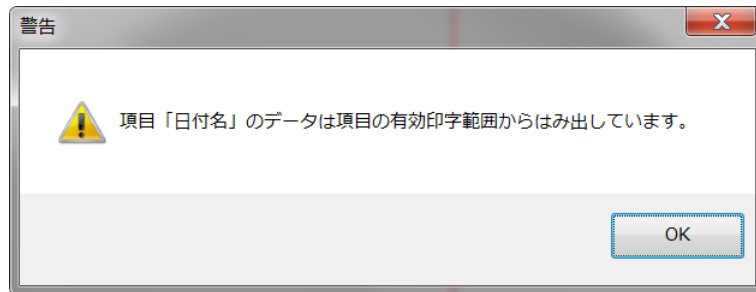


確認終了のメッセージが表示されたら [OK] をクリックしてチェック終了となります。



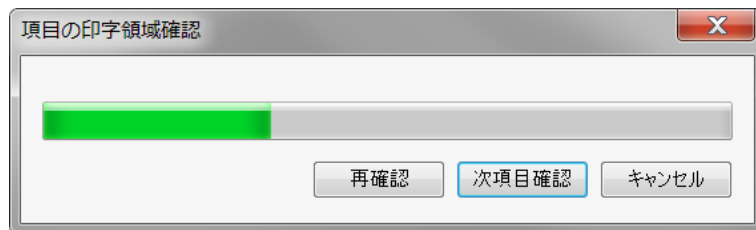
(i) チェックが正常に終了しなかった場合

チェック中にエラー項目が見つかった場合には〔警告〕ダイアログが表示されますので、〔OK〕をクリックして、ダイアログ中に表記されている該当項目を修正します。



該当項目の修正が終了したら、〔項目の印刷領域確認〕ダイアログの〔再確認〕をクリックしてください。再度全レイアウトのチェックが行われます。

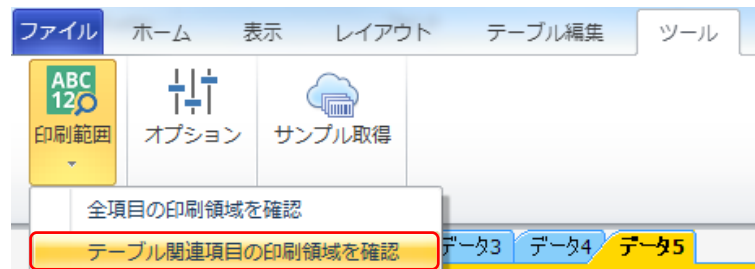
該当項目の修正をスキップする場合には、〔次項目確認〕をクリックします。



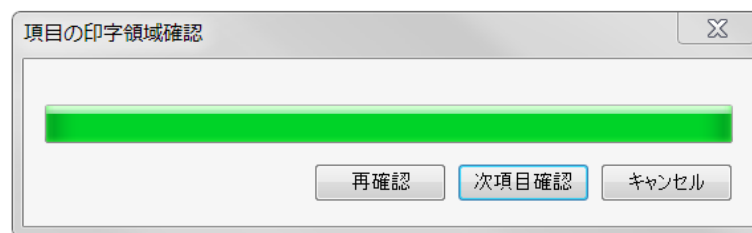
この手順を繰り返してエラー項目を全て修正してください。

B テーブル関連項目の印刷領域を確認

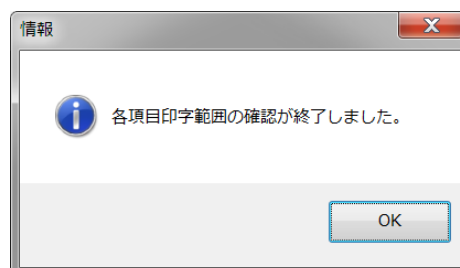
テーブルに関連した項目の印刷領域を確認します。



チェックが開始されると領域確認の画面が表示されます。



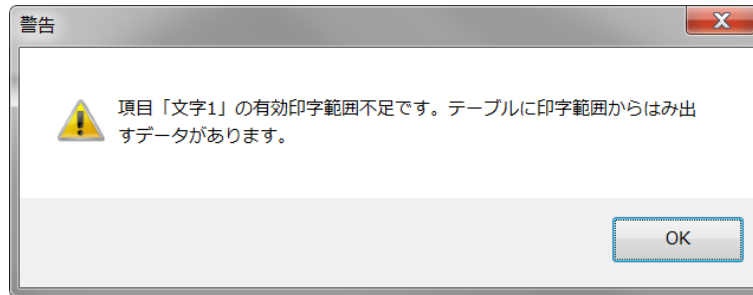
確認終了のメッセージが表示されたら [OK] をクリックしてチェック終了となります。



(i) チェックが正常に終了しなかった場合

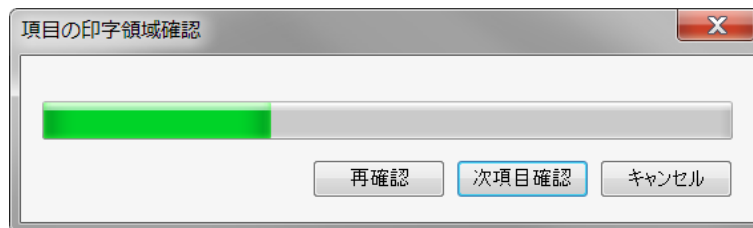
チェック中にエラー項目が見つかった場合には、[警告] ダイアログが表示されますので、[OK] をクリックしてダイアログ中に表記されている該当項目を修正します。

修正はレイアウトエリア上の枠を大きく変更するか、テーブル内の該当フィールドの文字数を少なくしてください。



該当項目の修正が終了したら、[項目の印刷領域確認] ダイアログの[再確認] をクリックしてください。再度チェックが行われます。

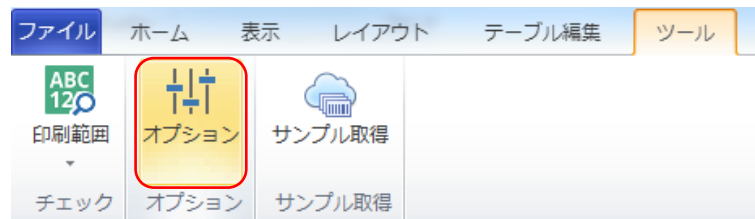
該当項目の修正をスキップする場合には[次項目確認] をクリックします。



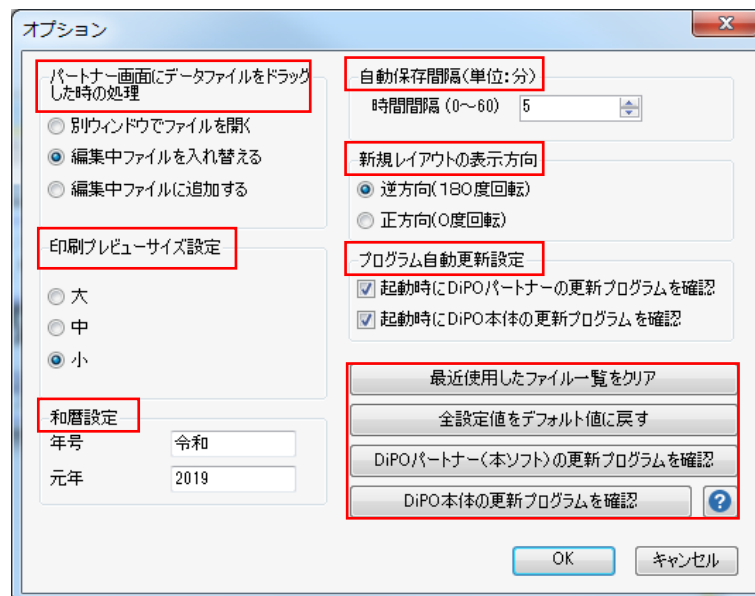
この手順を繰り返して、エラー項目を全て修正してください。

(2) オプション

DiPO Partner に関するオプションを設定することができます。



クリックするとオプション画面が表示されます。



DiPO Partner 画面にデータファイルをドラッグした時の処理 --- 開いている DiPO Partner 画面に別の DiPO Partner ファイルをドラッグした時の処理を選択することができます。

- ・ 別ウィンドウでファイルを開く : 別のウィンドウで開きます
- ・ 編集集中ファイルを入れ替える : 現在のファイルを閉じてから、ファイルを開きます。
- ・ 編集集中ファイルに追加する : 現在のファイルの最後尾に追加します。

印刷プレビューサイズ設定 ----- レイアウトエリアの右下の印刷プレビューのサイズを大・中・小に変更することができます。

和暦設定

- ・ 年号 ----- 新しい年号を入力します。
- ・ 元年 ----- 新しい年号の元年を西暦で入力します。

※DiPO 本体には、反映されません。

自動保存間隔（単位：分）

時間間隔 ----- 編集集中のデータを自動で保存する間隔を設定します。
この自動保存は、DiPO Partner 異常終了した場合に、異常終了前に自動保存した状態を復元する時に使用します。

新規レイアウトの表示方向

- ・ 逆方向（180 度回転） ----- 新規レイアウトを作成する時は、逆方向にレイアウトされます。
- ・ 正方向（0 度回転） ----- 新規レイアウトを作成する時は、正方向にレイアウトされます。

プログラム自動更新設定

- ・ 起動時に DiPO Partner の更新プログラムを確認するときに✓を入れます。
- ・ 起動時に DiPO 本体の更新プログラムを確認するときに✓を入れます。

最近使用したファイル一覧をクリア --- メインツールバーのファイルに表示される〔最近使用したファイル一覧〕をクリアします。

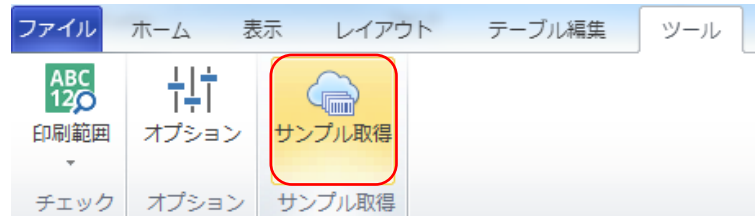
全設定値をデフォルト値に戻す --- 全設定値をデフォルトに戻します。

DiPO Partner の更新プログラムを確認 --- クリックすると DiPO Partner が最新バージョンかどうかを確認することができます。

DiPO 本体の更新プログラムを確認 ----- クリックすると DiPO 本体が最新バージョンかどうかを確認することができます。

(3) サンプル取得

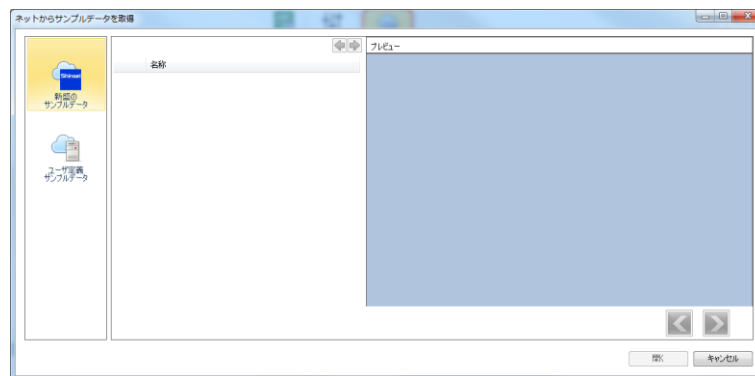
サンプルデータを新盛サーバーまたはユーザー様が定義したサーバーから取得することができます。



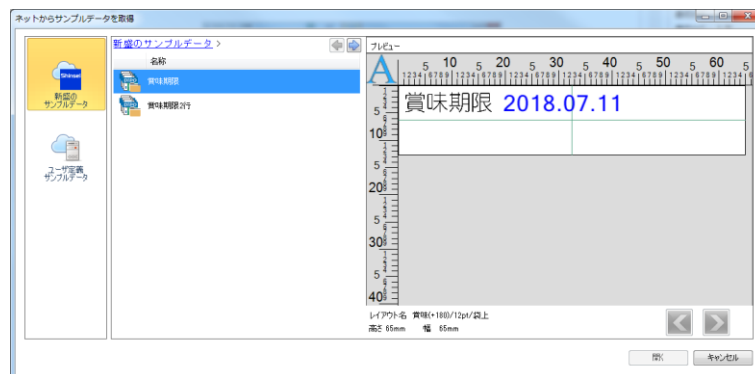
クリックするとネットからサンプルデータを取得画面が表示されます。

A 新盛のサンプルデータ

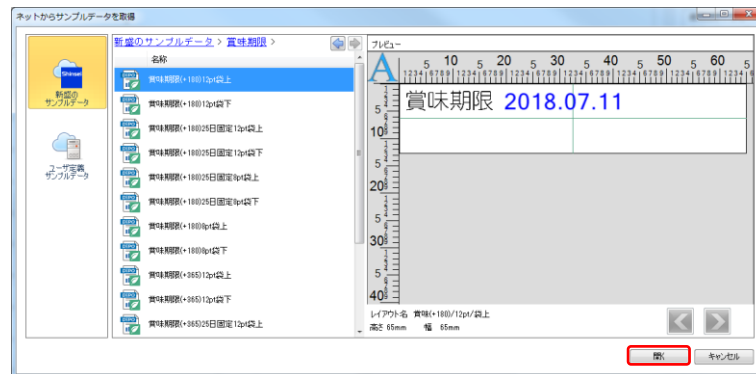
新盛のサンプルデータをクリックします。



2種類のレイアウトが表示されますので、たとえば、賞味期限をダブルクリックします。

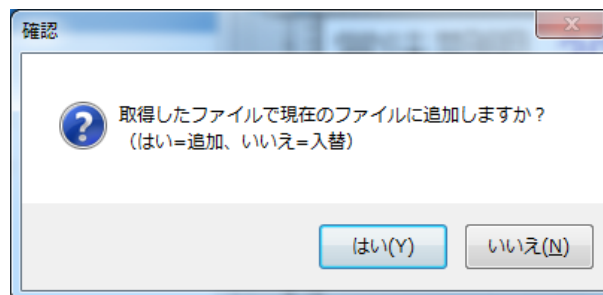


たとえば、一番上のファイルを開きたい場合は、開くボタンをクリックします。



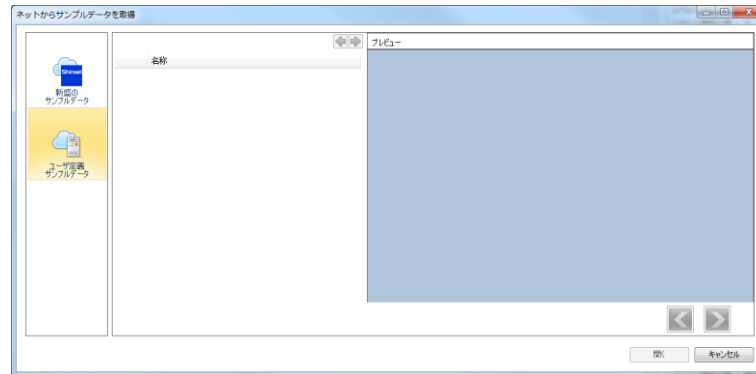
確認画面が表示されます。

今、開いているファイルにレイアウト追加する場合は、「はい」をクリックします。
「いいえ」をクリックすると、新規ファイルで開きます。

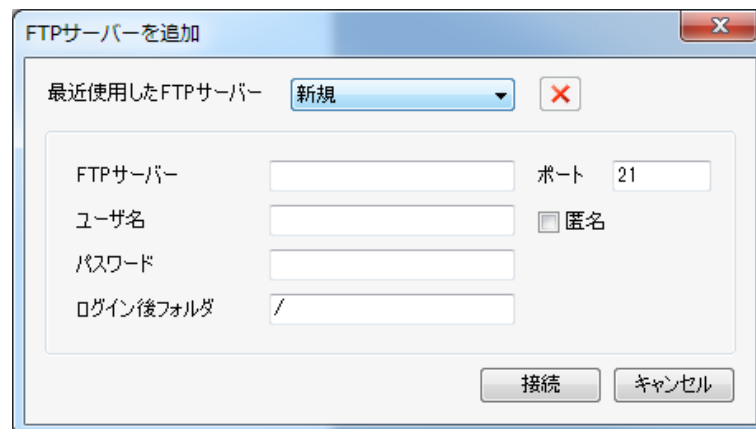


B ユーザ定義サンプルデータ

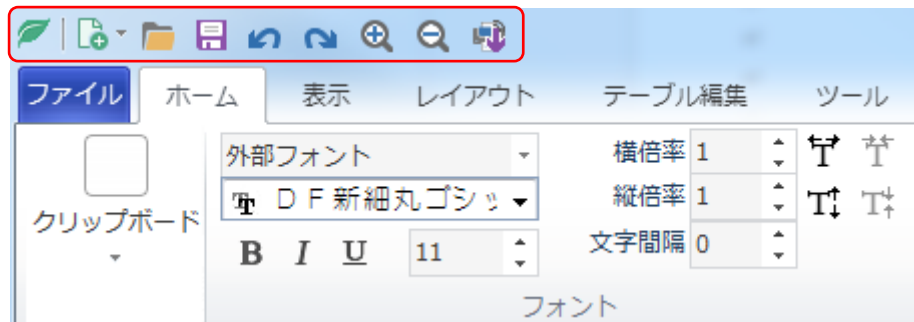
ユーザの FTP サーバーからユーザ定義サンプルデータを取得することができます。
ユーザ定義サンプルデータをクリックします。



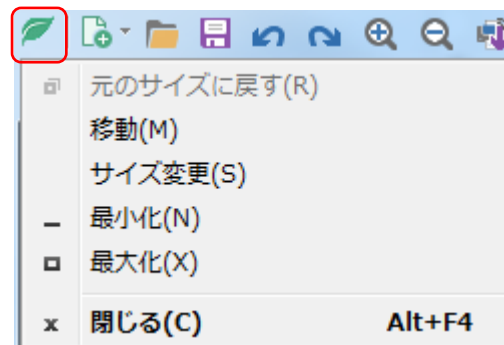
FTP サーバーを追加画面が表示されます。
※FTP サーバーの設定は、ネットワーク管理者にご相談ください。



第8章 クイックアクセスツールバー



1 DiPO アイコン



元のサイズに戻す ————— 最大化した DiPO Partner のウィンドウの大きさを元に戻します。

移動 ————— DiPO Partner 画面をマウスを使わずに矢印キーで移動することができます。

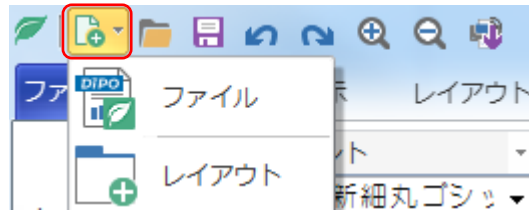
サイズ変更 ————— DiPO Partner 画面のサイズをマウスを使わずに矢印キーで変更することができます。

最小化 ————— DiPO Partner のウィンドウを最小化します。

最大化 ————— DiPO Partner のウィンドウを最大化します。

閉じる ————— DiPO Partner を終了します。

2 新規作成



(1) ファイル

ファイルを新規に作成することができます。

※メインツールバーのファイルからも同様の操作を行う事ができます。

※メインツールバーについては、[第7章 1－(1) 新規] の項目をご参照ください。

(2) レイアウト

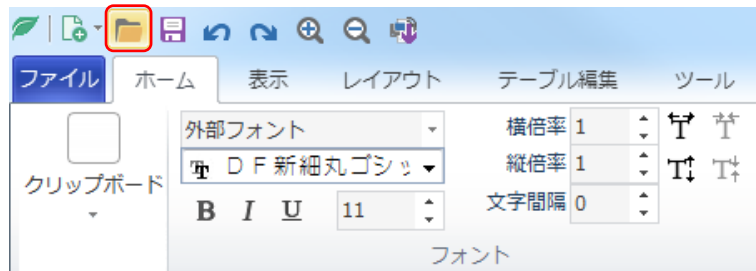
新しいレイアウトタブを現在のレイアウトタブの後ろに追加することができます。

※メインツールバーのファイルからも同様の操作を行う事ができます。

※メインツールバーについては、[第7章 1－(1) 新規] の項目をご参照ください。

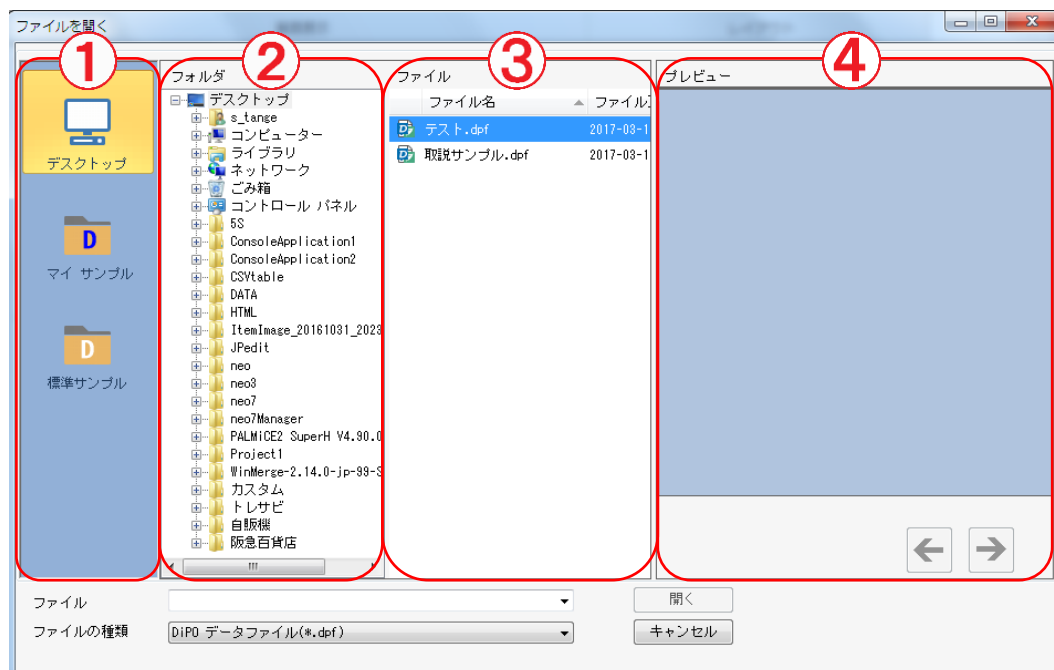
3 開く

既存のファイルを開くことができます。



クリックすると「ファイルを開く」ダイアログが表示されます。

開くファイルを選択してダイアログ下部の「開く」をクリックしてください。



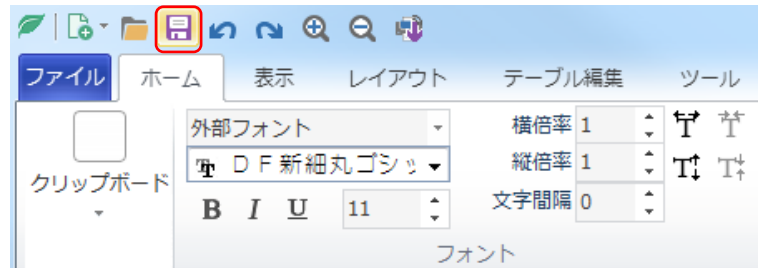
- ①分類エリア ----- ファイルの保存されているエリアを選択します。
 ファイルを探す場合は、「デスクトップ」を選択してください。
 ・デスクトップ：②のエリアにデスクトップが表示されます。
 ・マイサンプル：②及び③に Sample フォルダが表示されます。
 ・標準サンプル：②のエリアが無くなり、標準サンプルが表示されます。
- ②フォルダ選択エリア ---- ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- ③ファイル選択エリア ---- ②で選択したフォルダの内容が表示されます。
 開くファイルを選択します。
- ④レイアウトプレビュー -- ③で選択したファイルのレイアウトを確認できます。
 一つのファイルに複数のレイアウトが作成してある場合にはプレビューエリア下部の左右矢印ボタンをクリックする事で別のレイアウトをプレビューできます。

4 上書き保存

編集中のファイルを上書き保存します。

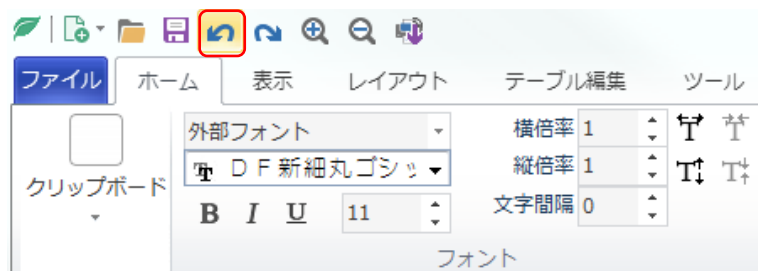
※メインツールバーのファイルからも同様の操作を行う事ができます。

※メインツールバーについては、[第7章 1－（1）新規]の項目をご参照ください。



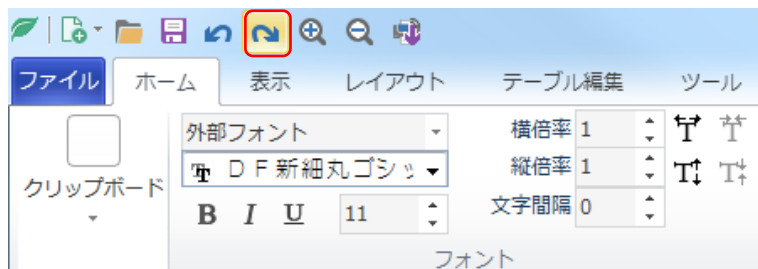
5 元に戻す

行った作業を一つ取り消す事ができます。



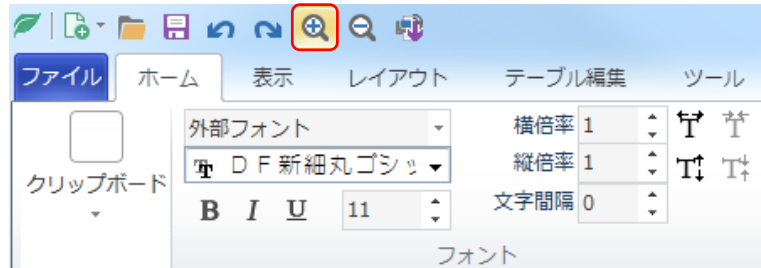
6 やりなおす

前項 [5. 元に戻す] で取り消した作業をもう一度行います。



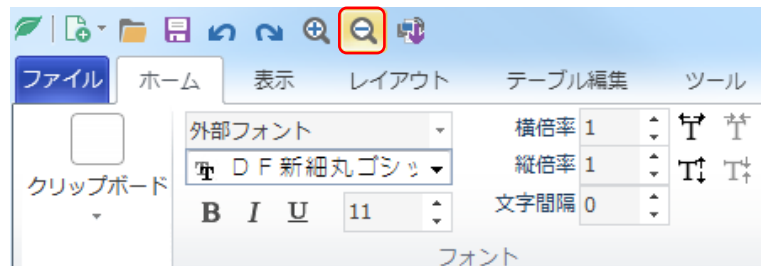
7 拡大

レイアウトエリアの表示を 10%刻みで拡大表示することができます。
※現在の拡大率はウィンドウ下部のステータスバーに表示されています。



8 縮小

レイアウトエリアの表示を 10%刻みで縮小表示することができます。
※現在の拡大率はウィンドウ下部のステータスバーに表示されています。



9 送信

DiPO Partner ファイルをD i P Oに送信します。
※メインツールバーのホームの送信でも同様に送信できます。
詳しくは、[第7章2 ホーム（6）通信]をご参照ください。

